

# 『ソーシャルキャピタルと移住者の就労、 生活、健康』調査報告書

科学研究費助成事業（2016年度～2019年度，特設分野，基盤B）  
「国際移動の実践科学：ソーシャルキャピタルと移住者の就労、  
生活、健康」（代表：小澤弘明）

2020年3月31日

# ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康に関する調査

## 1. 調査の概要

本調査は、日本学術振興会科学研費助成事業（2016年度～2019年度，特設分野，基盤B）「国際移動の実践科学：ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康」（代表：小澤弘明）の一環として行われた。外国から日本にきて、日本に滞在する人々は年々増加している。彼らが生活や就労にあたって、また健康面において安心して生活できるような社会的システムを構築する目的で実施した。

### （1）調査対象

日本の国籍を持っていない方、または、日本国籍を持っているが、中学まで日本以外で教育を受けていた方（20歳以上）

### （2）調査時期

2018年9月～12月

### （3）調査方法

調査票の作成においては、ソーシャルキャピタルと健康の関連について研究を実施している、日本老年学的評価研究（Japan Gerontological Evaluation Study：JAGES）の調査票をもとに作成した。作成にあたっては、JAGESの代表である千葉大学予防医学センター近藤克則教授、宮國康弘特任研究員（現、国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部 研究員）、佐々木由理特任助教（現、国立保健医療科学院国際協力研究部 主任研究官）の協力を得た。調査票作成のためのワーキンググループを設定し、看護学、社会学、社会福祉学の観点から議論し、概念や定義の調整等を実施した。なお、「移住者」という対象を調査する際にとりわけ必要と思われる項目について考慮し、追加・修正を行った。

日本語をベースに作成した調査票は、15か国語（アラビア、インドネシア、英、韓国、スペイン、タイ、タガログ、中国、トルコ、ネパール、フランス、ベトナム、ペルシャ、ポルトガル、ミャンマー）に翻訳した。翻訳した調査票を用い、ウェブ調査と質問紙の配布による調査を実施した。ウェブ調査は8か国語（インドネシア、英、スペイン、タガログ、中国、日本、ネパール、ベトナム）の専用URLを開設し、質問紙は、東京・埼玉・千葉を中心に、18箇所で538部を配布した。

研究に協力することにより研究対象者に生じる不利益や苦痛への対処として、①調査によって約30分の時間的拘束が生じること、②調査への不参加、中途辞退、特定の質問への回答拒否が可能であり、それによって不利益が生じないこと、③回答してもらうことで本調査への同意とみなすこと、④質問によって経験した困難さを思い出し心身に不具合を生じる恐れがあること、⑤本調査によりPTSD（Post-Traumatic Stress Disorder; 心的外傷後ストレス障害）など心身に不具合を生じる恐れがある者には、本研究へ参加しないようにすること、の主に5点を事前に文書にて説明した。インターネット調査の場合には、説明に同意することなく先の質問項目へと進むことのできない設計とした。

なお、本調査を実施するにあたり、千葉大学国際教養学部倫理審査委員会の審査を受けている。

#### (4) 回収結果

総回答数 : 216 人 (ウェブ調査 63 人 質問紙配布調査 153 人)

有効回答数 : 169 人

総回答数は 216 人であったが、調査対象外の回答者 (20 歳未満、中学までの教育を日本で受けた者等) や回答が不十分なことにより分析の対象とはできない回答者を除き、169 人を有効回答数とした。なお、分析については、宮國康弘特任研究員 (現、国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部 研究員)、佐々木由理特任助教 (現、国立保健医療科学院国際協力研究部 主任研究官) の協力を受け、本報告書作成においては、株式会社バルクの協力を得た。

#### (5) 研究調査メンバー

本研究は、採択時よりメンバーの増減を経ているが、最終的には下記研究者による共同研究である (2020 年 3 月現在)。

代表 : 小澤弘明 (千葉大学国際教養学部教授)

赤崎美冬 (国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター外来研究員)

五十嵐洋己 (千葉大学国際教養学部助教)

伊藤尚子 (山陽学園大学看護学部准教授)

後藤弘子 (千葉大学大学院社会科学研究院教授)

崎山直樹 (千葉大学国際教養学部講師)

佐々木綾子 (千葉大学国際教養学部講師)

周飛帆 (千葉大学国際教養学部准教授)

福田友子 (千葉大学国際教養学部准教授)

水島治郎 (千葉大学大学院社会科学研究院教授)

研究協力者 : 近藤克則 (千葉大学予防医学センター教授)

佐々木由理 (現、国立保健医療科学院国際協力研究部 主任研究官)

宮國康弘 (現、国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部研究員)

その他協力 :

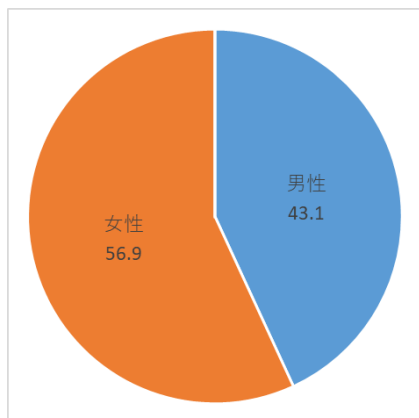
株式会社クロス・マーケティング、株式会社グローヴァ、株式会社トランス・ブリッジ、CST Support、アキバリ・フーリエ氏、キンバリー・ヒューズ氏、都築則彦氏

## 2. 調査結果

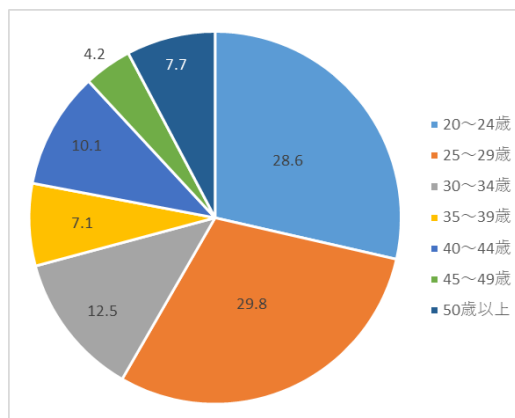
### (1) 回答者プロフィール

#### ① 基本属性

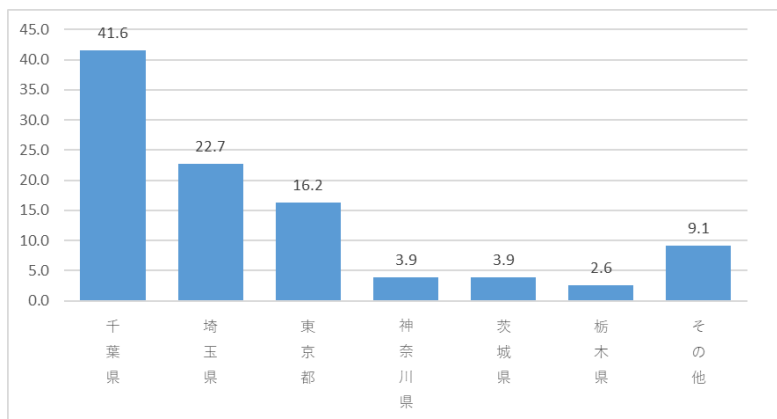
Q4 性別 (n=167)



Q5 年齢 (n=168)



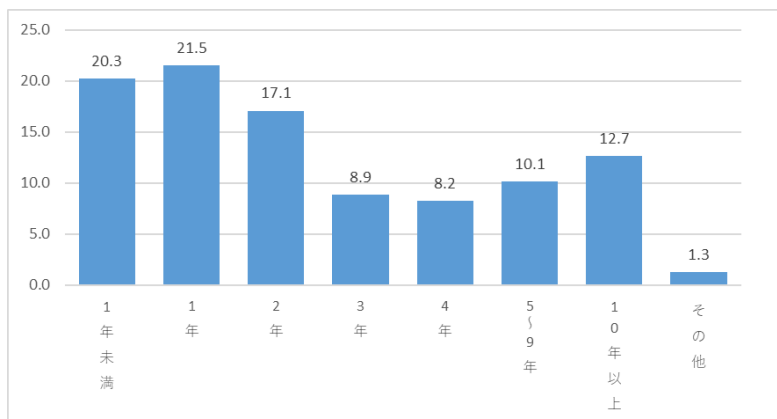
Q24 現在の居住地 (n=154)



※その他：

群馬県、山梨県、新潟県、愛知県、石川県、福井県、滋賀県、京都府、兵庫県、鹿児島県

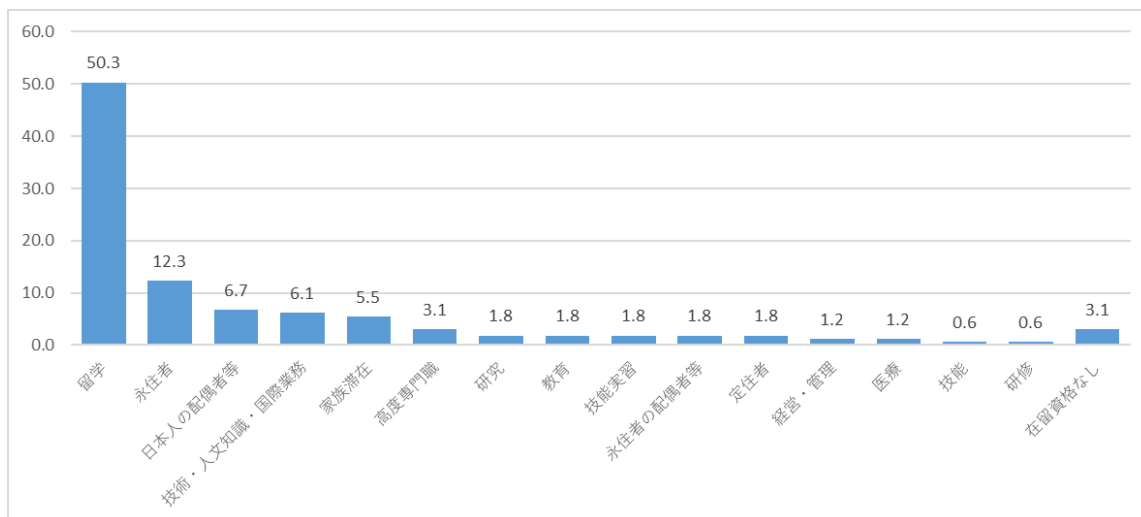
Q25 現居住地の居住年数 (n=158)



② 在留資格

Q6 現在のあなたの在留資格を教えてください。(n=163)

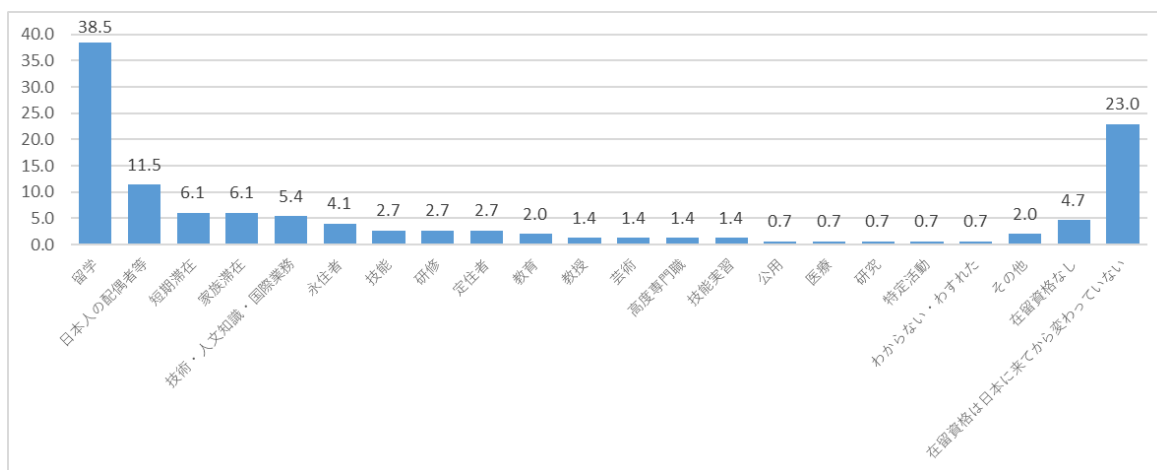
- 「留学」が50.3%と過半数を超え突出する結果となった。以下、「永住者(12.3%)」「日本人の配偶者等(6.7%)」が続く。



Q9 過去のあなたの日本における在留資格に当てはまるものすべて選択してください。

(n=148) ※複数回答

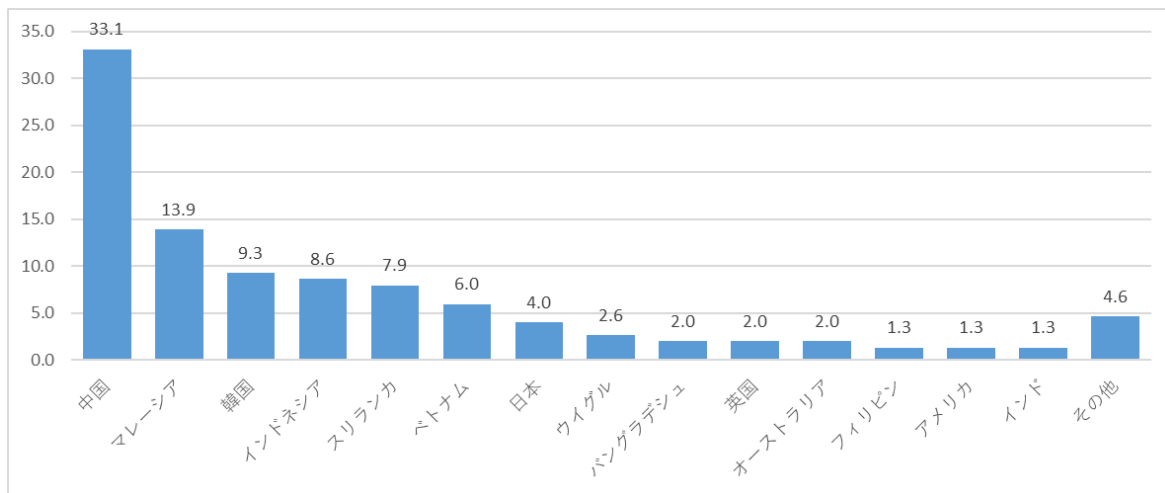
- 「留学」が38.5%と突出して多く、次いで「日本人の配偶者等(11.5%)」「短期滞在(6.1%)」「家族滞在(6.1%)」の順となった。



③ 国籍

Q10 あなたの現在の国籍を下記に全て記入してください。(n=151)

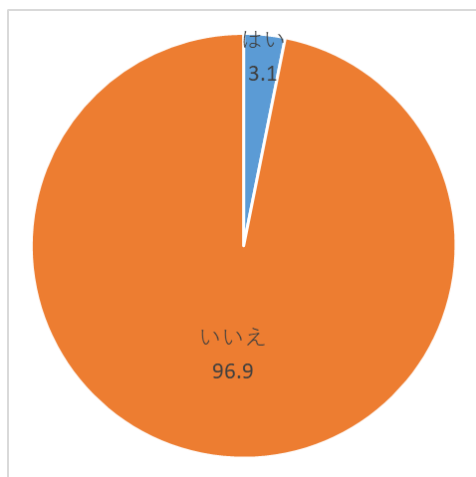
- 「中国」が33.1%で最も多く、次いで「マレーシア(13.9%)」「韓国(9.3%)」の順となった。



※その他：イラク、カナダ、コロンビア、コソヴォ、ジンバブエ、セネガル、台湾

Q11 今までにあなたは帰化等のために国籍を変更したことがありますか。(n=159)

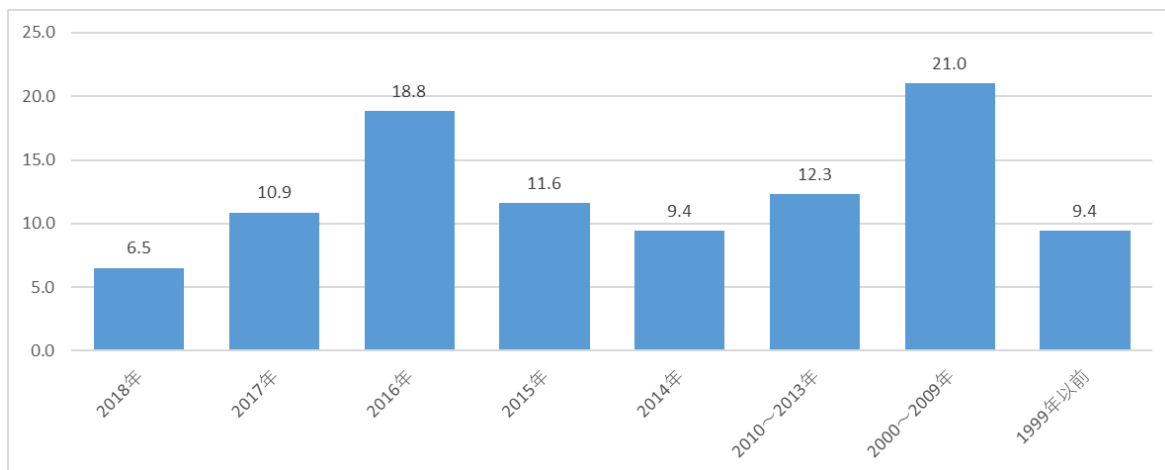
- 帰化等のために国籍を変更したことがある人は3.1%であった。



④ 来日

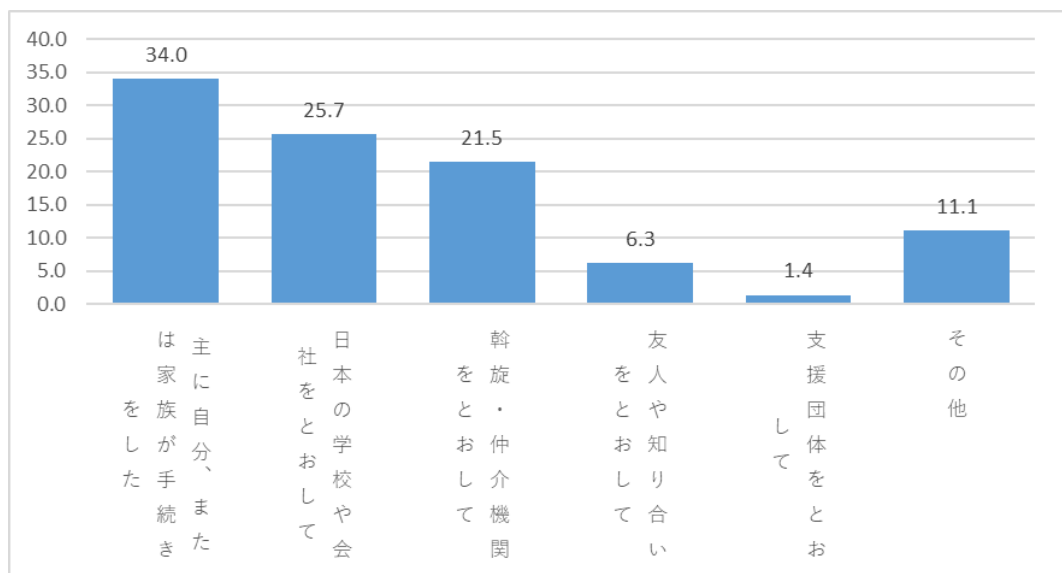
Q13 あなたが初来日した年を西暦で教えてください。(n=138)

- 約6割(57.2%)が直近5年(2014年から2018年)での初来日という結果となった。その中では2016年(3年前)が18.8%で最も多い。



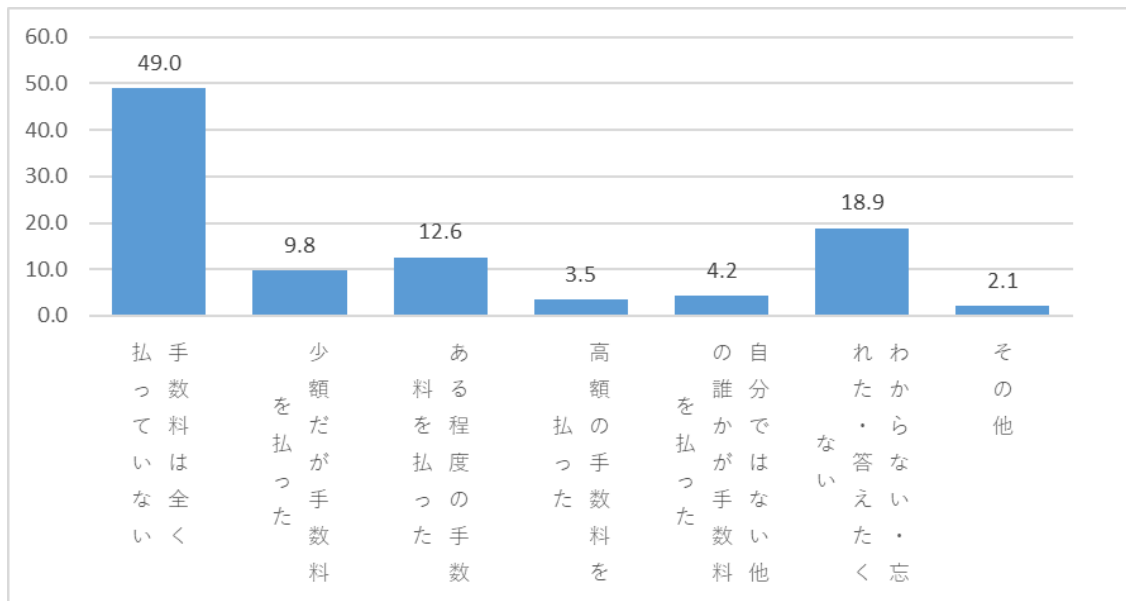
Q14 あなたはこれまでの来日の手続きを主にどのように行いましたか。(n=144)

- 「主に自分、または家族が手続きをした」が34.0%で最も多く、次いで「日本の学校や会社をとおして(25.7%)」「斡旋・仲介機関をとおして(21.5%)」と続く。



Q15 今まで来日の手続きに斡旋・仲介手数料はどの程度発生しましたか。(n=143)

- 何らかの方法で手数料を払ったのは約3割で、約半数の49.0%が「手数料は全く払っていない」と回答した。



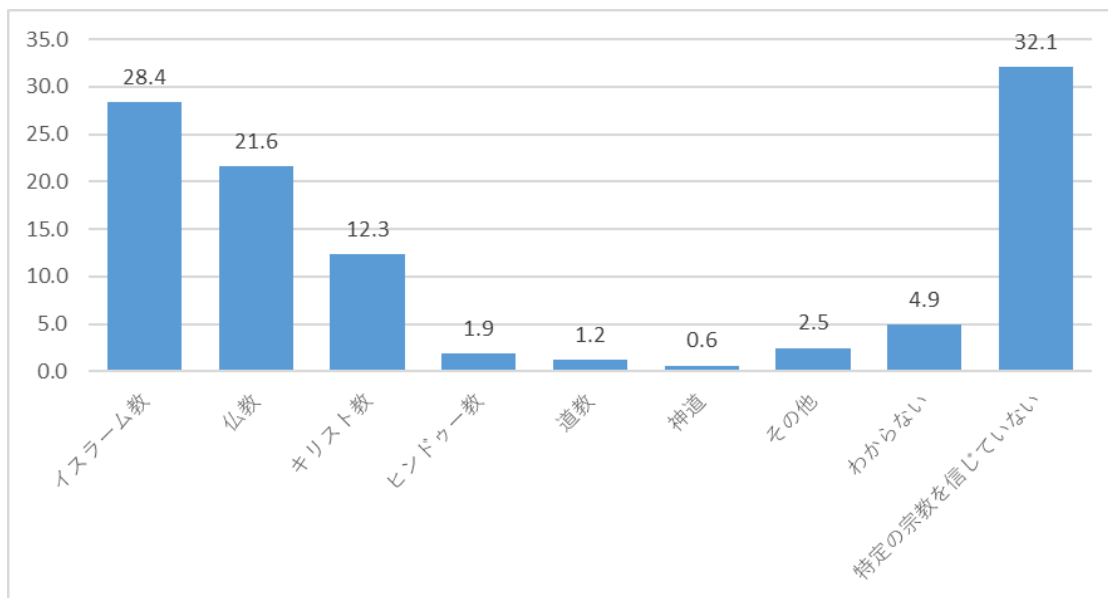


⑤ 信仰

Q16 あなたの信仰する宗教はどれですか。当てまるものすべて選択してください。(n=162)

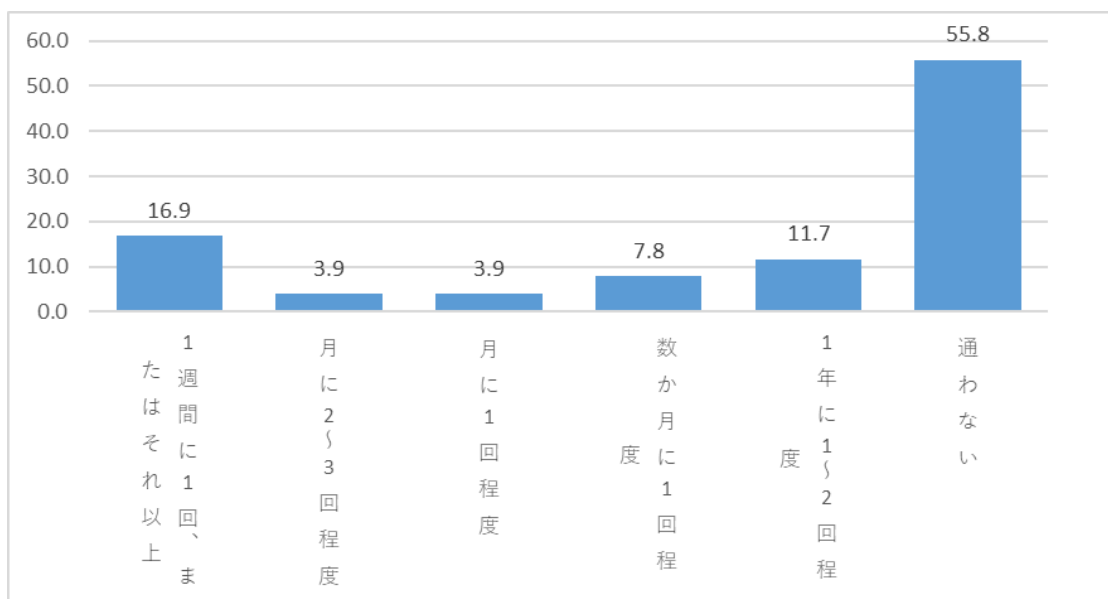
※複数回答

- 「イスラーム教 (28.4%)」「仏教 (21.6%)」「キリスト教 (12.3%)」の順で多く、「特定の宗教を信じていない」は約3割 (32.1%) となった。



Q17 あなたは日本で宗教施設にどの程度通っていますか。(n=154)

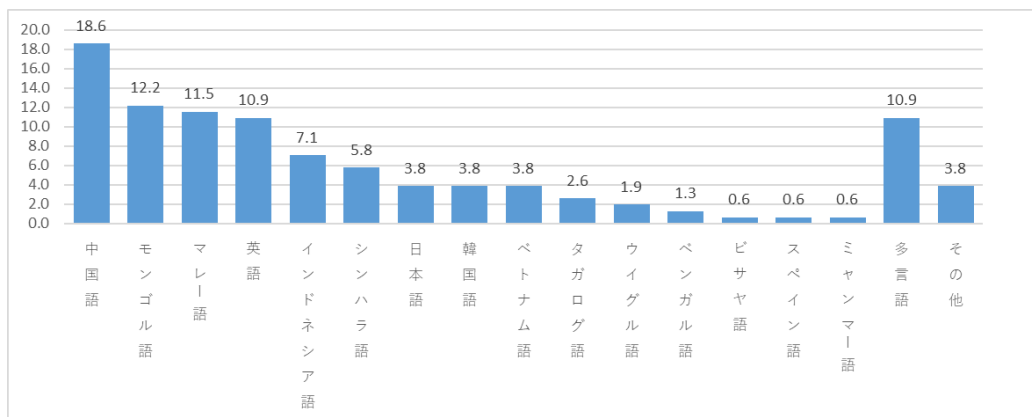
- 「通わない」が55.8%で最も多い。一方、1年に1回以上通うと回答した人は44.2%で、その中では「1週間に1回、またはそれ以上」が16.9%で多い。



## ⑥ 言語

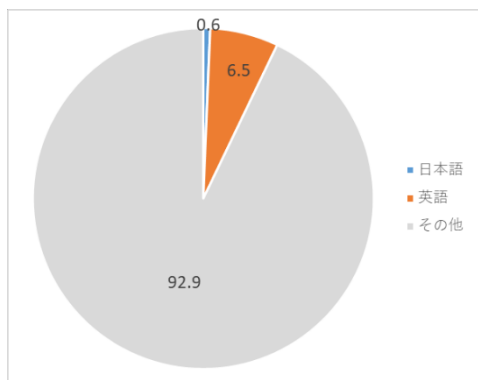
Q18 あなたが自分の気持ちを最も的確に伝えることができる言語はなんですか。(n=156)

- 「中国語 (18.6%)」「モンゴル語 (12.2%)」「マレー語 (11.5%)」「英語 (10.9%)」の順が多い。



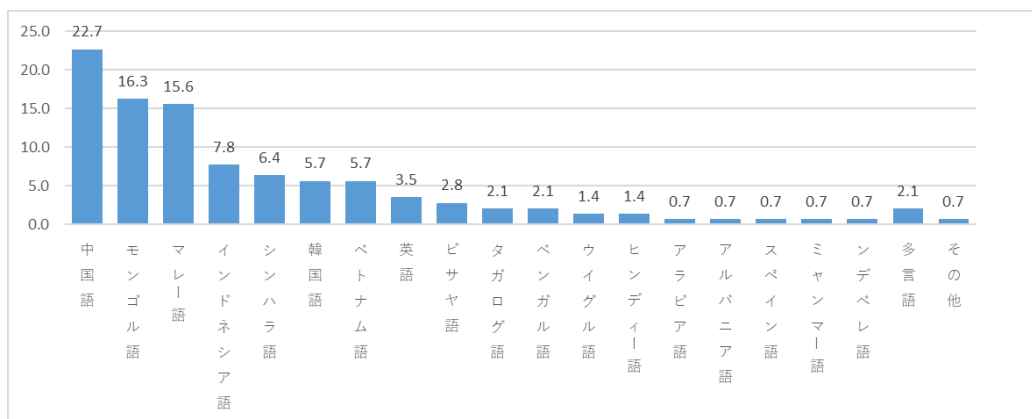
※多言語：モンゴル語&中国語、日本語&ベトナム語、シンハラ語&英語、ヒンディー語&英語、モンゴル語&英語、英語&タガログ語、インドネシア語&本語、英語&マレー語、英語&ビサヤ語&タガログ語&日本語、タガログ語&英語&日本語、アラビア語&英語、アルバニア語&ドイツ語&英語、ウイグル語&日本語

Q19 親や祖父母が最もよく使う言語はなんですか。(n=154)



Q20 Q19で「その他」と選んだ方に質問です。その言語はなんですか。(n=141)

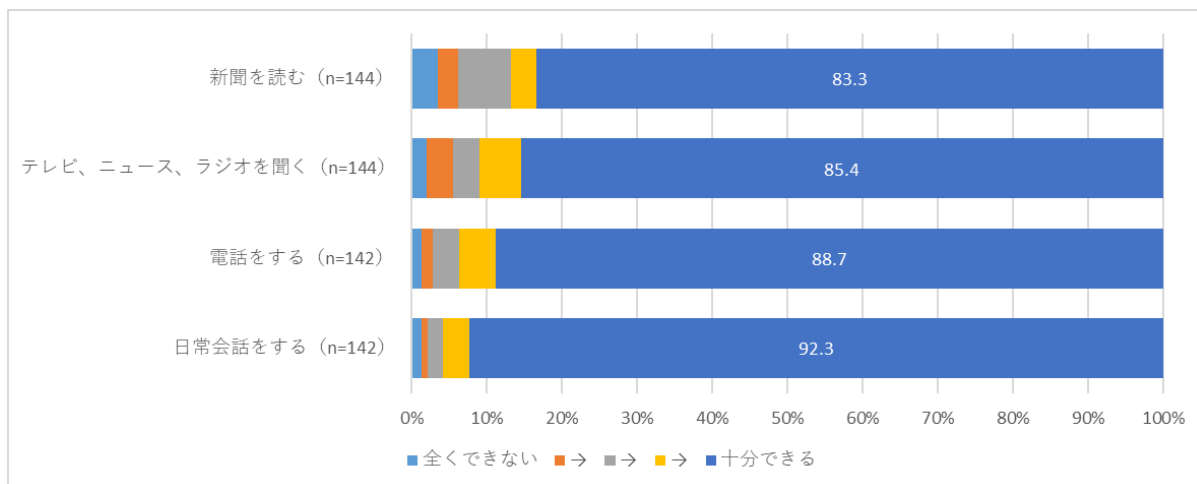
- 自身の言語 (Q18) と同じく、中国語、モンゴル語、マレー語の順が多い。



※多言語：  
中国語&台湾語、  
イタリア語&シンハラ語、  
タガログ語&ビサヤ語

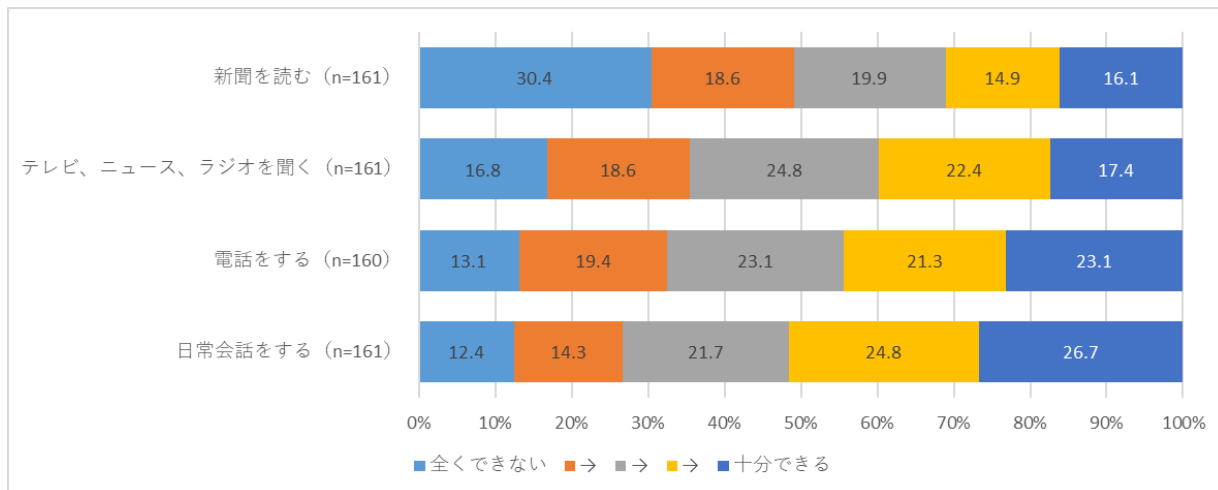
**Q21 親や祖父母が最もよく使う言語について、あなたの能力はどのくらいですか。**

- どの行為においても「十分できる」が8割を超える結果となった。中でも『日常会話をする』が92.3%と最も高い。



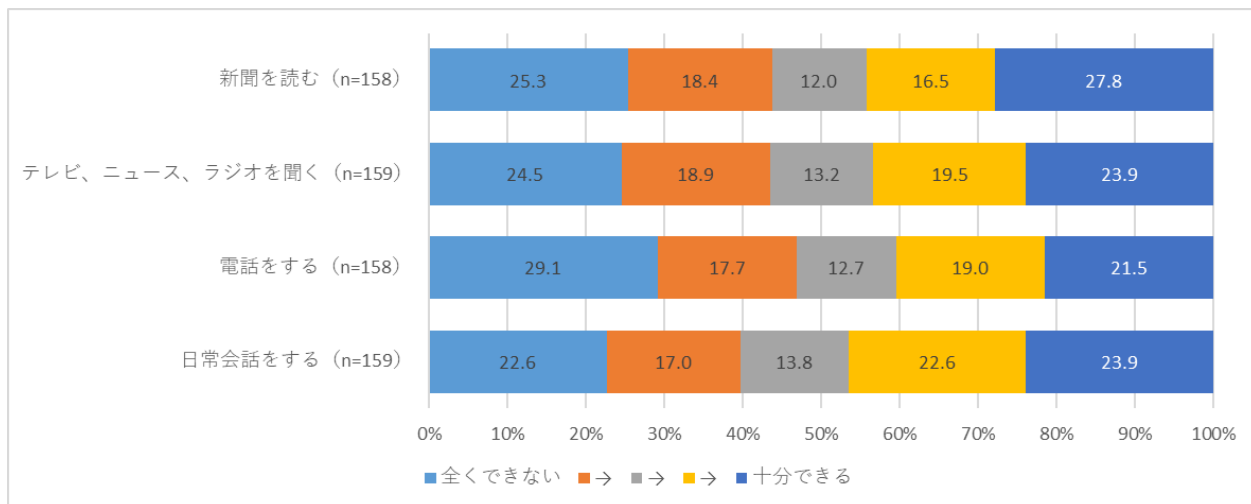
**Q22 あなたの日本語の能力はどのくらいですか。**

- 日本語の能力は『日常会話をする』『電話をする』『テレビ、ニュース、ラジオを聞く』『新聞を読む』の順で高い傾向にある。
- 「全くできない」が最も高いのは『新聞を読む』で30.4%となった。



**Q23 あなたの英語の能力はどのくらいですか。**

- 日本語の能力とは傾向が異なり、『電話をする』が最も低く『日常会話をする』が最も高い結果となった。
- 日本語の能力で最も低かった『新聞を読む』は「十分できる」が27.8%と4つの行為の中で最も高い。ただし「全くできない」が25.3%と4行為中2番目に高いことから、能力が二極化していると思われる。

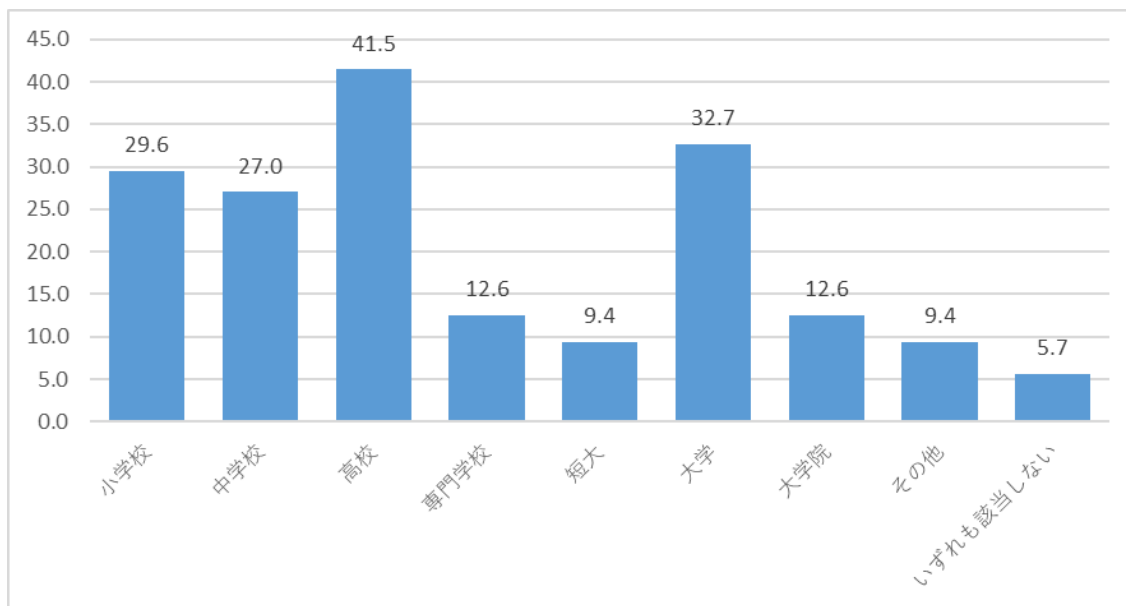


⑦ 就学

Q26 あなたは日本国外でどの学校を卒業しましたか。当てまるものすべて選択してください。

(n=159) ※複数回答

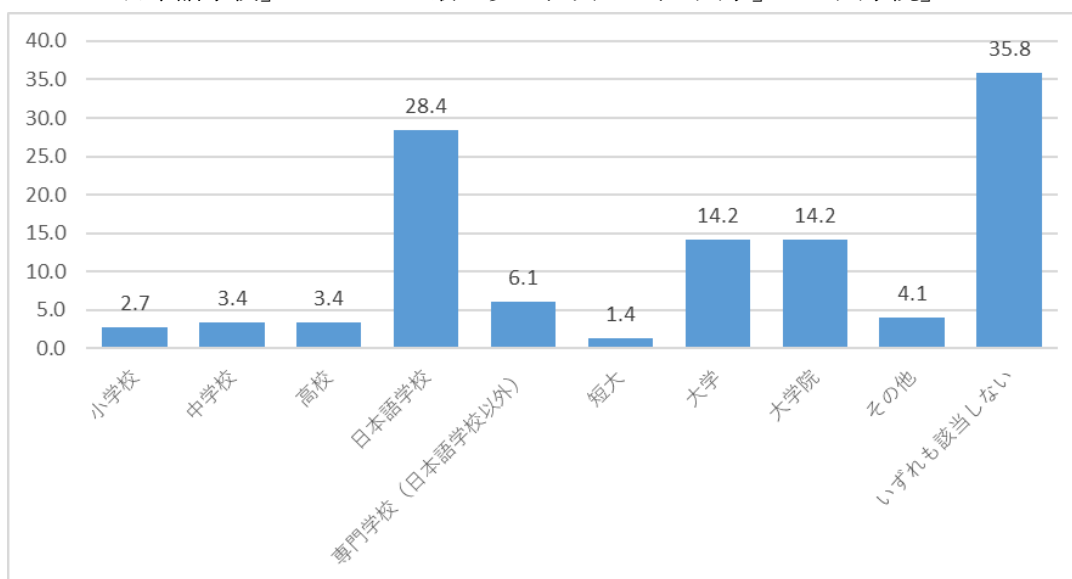
- 「高校」が41.5%で最も多く、次いで、「大学(32.7%)」「小学校(29.6%)」の順となった。



Q27 あなたは日本でどの学校を卒業しましたか。当てはまるものすべて選択してください。

(n=148) ※複数回答

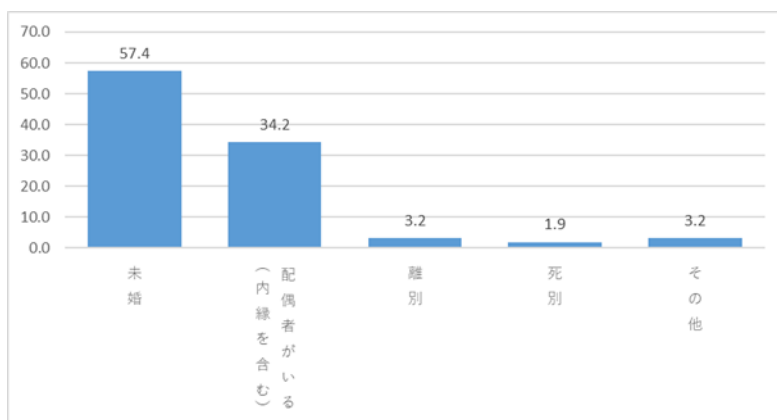
- 「日本語学校」が28.4%で最も多く、次いで、「大学」と「大学院」が14.2%で続く。



⑧ 家庭・家族

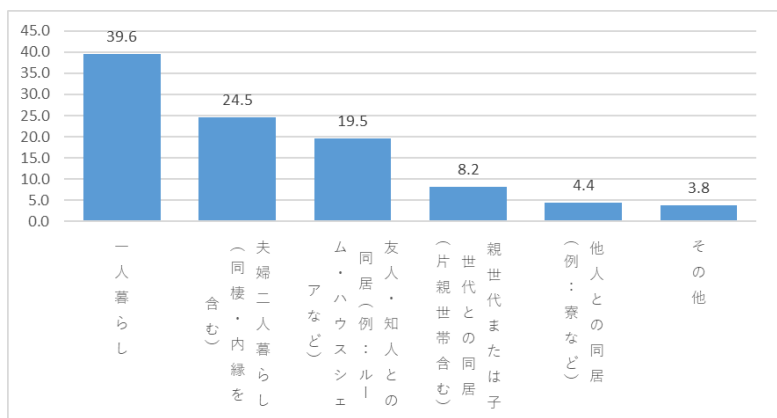
Q28 あなたの婚姻状態は、次のうちのどれにあてはまりますか。(n=155)

- 「未婚」が57.4%で最も多く、次いで「配偶者がいる」が34.2%で続く。



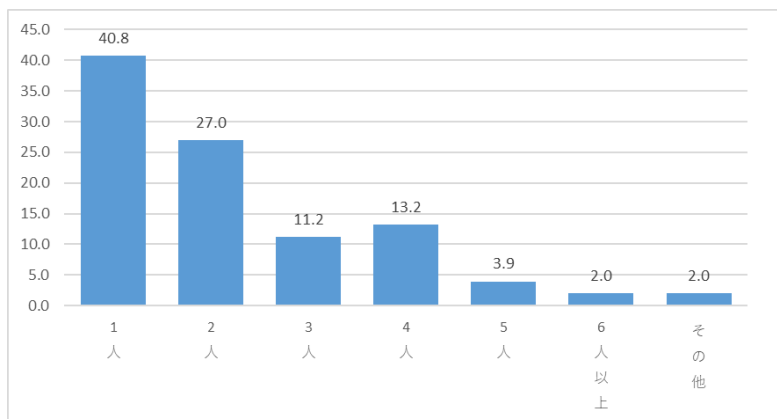
Q29 あなたの現在の日本における居住形態を教えてください。(n=159)

- 「一人暮らし」が39.6%で最も多く、次いで「夫婦二人暮らし (24.5%)」「友人・知人との同居 (19.5%)」の順が多い。



Q30 現在ご自身を含めて何人で暮らしていますか。(n=152)

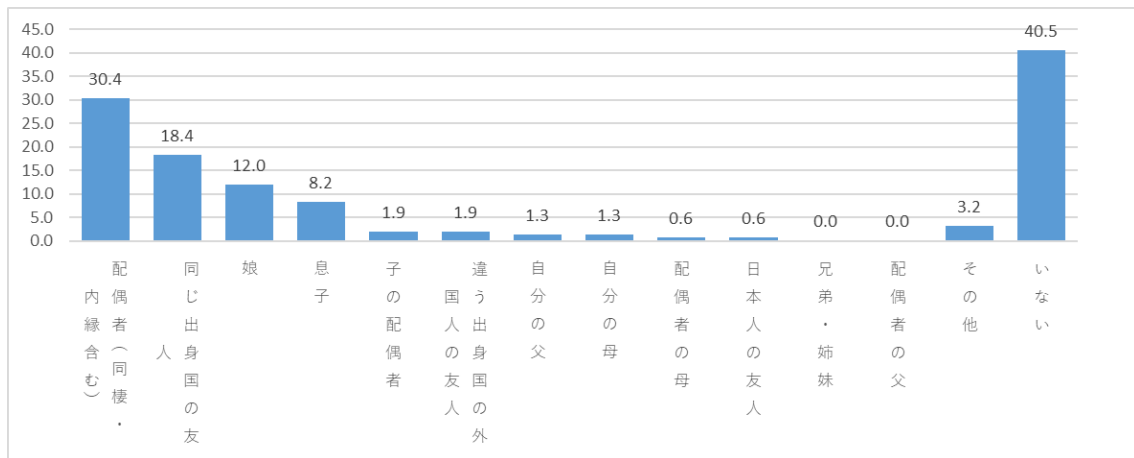
- 「1人」が40.8%で最も多く、次いで「2人 (27.0%)」「4人 (13.2%)」の順が多い。



Q31 あなたと現在同居されている方はどなたですか。当てはまる方すべて選択してください。

(n=158) ※複数回答

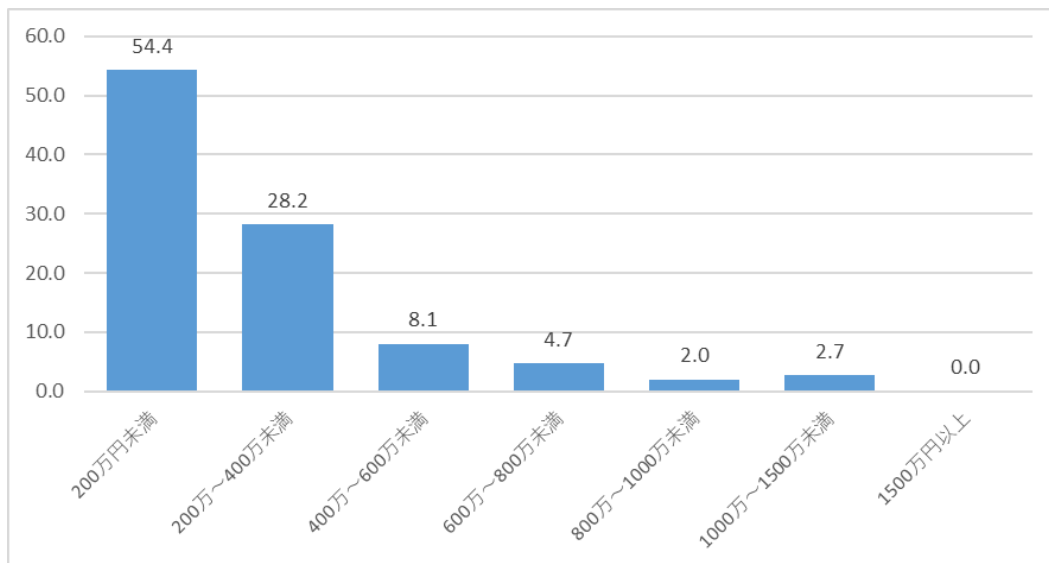
- 「配偶者」が 30.4%で最も多く、次いで「同じ出身国の友人 (18.4%)」「娘 (12.0%)」「息子 (8.2%)」の順が多い。



Q32 あなたを含め同居しているご家族全体でだいたいどれくらいの税込収入がありますか。

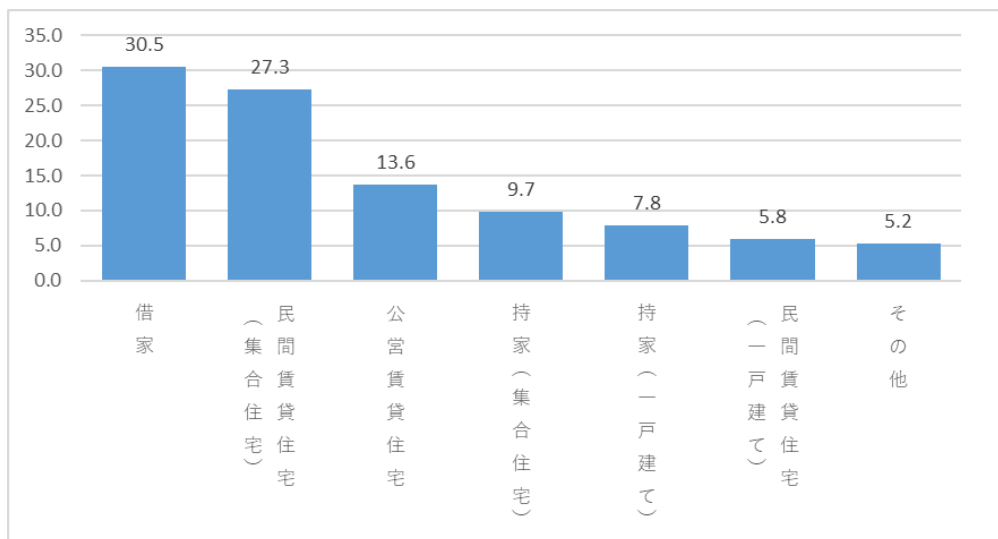
(n=149)

- 「200万円未満」が 54.4%で最も多い。次いで「200万～400万未満」が 28.2%と多く、合計すると 72.6%で7割を超える結果となった。



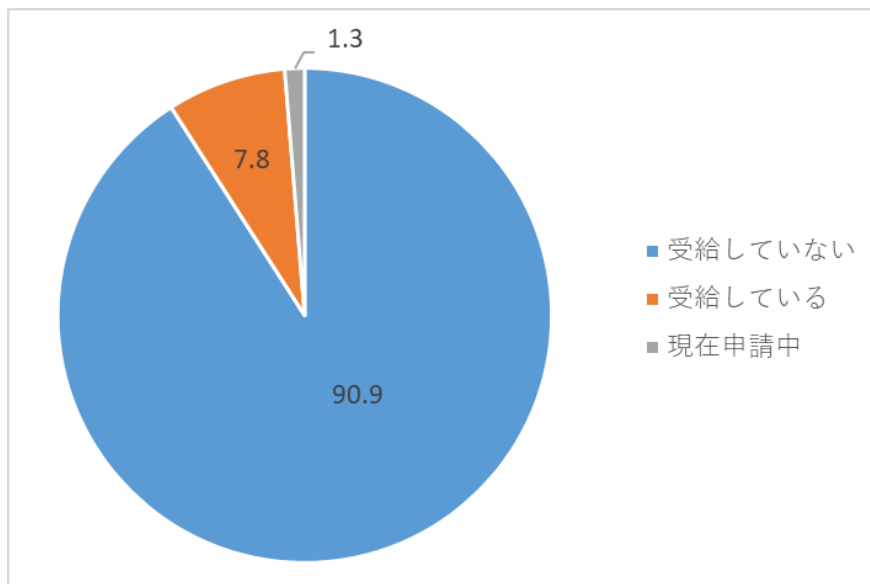
**Q33 あなたが住んでいる住宅の種類はどれですか。(n=154)**

- 「借家」が30.5%で最も多く、次いで「民間賃貸住宅（集合住宅）」が27.3%で続き、合わせて57.8%となり過半数を超える結果となった。



**Q34 あなたは現在、生活保護を受給していますか。(n=154)**

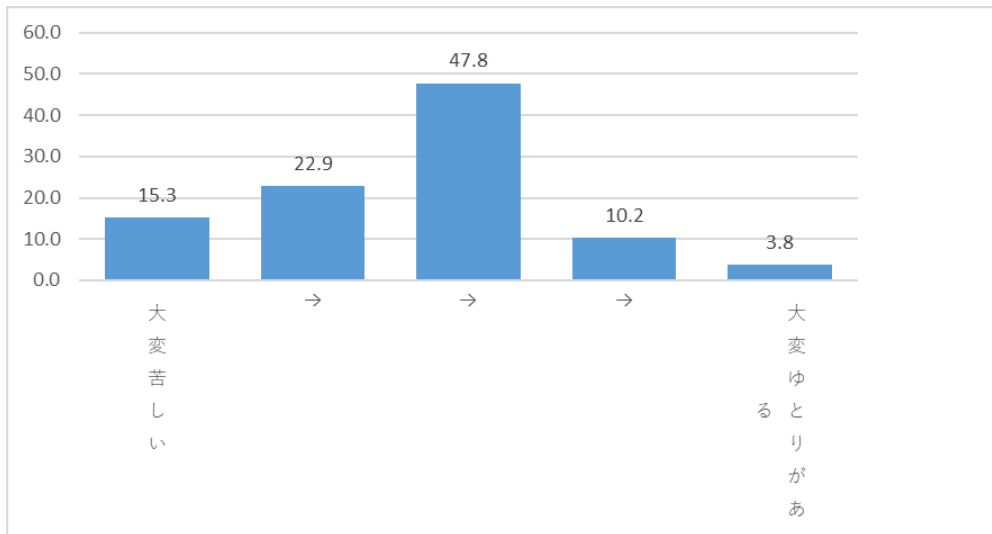
- 生活保護を「受給している」のは7.8%で、「現在申請中（1.3%）」を含めても9.1%と1割に満たない結果となった。





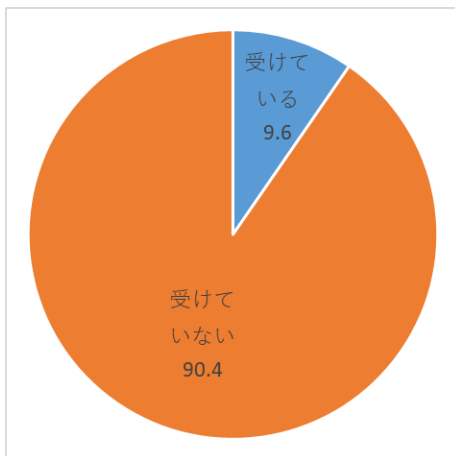
**Q35 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。(n=157)**

- 「大変苦しい」とその次の層を含めた割合は 38.2%となり、約 4 割が苦しい経済状況であることが窺える。



**Q36 あなたは現在、行政や NGO/NPO などから現金や物品の支援を受けていますか。(n=156)**

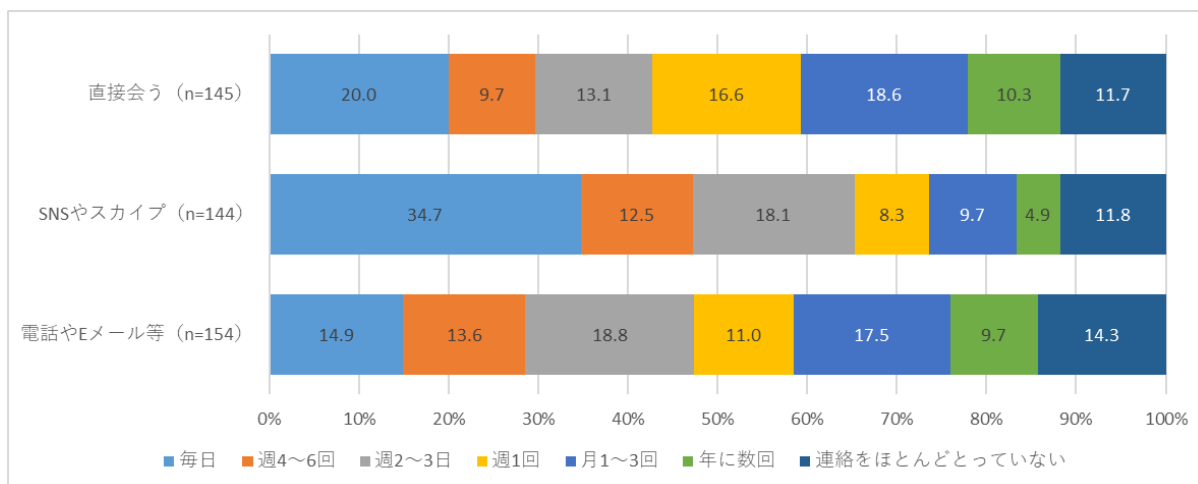
- 支援を受けている割合は 1 割弱となった。



## (2) 人とのつきあい

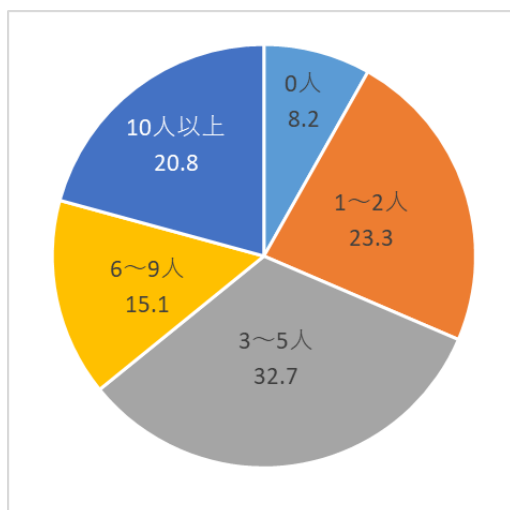
Q38 友人・知人と以下の手段で連絡をどの程度とっていますか。

- 『SNS やスカイプ』が最も頻度が高い結果となった。特に「毎日」が34.7%と他の手段と比べて高い。
- 『直接会う』は「週1回以上」や「月1回以上」といった単位で見ると『電話やEメール等』と同程度だが、「毎日」や「週1回」が多い傾向にある。



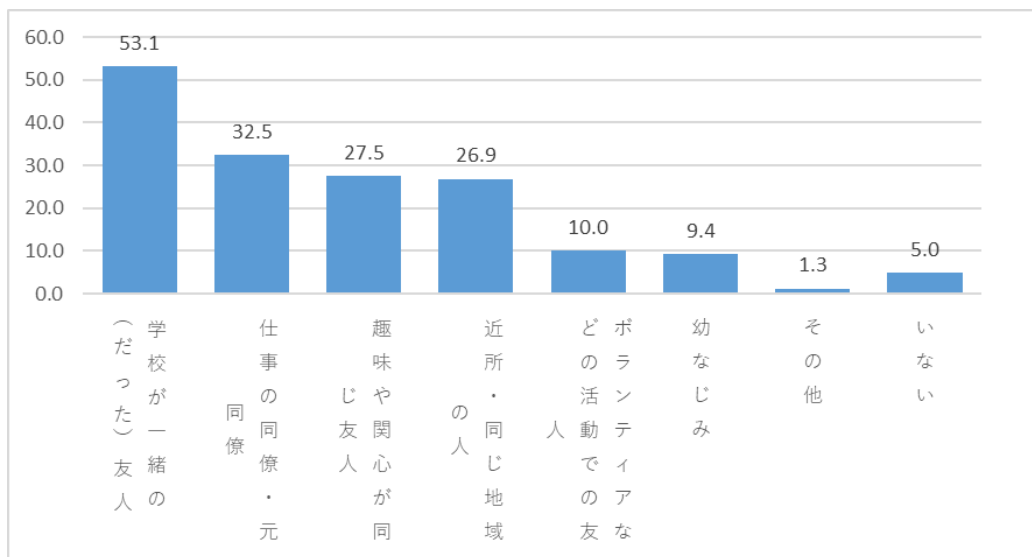
Q39 この1か月間、何人の友人・知人と会ったり、連絡を取ったりしましたか。(n=159)

- 「3~5人」が32.7%で最も多く、次いで「1~2人(23.3%)」「10人以上(20.8%)」の順が多い。



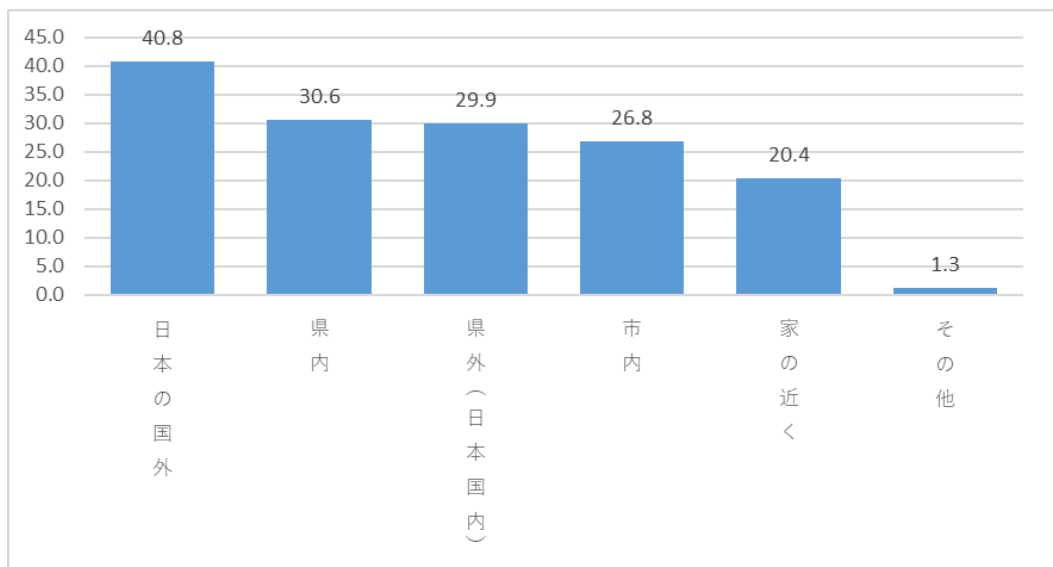
**Q40 よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。(n=160) ※複数回答**

- 「学校が一緒の(だった)友人」が 53.1%で最も多く、次いで「仕事の同僚・元同僚(32.5%)」「趣味や関心が同じ友人 (27.5%)」の順が多い。



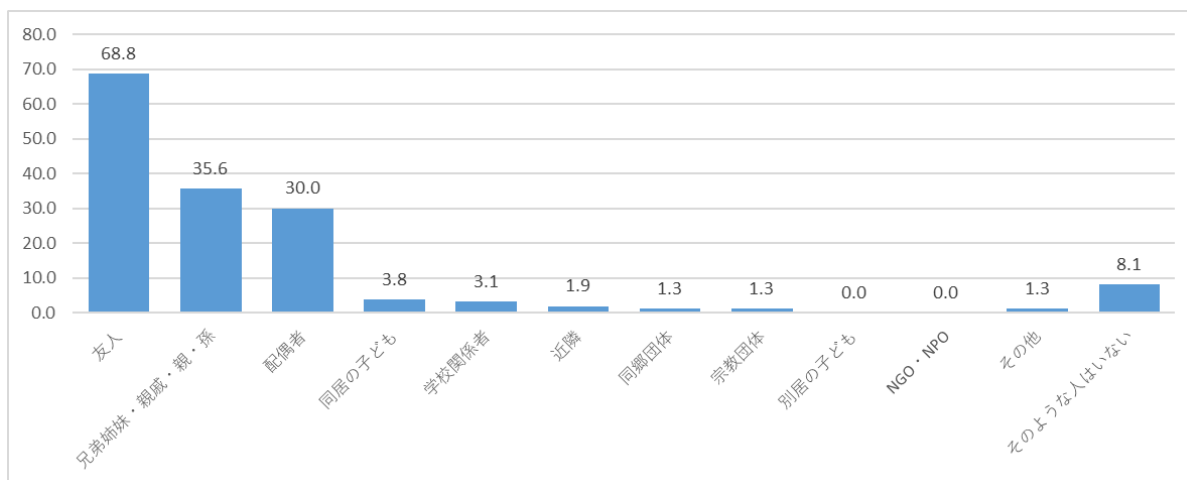
**Q41 よく連絡を取る友人・知人が近くに居住していない場合、その方はどこに居住していますか。(n=157) ※複数回答**

- 「日本の国外」が 40.8%で最も多く、次いで「県内 (30.6%)」「県外 (29.9%)」の順が多い。



**Q42 あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。（n=160） ※複数回答**

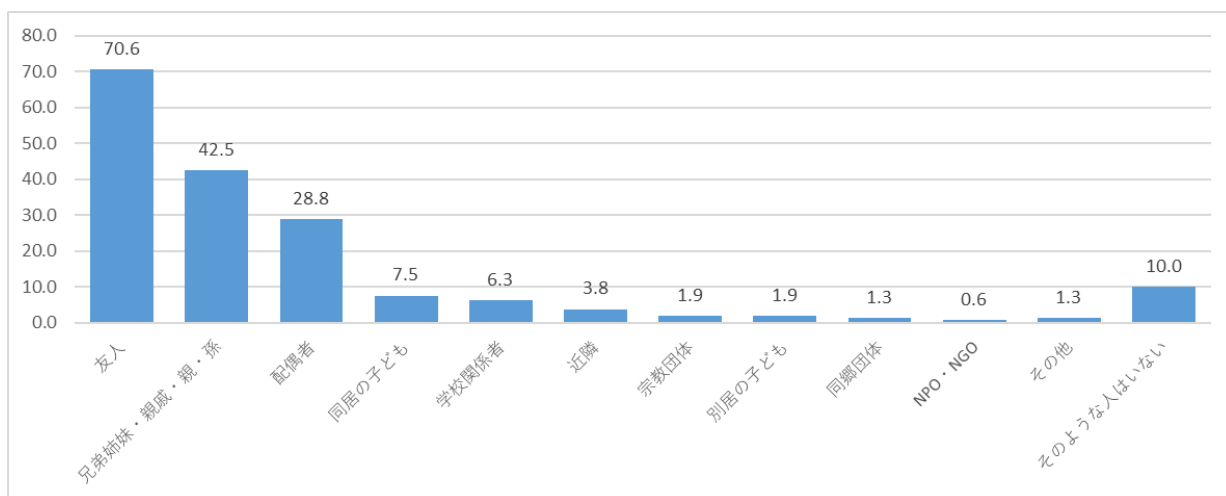
- 「友人」が68.8%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫(35.6%)」「配偶者(30.0%)」の順が多い。



**Q43 反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。（n=160）**

※複数回答

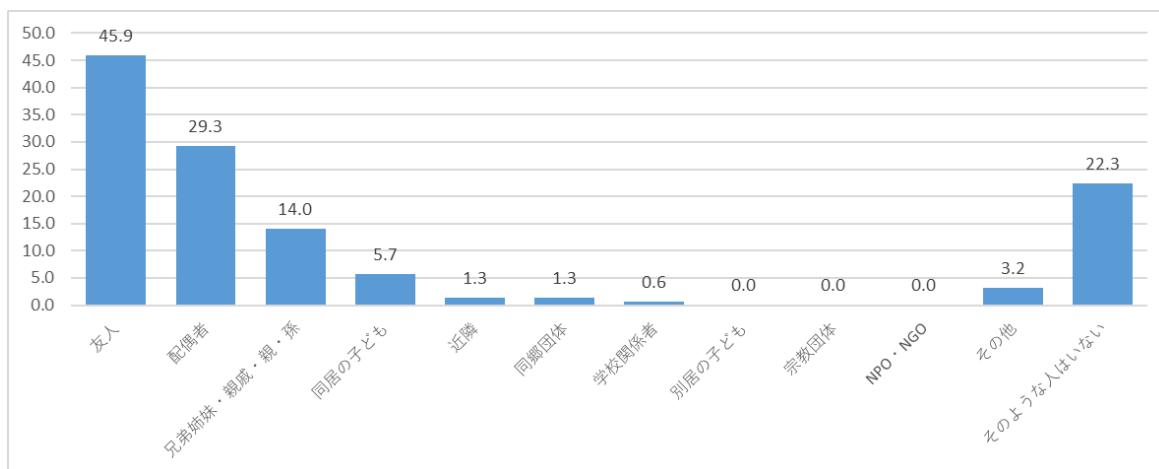
- 『聞いてくれる人』と同じく「友人」が70.6%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫 (42.5%)」「配偶者 (28.8%)」の順が多い。



**Q44 あなたが病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人はいますか。(n=157)**

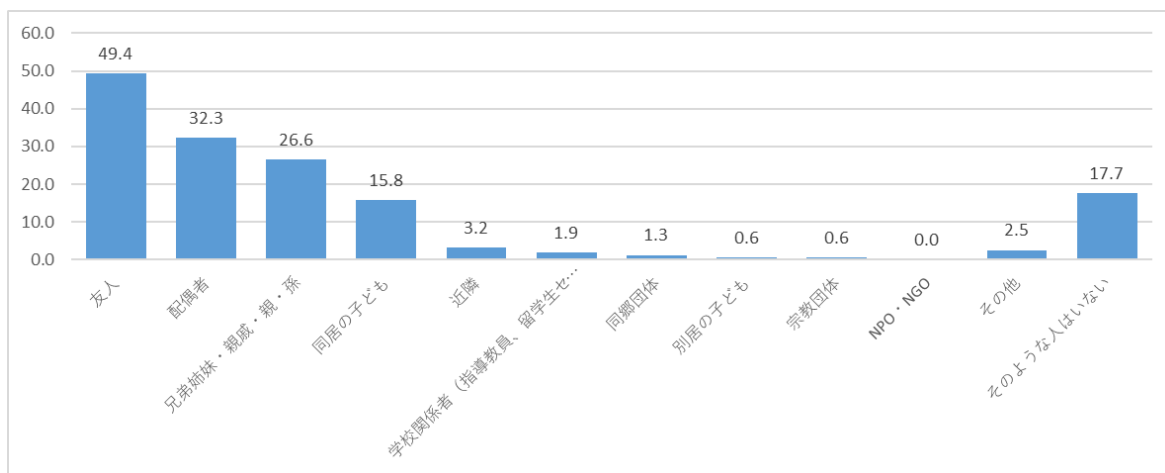
※複数回答

- 「友人」が45.9%で最も多く、次いで「配偶者(29.3%)」「兄弟姉妹・親戚・親・孫(14.0%)」の順が多い。



**Q45 反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。(n=158) ※複数回答**

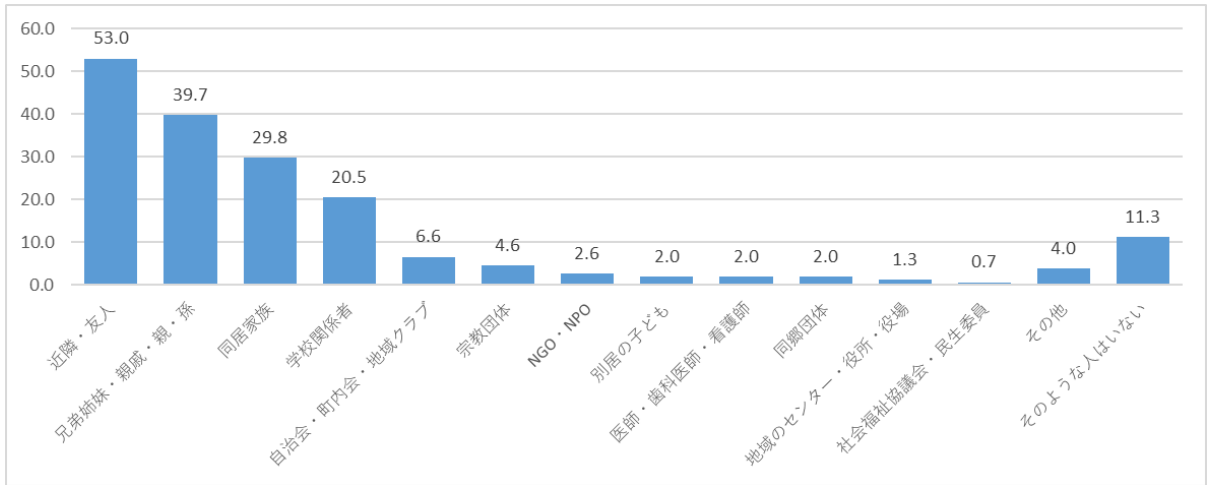
- 「友人」が49.4%で最も多く、次いで「配偶者(32.3%)」「兄弟姉妹・親戚・親・孫(26.6%)」の順が多い。



Q46 あなたに何か困りごとがあったときに相談できる人や窓口はありますか。(n=151)

※複数回答

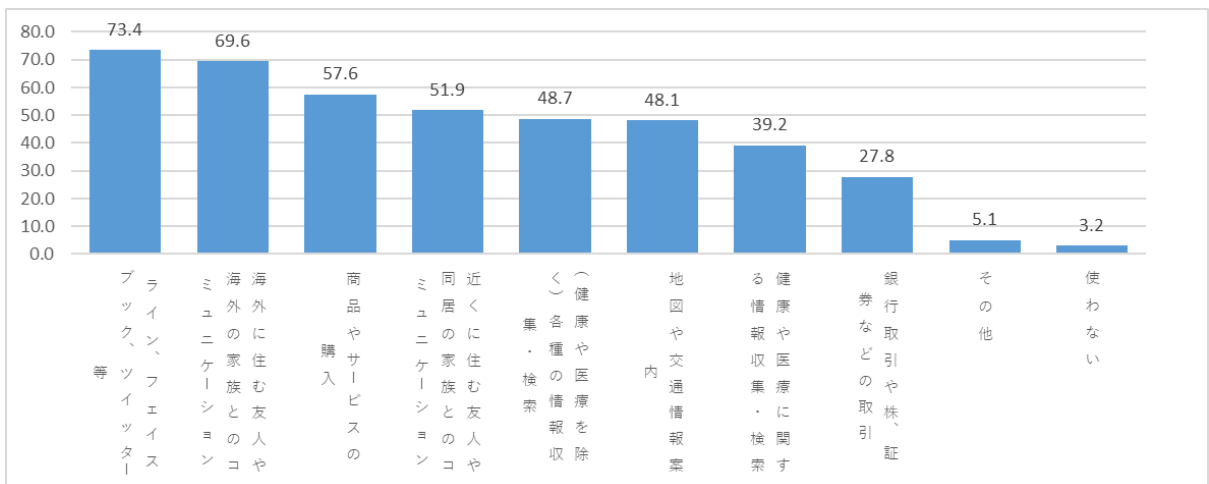
- 「近隣・友人」が53.0%で最も多く、次いで「兄弟姉妹・親戚・親・孫(39.7%)」「同居家族(29.8%)」の順が多い。



Q47 インターネットやメールの使用目的について、当てはまるものすべて選択してください。(n=158)

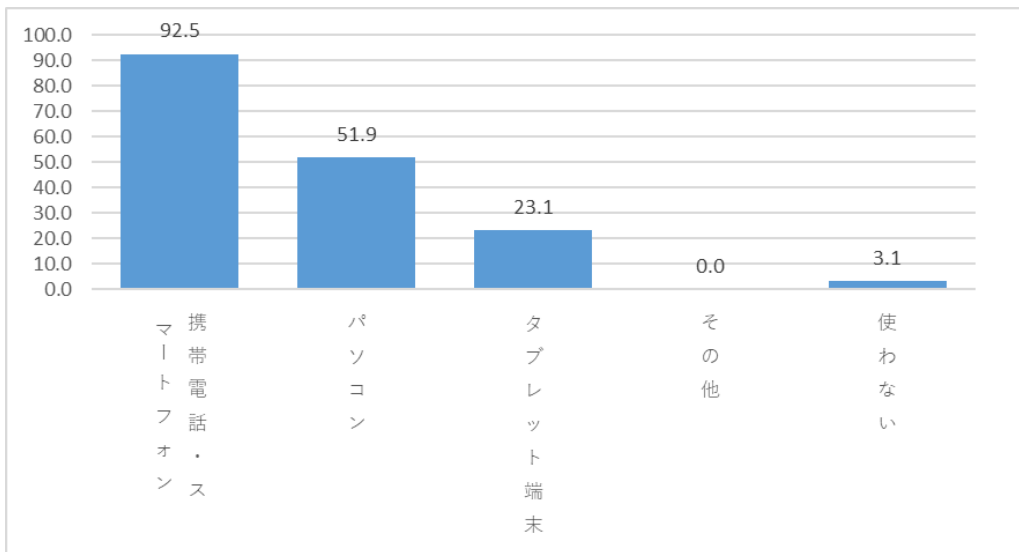
(n=158)

- 使用目的の高さでは、「ライン、フェイスブック、ツイッター等(73.4%)」「海外に住む友人や海外の家族とのコミュニケーション(69.6%)」「商品やサービスの購入(57.6%)」「近くに住む友人や同居の家族とのコミュニケーション(51.9%)」の順となり、50%を超えたのはこの4項目となった。



**Q48 インターネットやメールは何から利用しますか。(n=160) ※複数回答**

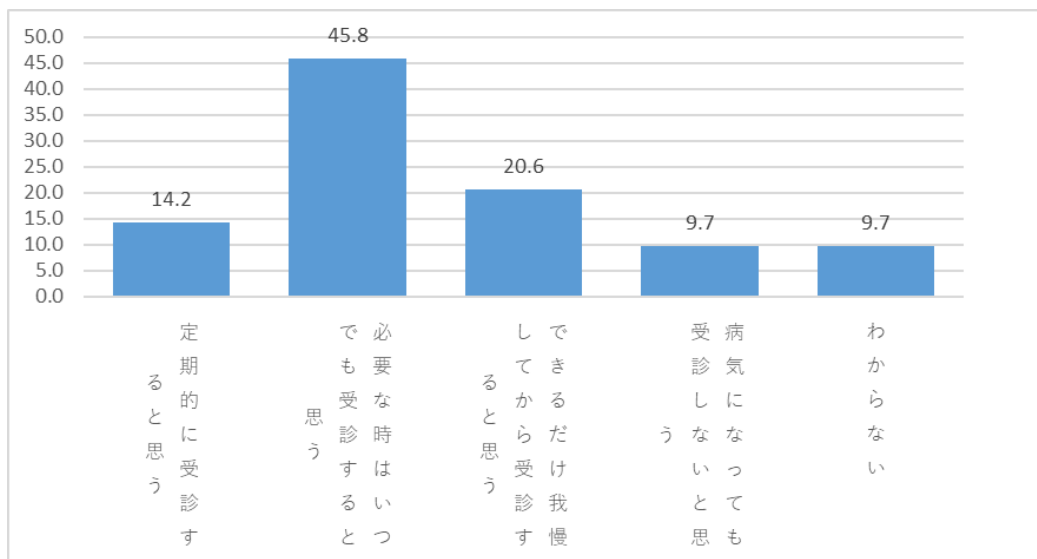
- 「携帯電話・スマートフォン」が92.5%で最も多く、次いで「パソコン (51.9%)」「タブレット端末 (23.1%)」の順が多い。



### (3) 医療機関との関係

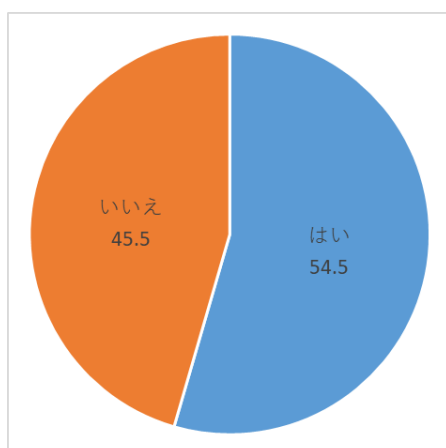
Q49 日本であなたが病気にかかった場合どのくらいの頻度で医療機関を利用すると思いますか。(n=155)

- 「必要な時はいつでも受診すると思う」が45.8%で最も多い。
- しかしながら、「できるだけ我慢してから受診すると思う」と「病気になっても受診しないと思う」といった受診を控える回答が合計して3割を超える結果となった。



Q50 あなたは日本で何かしらの病気にかかったことがありますか。(n=156)

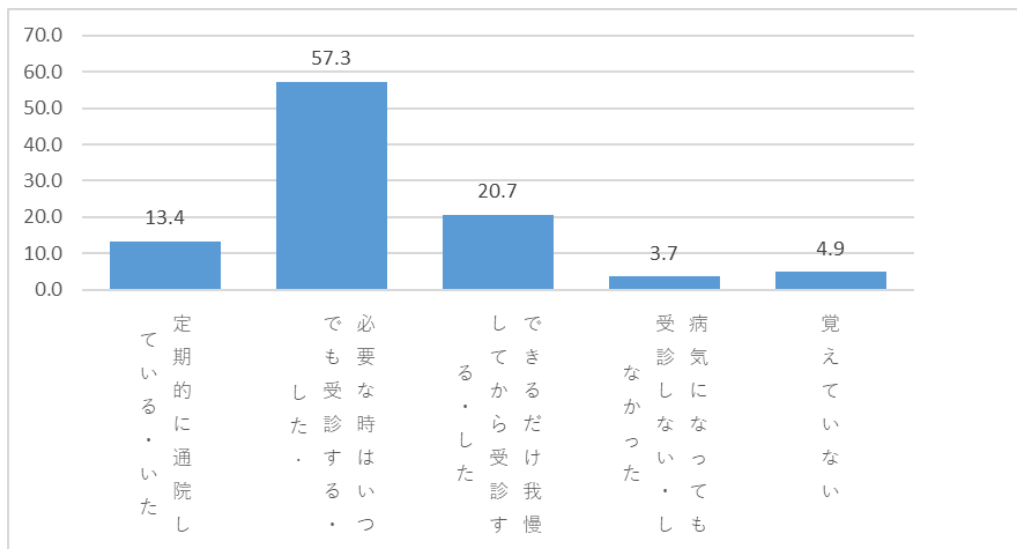
- 日本で何かしらの病気にかかったことがある割合は54.5%であった。





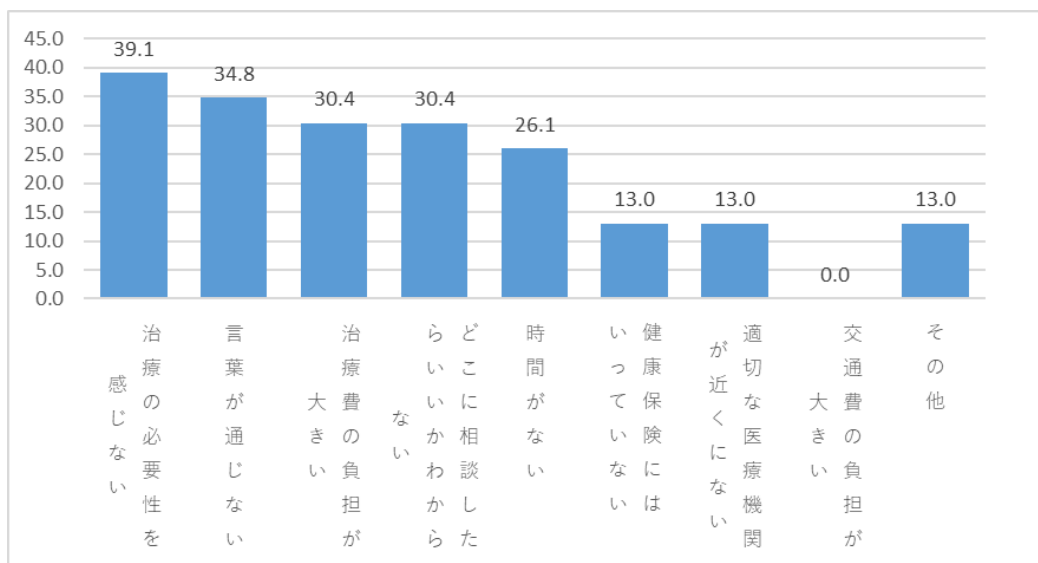
**Q51** 1つ前の質問で「はい」と答えた方にお尋ねします。あなたはどのくらいの頻度で医療機関を利用しましたか。(n=82)

- 「必要な時はいつでも受診する・した」が57.3%で最も多く、次いで「できるだけ我慢してから受診する・した(20.7%)」「定期的に通院している・いた(13.4%)」の順が多い。



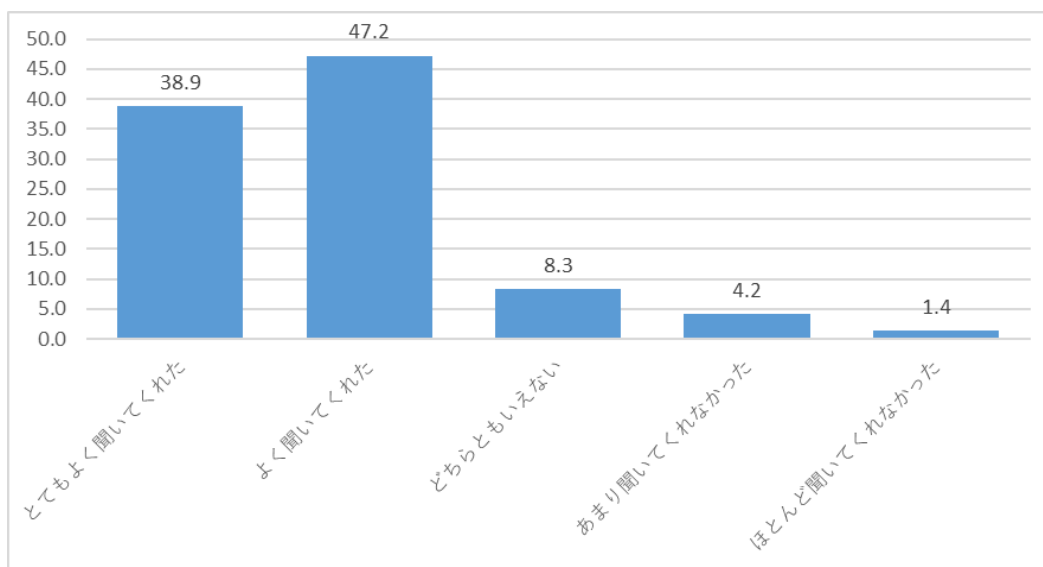
**Q52** 1つ前の質問で「できるだけ我慢してから受診する・した」または「病気になっても受診しない・しなかった」のどちらかを答えた方に質問です。受診を控える理由すべてを選択してください。(n=23) ※複数回答

- 「治療の必要性を感じない」が39.1%で最も多く、次いで「言葉が通じない(34.8%)」「治療費の負担が大きい(30.4%)」「どこに相談したらいいかわからない(30.4%)」の順で続く。



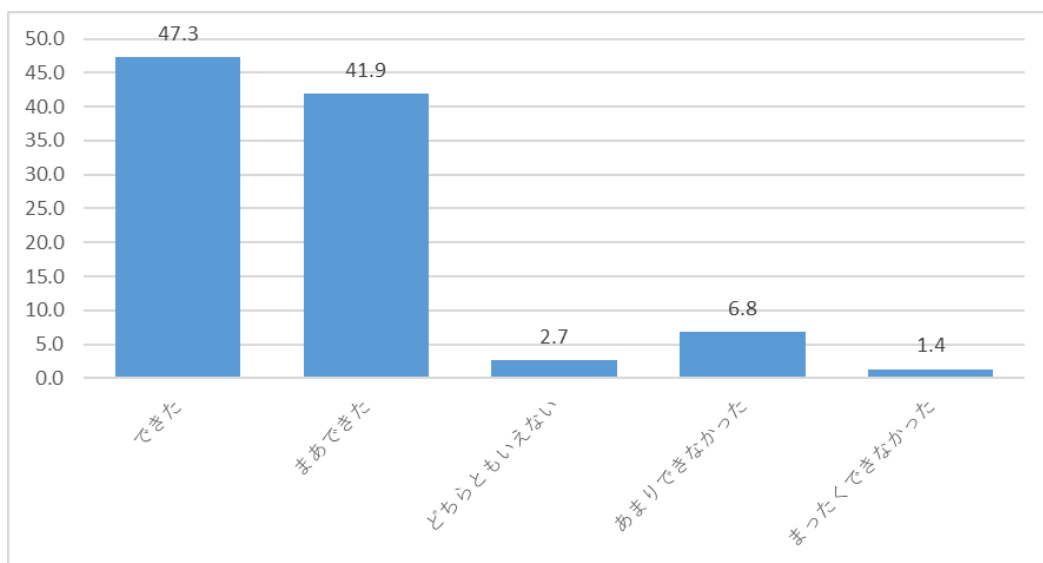
**Q53 担当医は、あなたの症状などについてどの程度話を聞いてくれましたか。(n=72)**

- 「とてもよく聞いてくれた」が 38.9%で、「よく聞いてくれた」までを含めると 86.1%がポジティブな回答となった。



**Q54 わからないことについて、担当医もしくは看護師に質問できましたか。(n=74)**

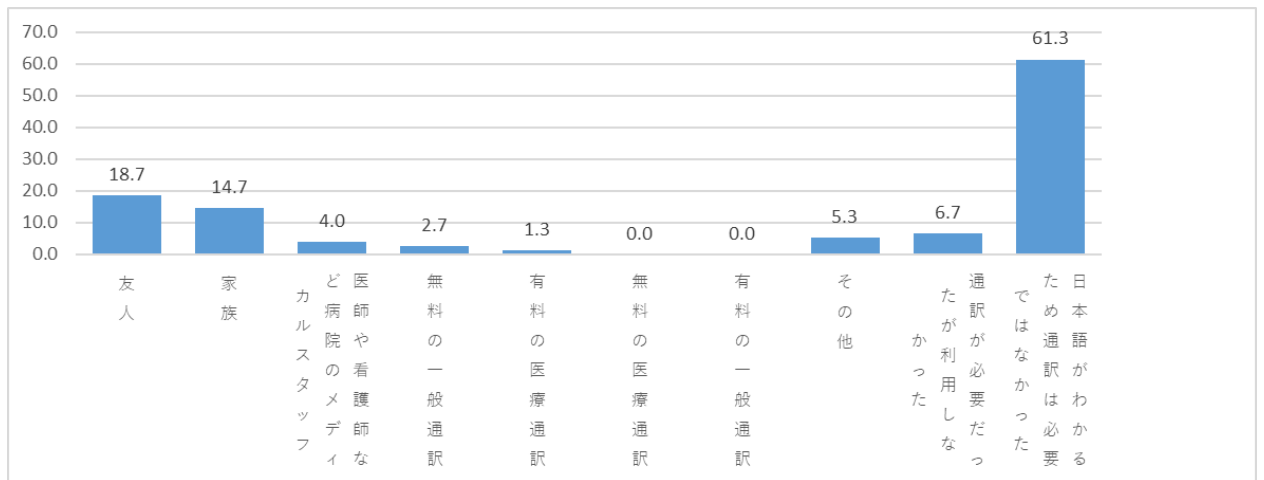
- 「できた」が 47.3%で、「まあできた」までを含めると 89.2%がポジティブな回答となった。



Q55 病院で診療や医療・検査を受けるとき、誰が通訳をしてくれましたか。(n=75)

※複数回答

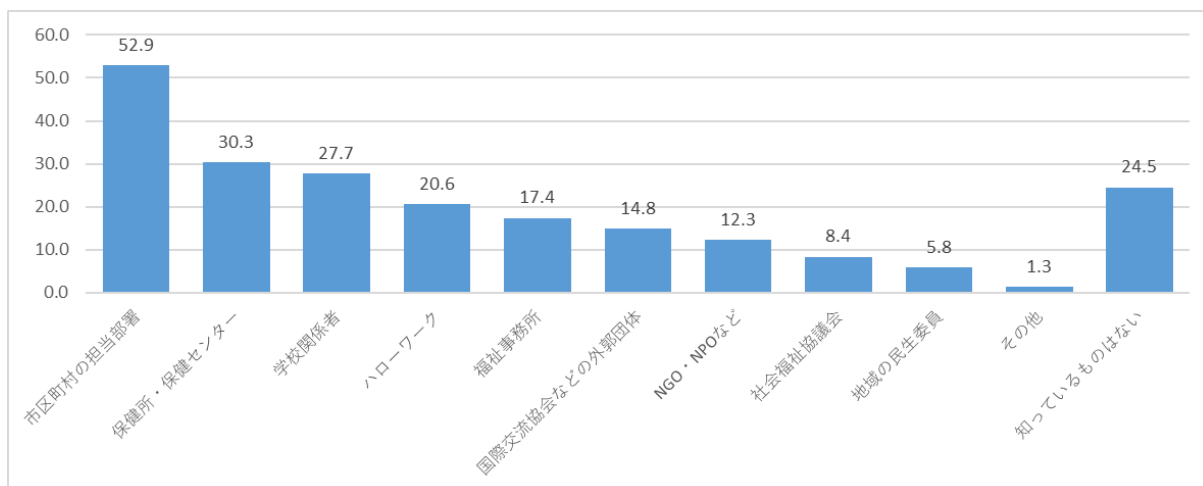
- 「日本語がわかるため通訳は必要ではなかった (61.3%)」を除くと、「友人」が18.7%で最も多く、次いで「家族」が14.7%で続く。



#### (4) 行政との関係

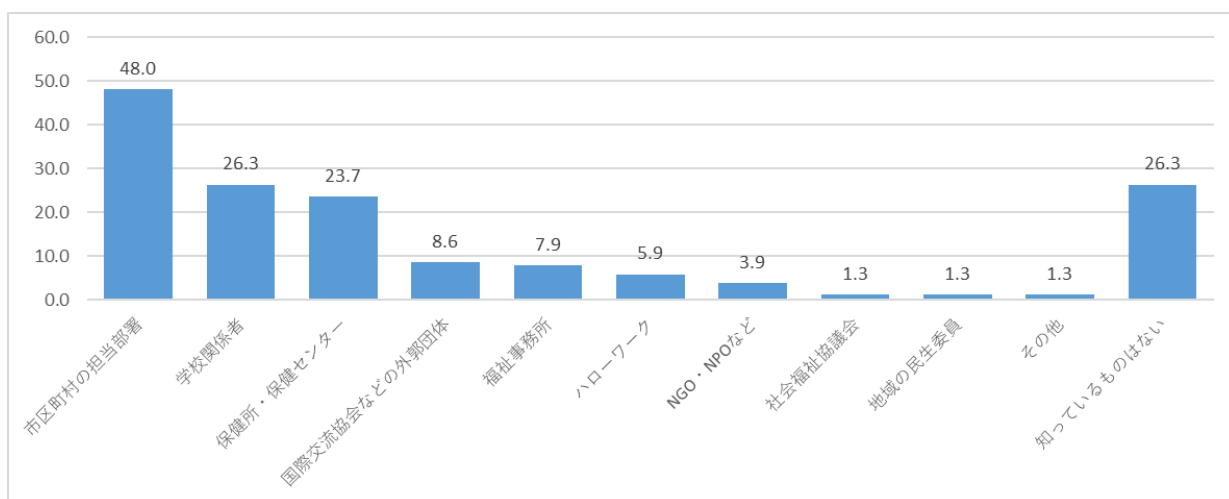
**Q56** 地域には、生活や子育て、就労、医療や健康に関する制度やサービスに関わる様々な窓口があります。次の中で、あなたがお存じの窓口はどれですか。(n=155) ※複数回答

- 「市区町村の担当部署」が52.9%で最も多く、次いで「保健所・保健センター(30.3%)」「学校関係者(27.7%)」「ハローワーク(20.6%)」「福祉事務所(17.4%)」「国際交流協会などの外郭団体(14.8%)」「NGO・NPOなど(12.3%)」「社会福祉協議会(8.4%)」「地域の民生委員(5.8%)」「その他(1.3%)」の順が多い。



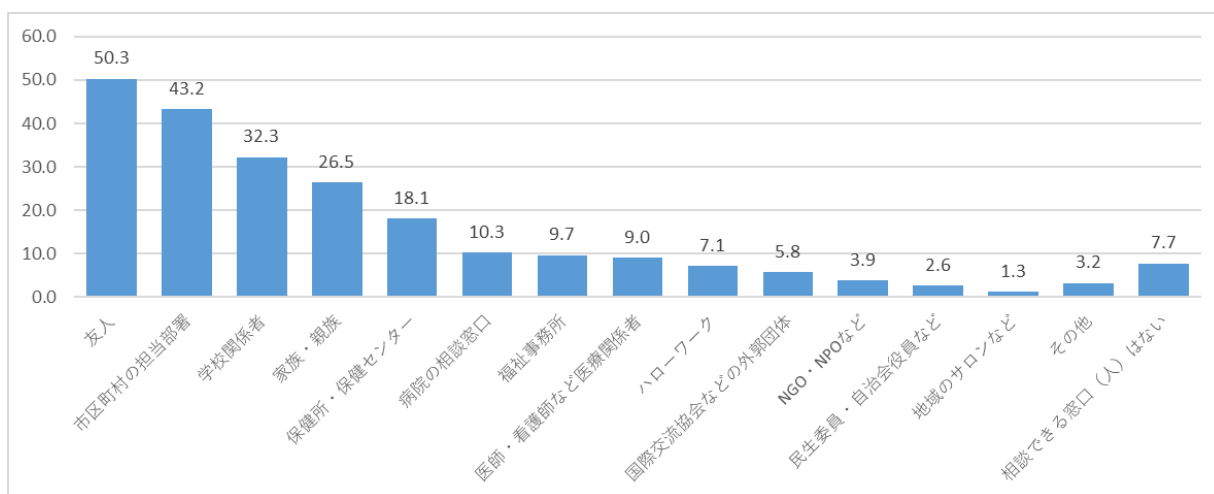
**Q57** 今までにあなたが利用したことのある窓口はどれですか。(n=152) ※複数回答

- 「市区町村の担当部署」が48.0%で最も多く、次いで「学校関係者(26.3%)」「保健所・保健センター(23.7%)」の順が多い。



**Q58 あなたが、生活や子育て、就労、医療や健康に関する情報を得たい時に、気軽に相談できる窓口もしくは人は誰ですか。(n=155) ※複数回答**

- 「友人」が 50.3%で最も多く、次いで「市区町村の担当部署 (43.2%)」「学校関係者 (32.3%)」「家族・親戚 (26.5%)」の順が多い。



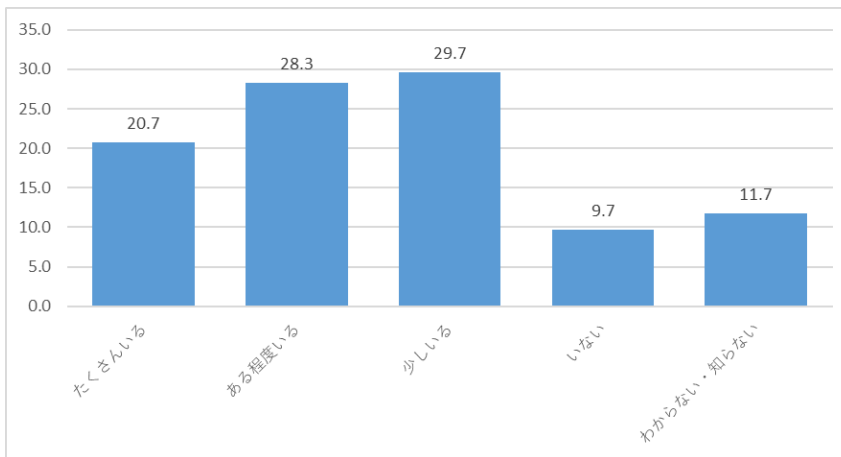
## (5) 居住する地域との関係

**Q59** あなたにとって「同胞」とはどのような人の集まりを指しますか。(n=123)

- 定義(範囲)は個々で異なるものの、自身と「同じ国の出身」「同じ地方の出身」「同じ民族」といった回答が多く見られた。
- 上記以外では、「家族」「親族」「友人」といった回答や、少数ながら「親切な人」「寛容な人」といった性格面での回答も見られた。

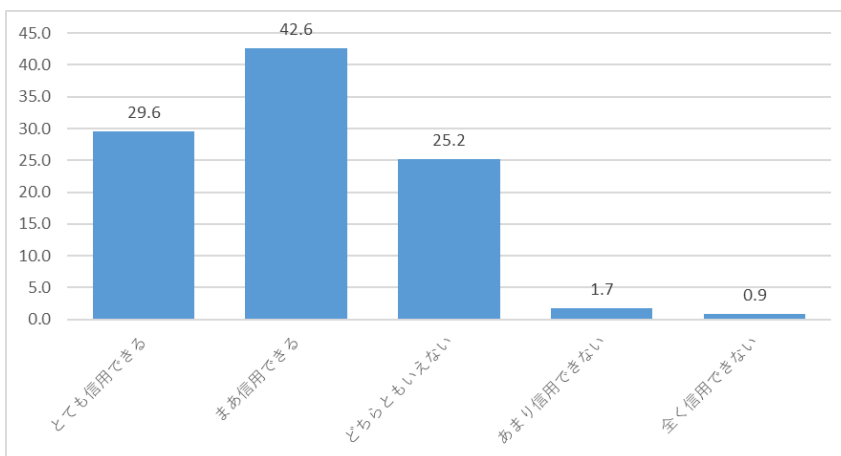
**Q60** あなたの地域に、同胞はどの程度住んでいますか。(n=145)

- 「たくさんいる」は20.7%。「ある程度いる」「少しいる」まで含めると78.6%という結果となった。



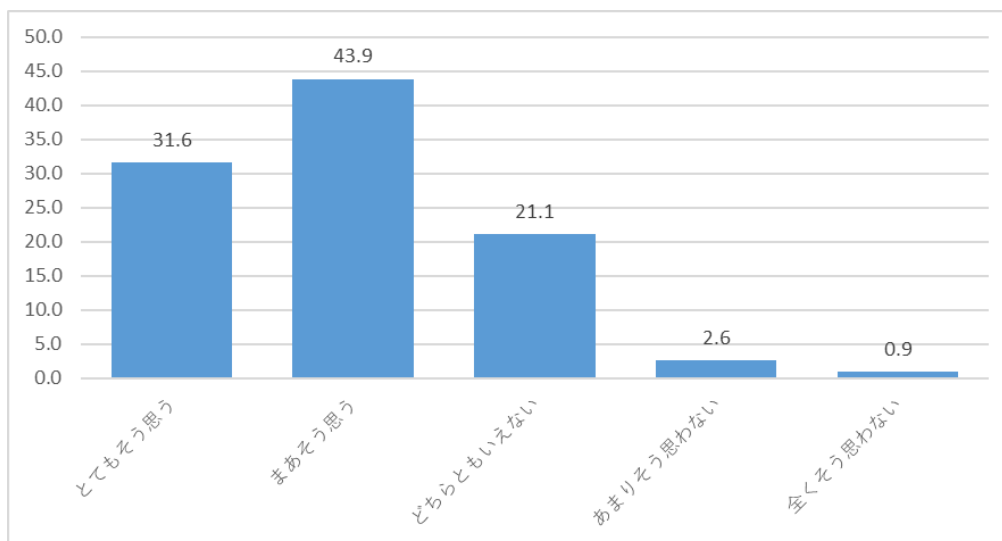
**Q61** あなたの地域に住む同胞は、一般的に信用できると思いますか。(n=115)

- 「とても信用できる」は29.6%、「まあ信用できる」まで含めると72.2%となった。
- 逆に「あまり信用できない」「全く信用できない」を合わせたネガティブな回答は2.6%と低い結果となった。



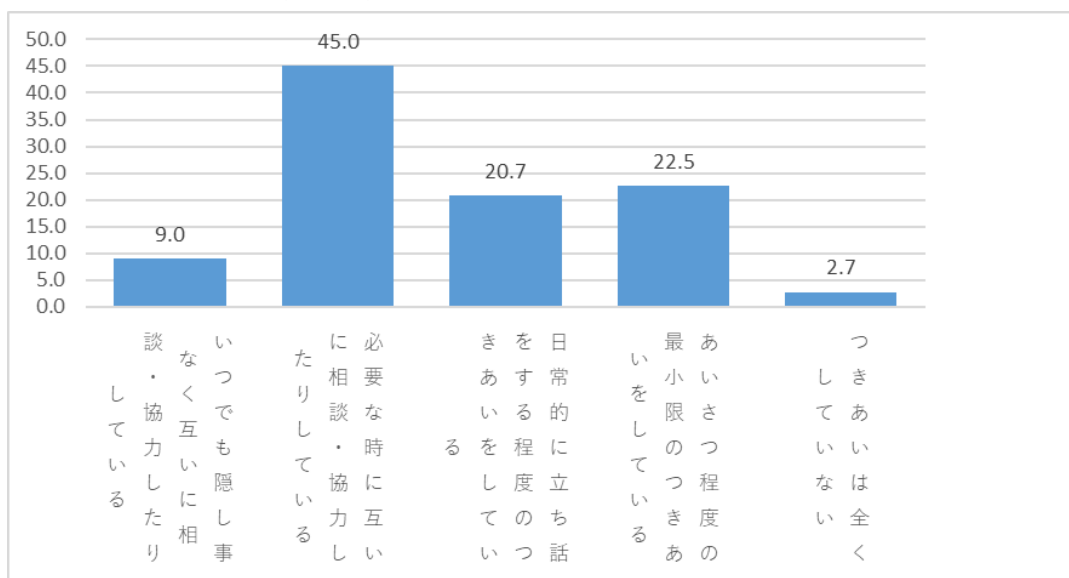
**Q62 あなたの地域の同胞は、多くの場合、他の人の役に立とうとしますか。(n=114)**

- 「とてもそう思う」は 31.6%で、「まあそう思う」まで含めると 75.5%という結果となった。



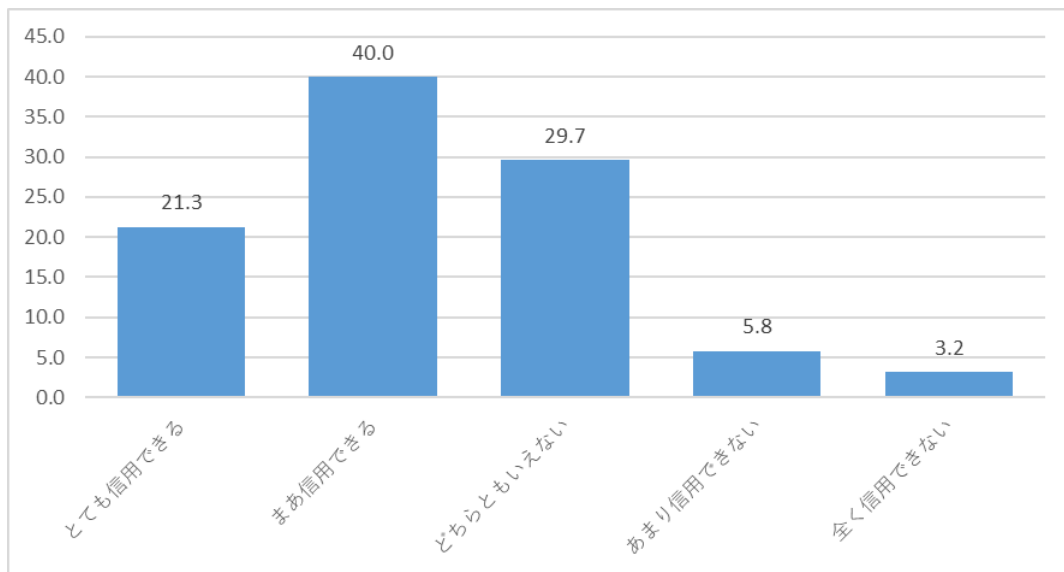
**Q63 あなたは、地域内のご近所の同胞とどのようなつきあいをされていますか。(n=111)**

- 「必要な時に互いに相談・協力したりしている」が 45.0%で最も多く、次いで「あいさつ程度の最小限のつきあいをしている (22.5%)」「日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている (20.7%)」の順が多い。



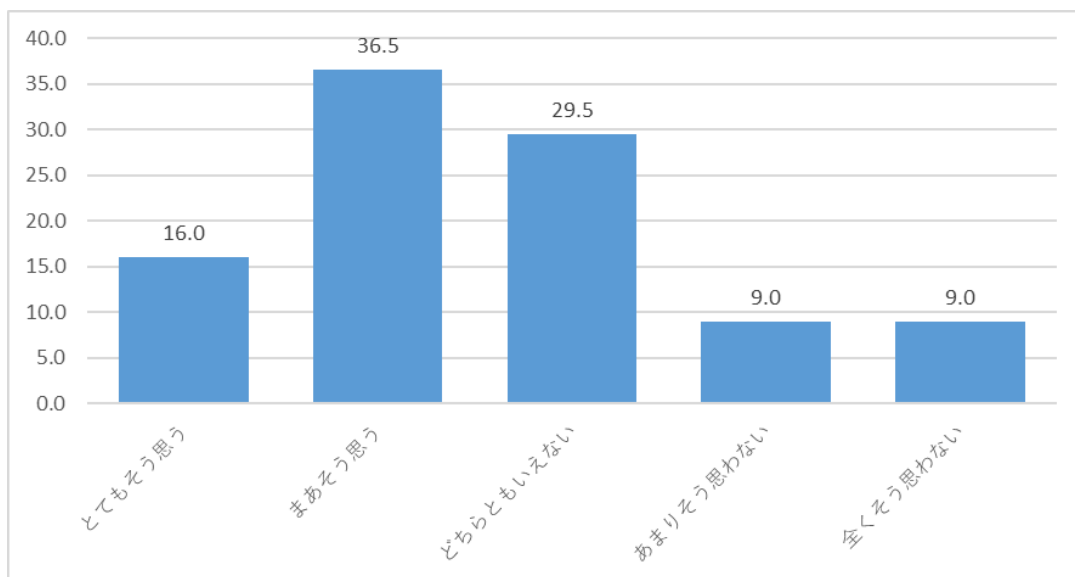
**Q64 あなたの地域に住む日本人は、一般的に信用できると思いますか。(n=155)**

- 「とても信用できる」は21.3%、「まあ信用できる」まで含めると61.3%となった。
- 逆に「あまり信用できない」「全く信用できない」を合わせたネガティブな回答は9.0%であった。



**Q65 あなたの地域の日本人は、多くの場合、他の人の役に立とうとしますか。(n=156)**

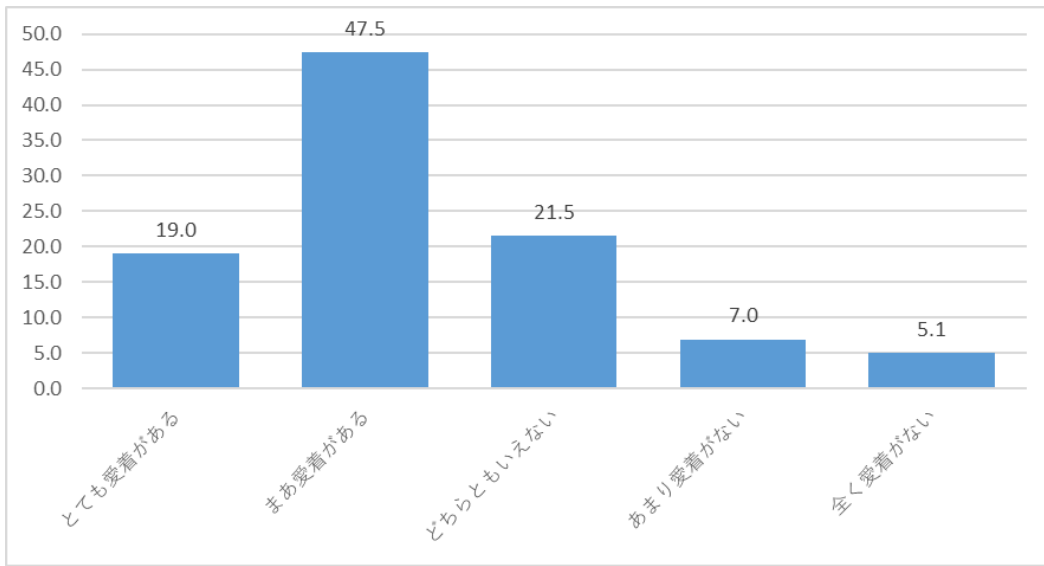
「とてもそう思う」は16.0%で、「まあそう思う」まで含めると52.5%という結果となった。





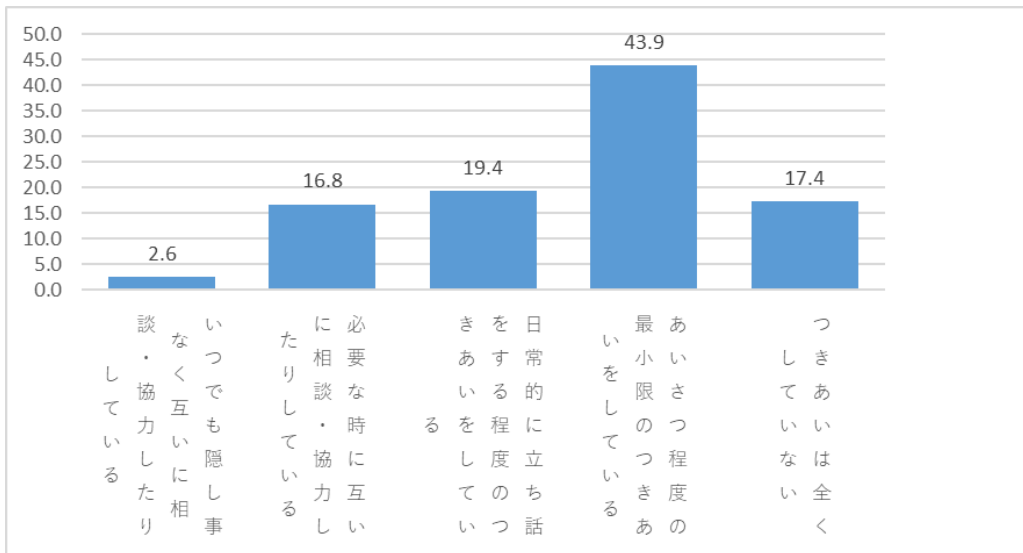
**Q66 あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか。(n=158)**

- 「とても愛着がある」が 19.0%、「まあ愛着がある」まで含めると 66.5%という結果となった。



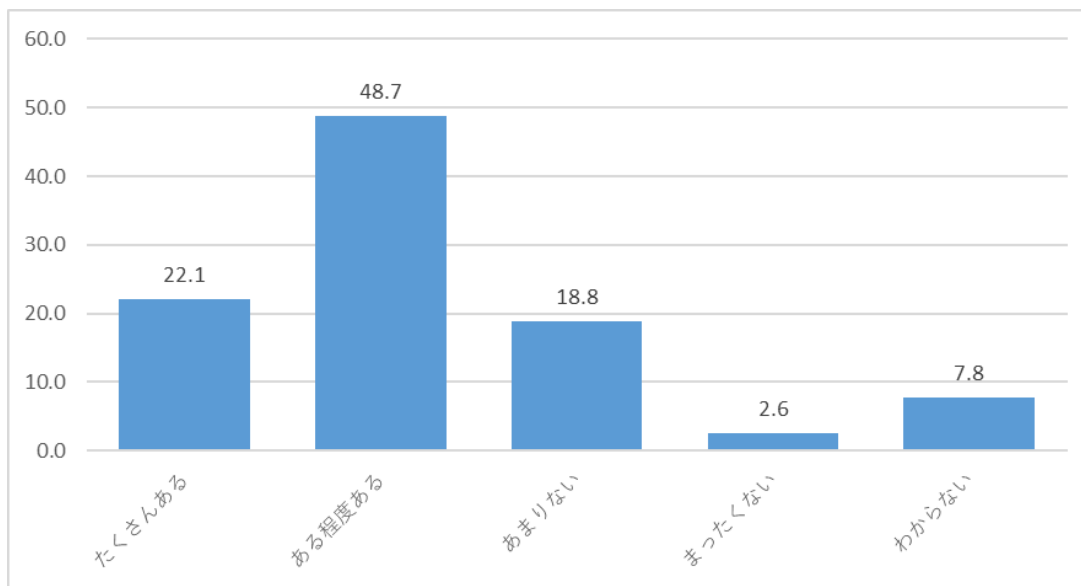
**Q67 あなたは、地域内のご近所の日本人とどのようなつきあいをされていますか。(n=155)**

- 「あいさつ程度の最小限のつきあいをしている」が 43.9%で最も多く、次いで「日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている (19.4%)」「必要な時に互いに相談・協力したりしている (16.8%)」の順が多い。



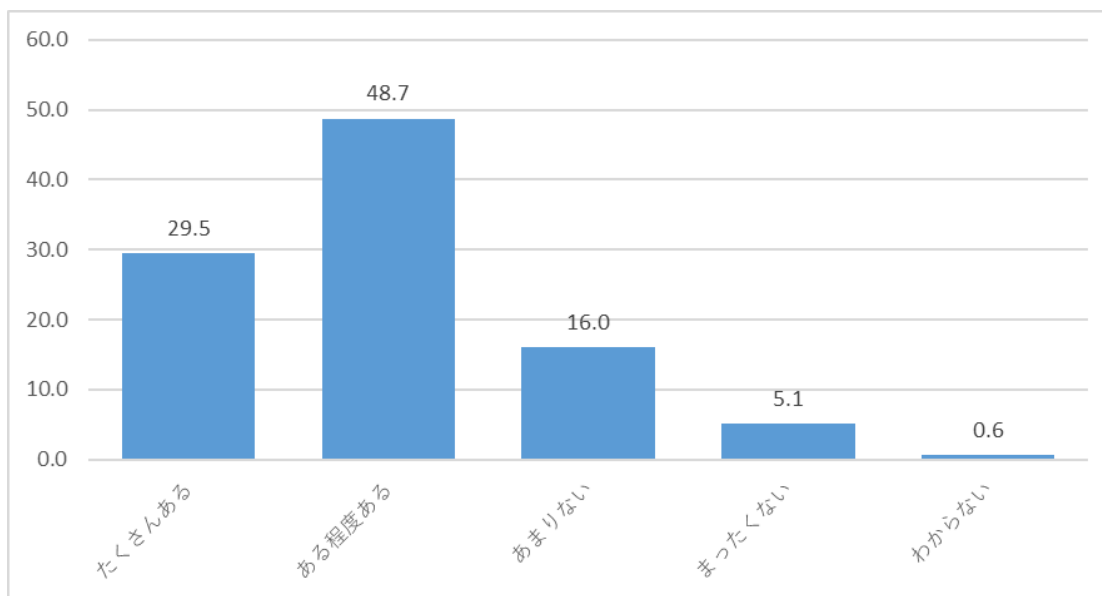
Q68 あなたの家から徒歩圏内（おおむね1キロ以内）に、運動や散歩に適した公園や歩道はどのくらいありますか。（n=154）

➤ 「たくさんある」が22.1%、「ある程度ある」まで含めると70.8%という結果となった。



Q69 あなたの家から徒歩圏内（おおむね1キロ以内）に、生鮮食料品（肉、魚、野菜、果物など）が手に入る商店・施設・移動販売はどのくらいありますか。（n=156）

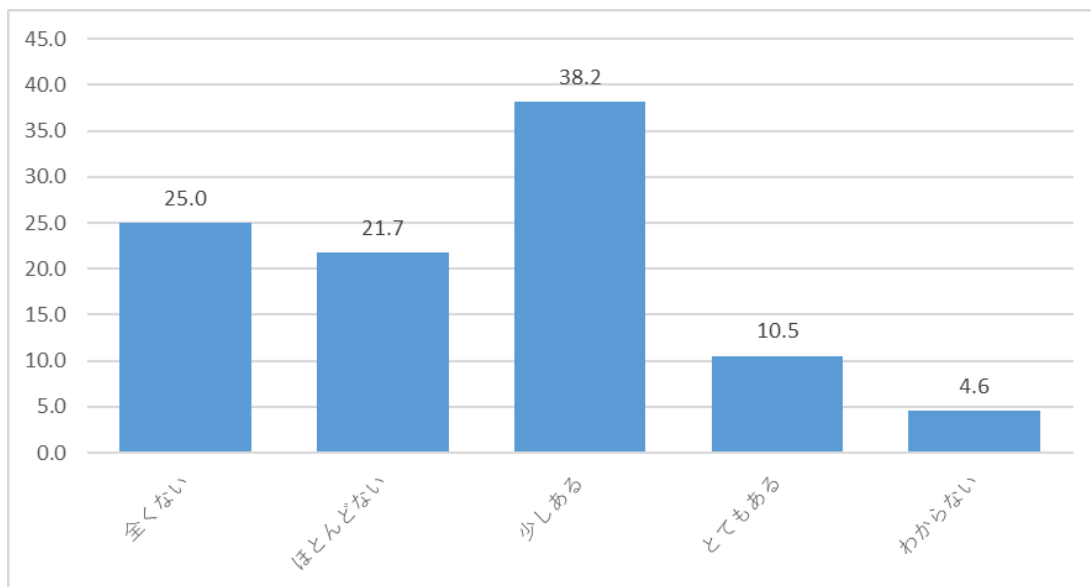
➤ 「たくさんある」が29.5%、「ある程度ある」まで含めると78.2%という結果となった。



## (6) 健康とストレス

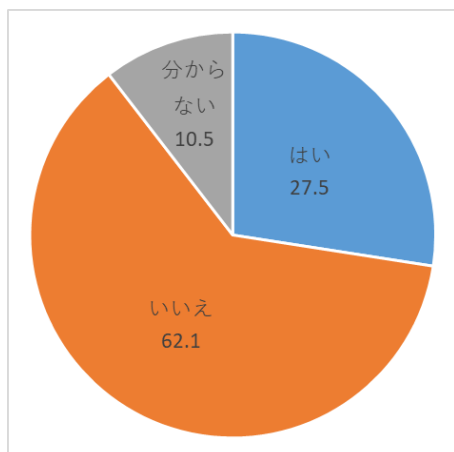
**Q70** あなたは現在、身体に違和感、不快感、痛みがありますか。(n=152)

- 最も多いのは「少しある」で38.2%。ポジティブ（全くない+ほとんどない）な回答は46.7%、ネガティブ（少しある+とてもある）は48.7%であった。



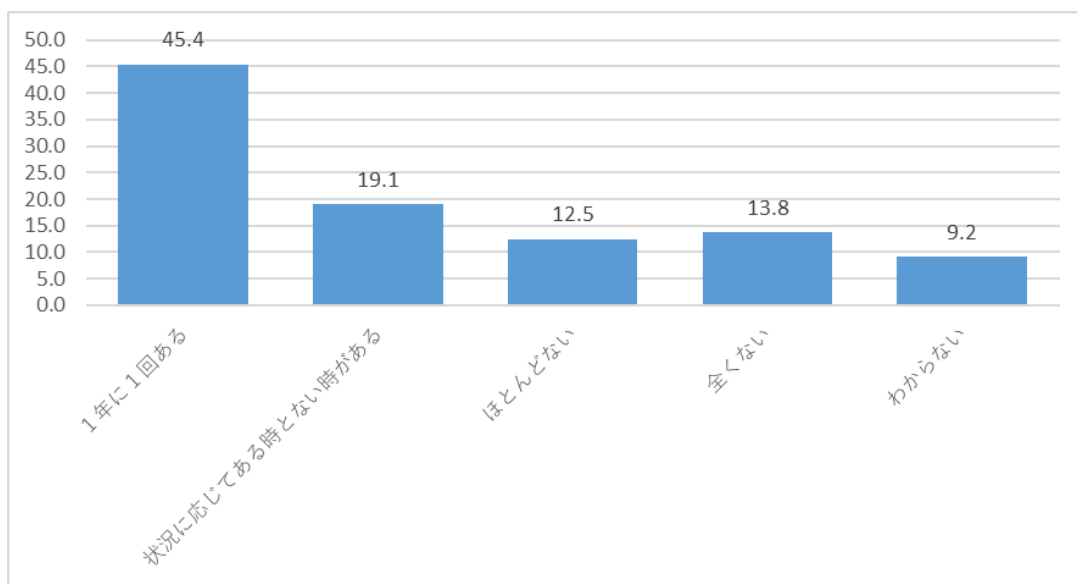
**Q71** 最近1ヶ月で体重が3Kg以上増えたり減ったりしましたか。(n=153)

- 最近1カ月で体重が3kg増減したと回答した人は27.5%であった。



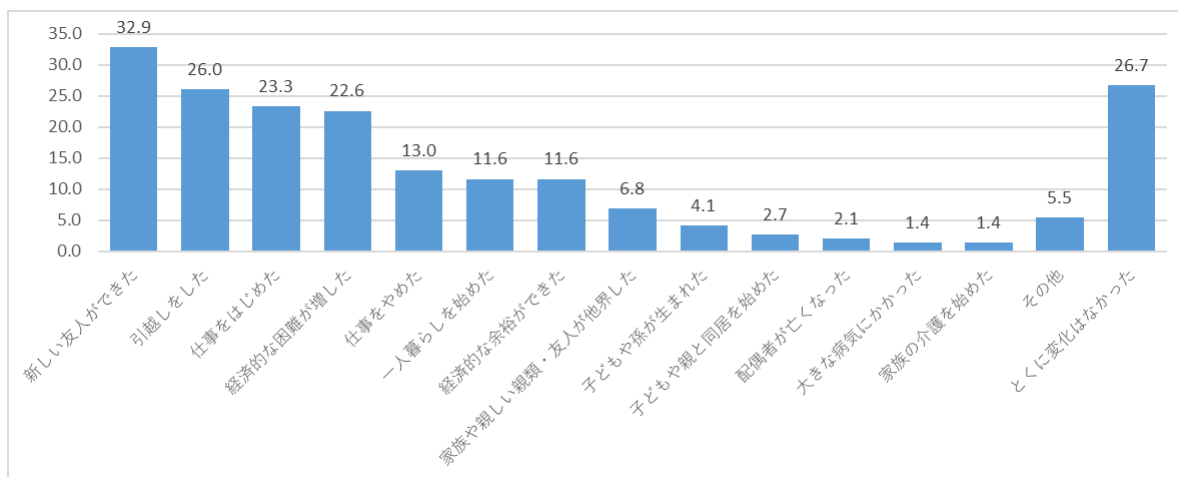
**Q72 定期検診を受ける機会がありますか。(n=152)**

- 「1年に1回ある」と回答した人は45.4%で半数以下であった。



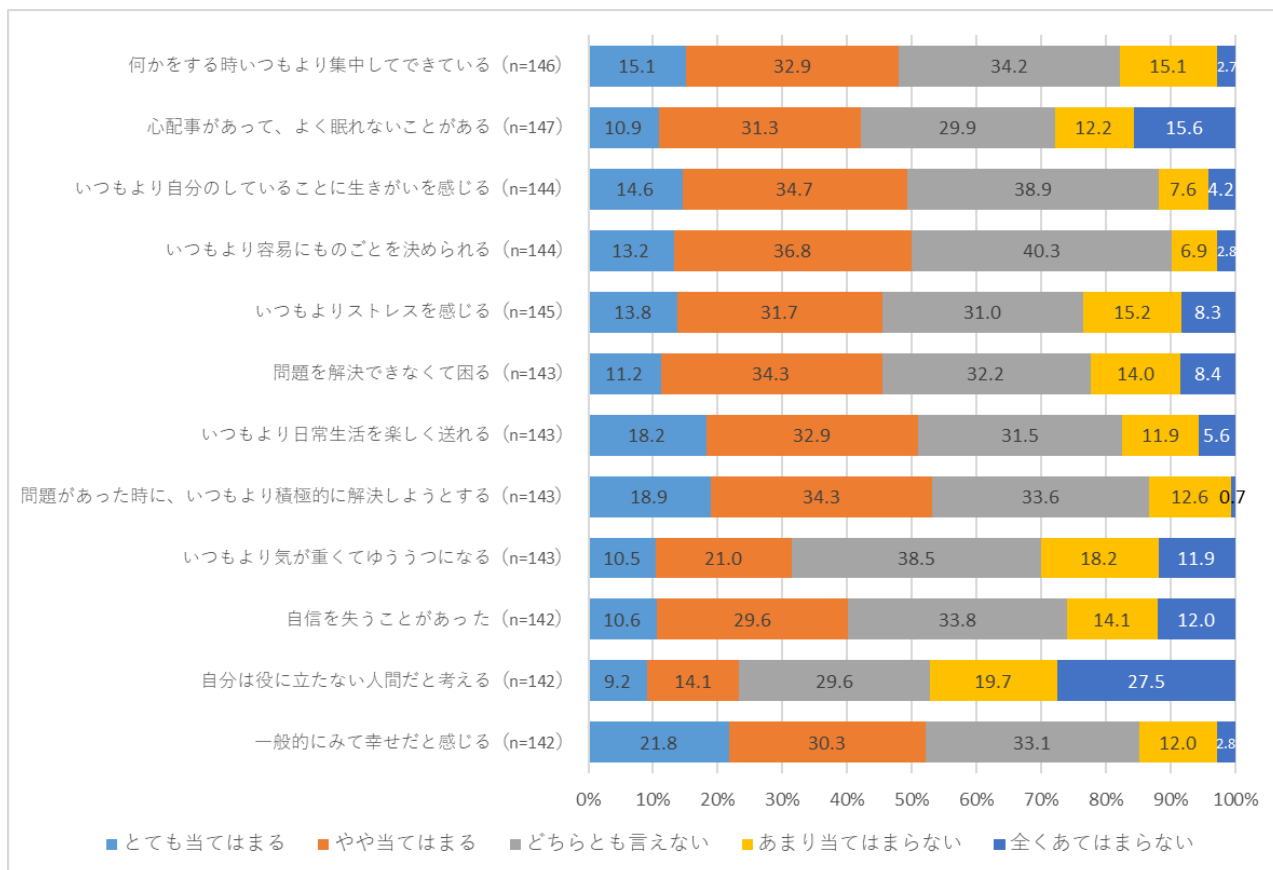
**Q73 この1年間に起こったことについておうかがいします。当てはまるものをすべて選択してください。(n=146) ※複数回答**

- 「新しい友人ができた」が32.9%で最も多く、次いで「引越しをした(26.0%)」「仕事をはじめた(23.3%)」「経済的な困難が増した(22.6%)」の順で多い。



**Q74 あなたの最近のご様子についてお聞きします。**

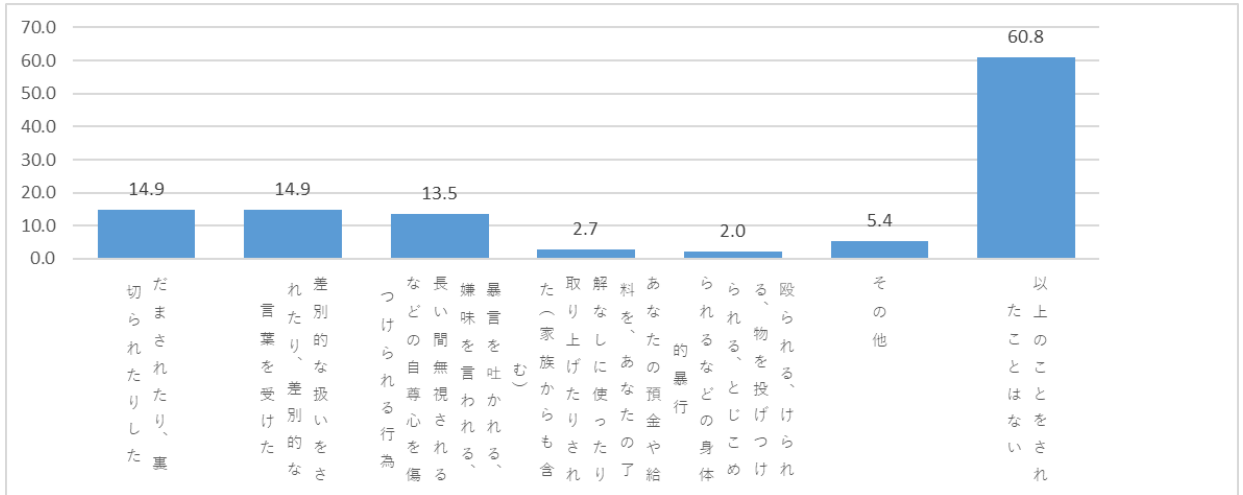
- 「とても当てはまる」と「やや当てはまる」の割合が最も高いのは、「問題があった時に、いつもより積極的に解決しようとする」の53.1%で、次いで「一般的にみて幸せだと感じる」の52.1%であった。
- 最も低い項目は、「自分は役に立たない人間だと考える」で23.3%であった。



**Q75 あなたはこの1年間に、誰かから次のようなことをされた経験はありますか。(n=148)**

**※複数回答**

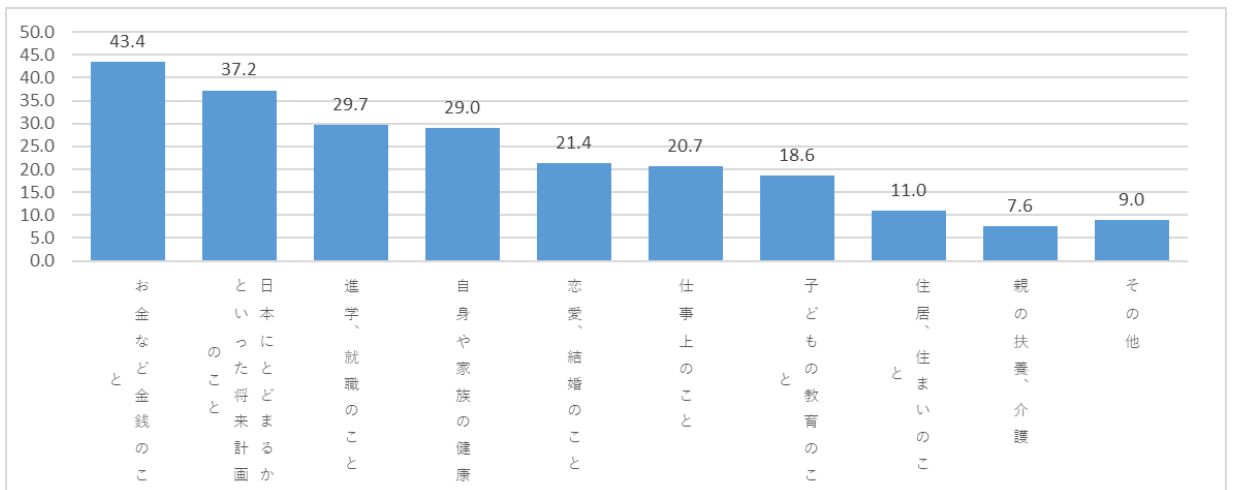
- 非該当(以上のことをされたことはない)を除くと、「だまされたり、裏切られたりした」「差別的な扱いをされたり、差別的な言葉を受けた」が共に14.9%で最も多く、「暴言を吐かれる、嫌味を言われる、長い間無視されるなどの自尊心を傷つけられる行為(13.5%)」を含めた3項目が10%を超える結果となった。



**Q76 以下のことについて悩んでいますか。当てはまるものをすべて選択してください。(n=145)**

**(n=145)**

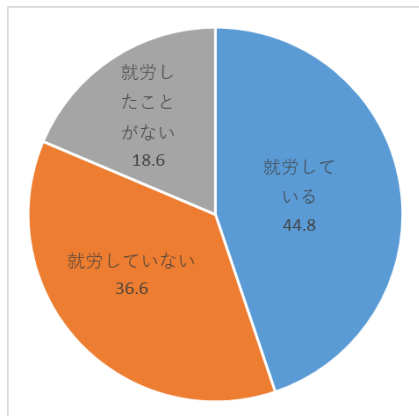
- 「お金など金銭のこと」が43.4%で最も多く、次いで「日本にとどまるかといった将来計画のこと(37.2%)」「進学、就職のこと(29.7%)」「自身や家族の健康(29.0%)」の順で多い。



## (7) 就労

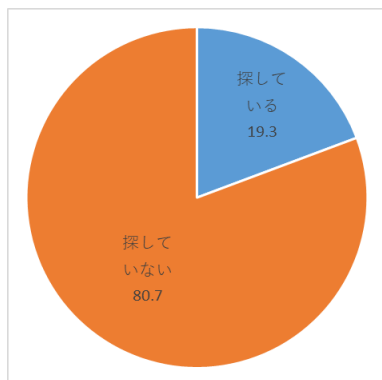
Q77 あなたの現在の日本における就労状態はどれですか。(n=145)

- 「就労している」は44.8%という結果であった。
- 「就労したことがない(18.6%)」を除く就労経験率は81.4%となった。



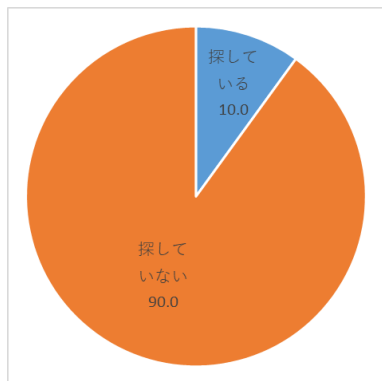
Q78 1つ前の質問で、「就労していない」と答えた方にお聞きします。現在、仕事を探していますか。(n=57)

- 「探している」は19.3%となった。



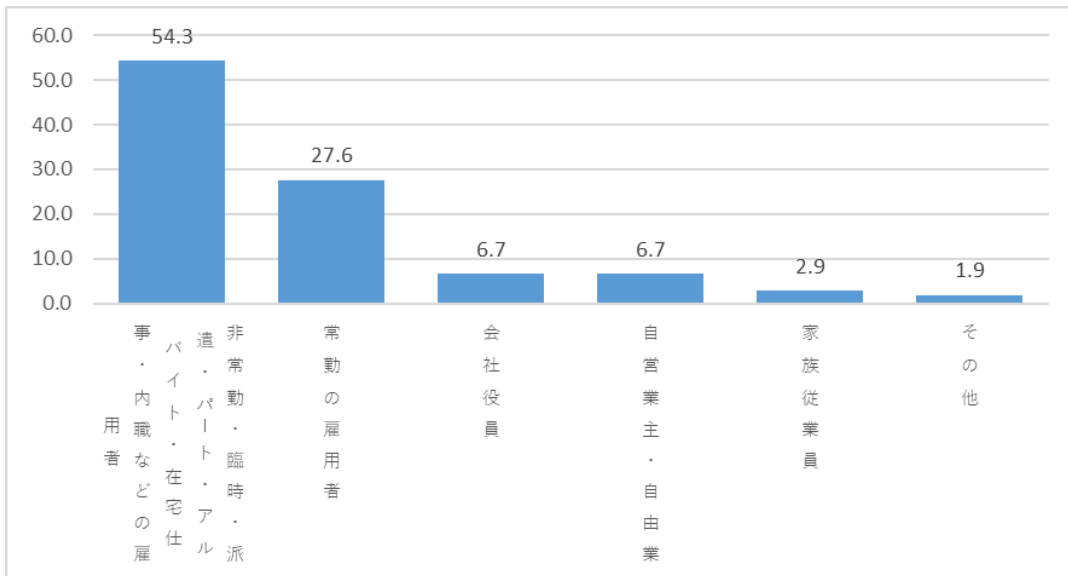
Q79 1つ前の質問で、「就労したことがない」と答えた方にお聞きします。現在、仕事を探していますか。(n=30)

- 「探している」は10.0%となった。



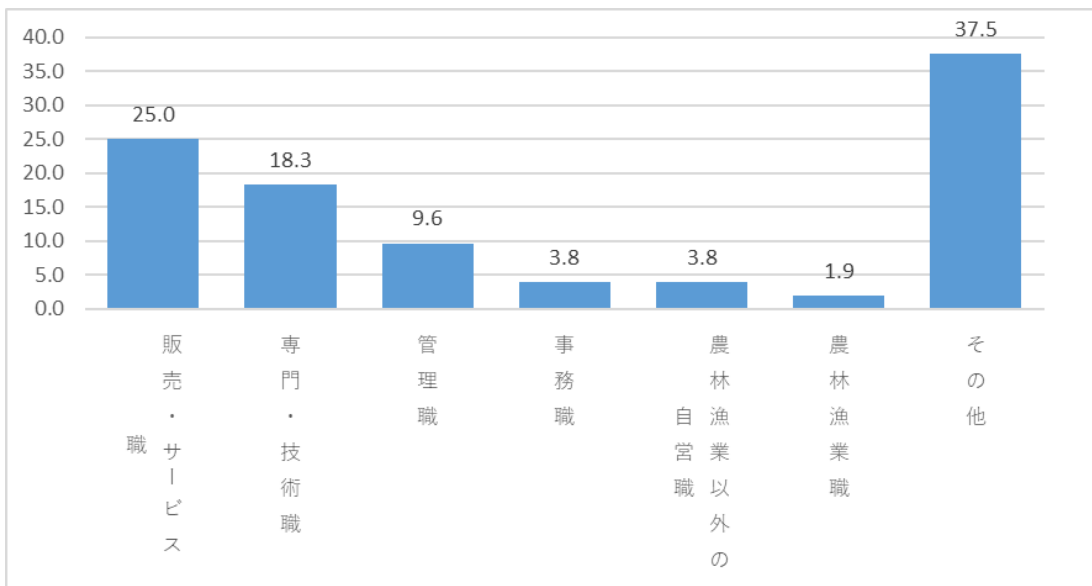
Q80 日本における仕事の中で、最も長くつとめた仕事についてお聞きします。その仕事をどのようなかたちでしていましたか。(n=105)

- 「非常勤・臨時・派遣・パート・アルバイト・在宅仕事・内職などの雇用者」が54.3%で最も多く、次いで「常勤の雇用者」が27.6%が多い。



Q81 これまでの日本における仕事の中で、最も長くつとめた職種はなんですか。(n=104)

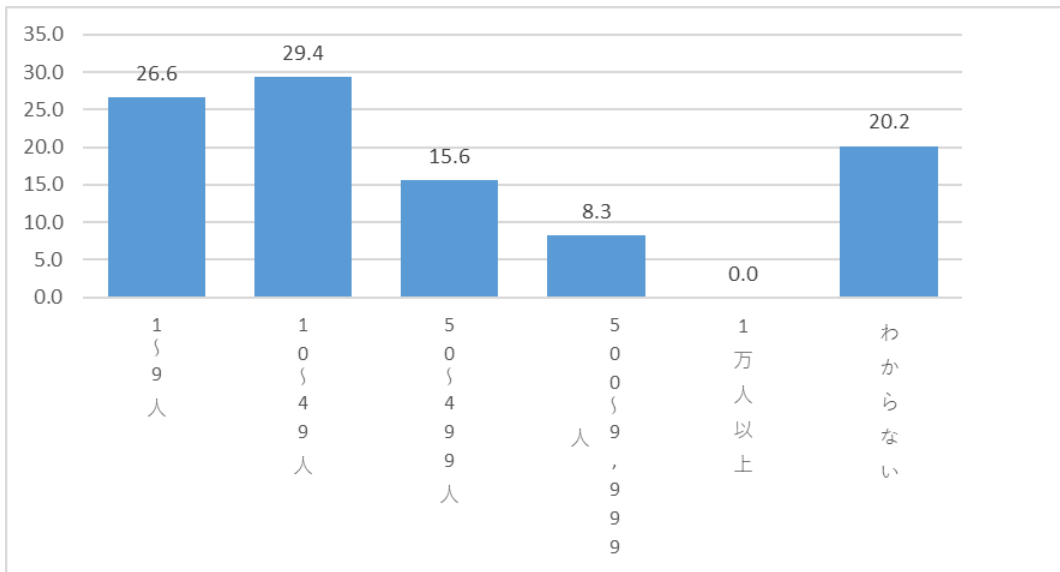
- 「販売・サービス職」が25.0%で最も多く、次いで「専門・技術職 (18.3%)」が続く。





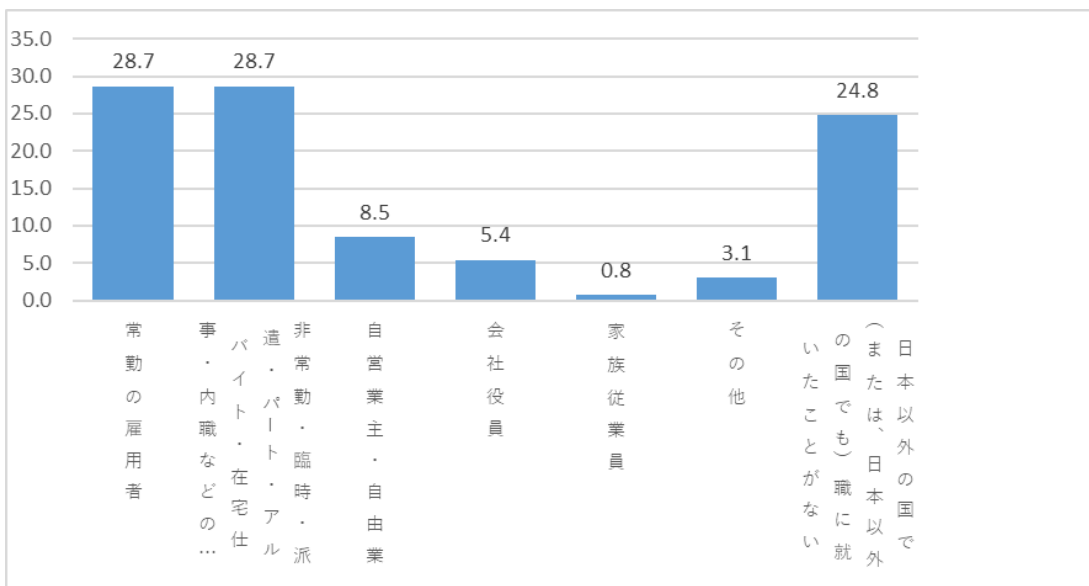
Q82 あなたの日本において最も長くつとめた会社・組織全体には、何人ぐらいの方が働いていましたか。(n=109)

➤ 「10～49人」が29.4%で最も多く、次いで「1～9人(26.6%)」が続く。



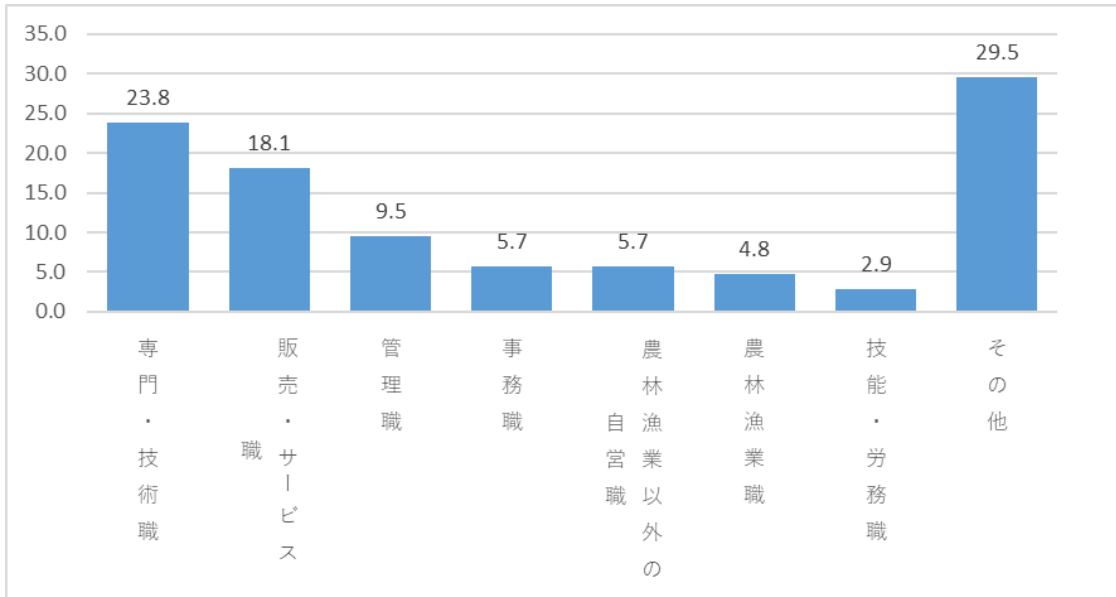
Q83 これまで日本以外の国(例:出身国など)における仕事の中で最も長くつとめた仕事についてお聞きします。あなたはどのようなかたちでお仕事をしていましたか。(n=129)

➤ 「常勤の雇用者」と「非常勤・臨時・派遣・パート・アルバイト・在宅仕事・内職などの雇用者」が共に28.7%で最も多い。



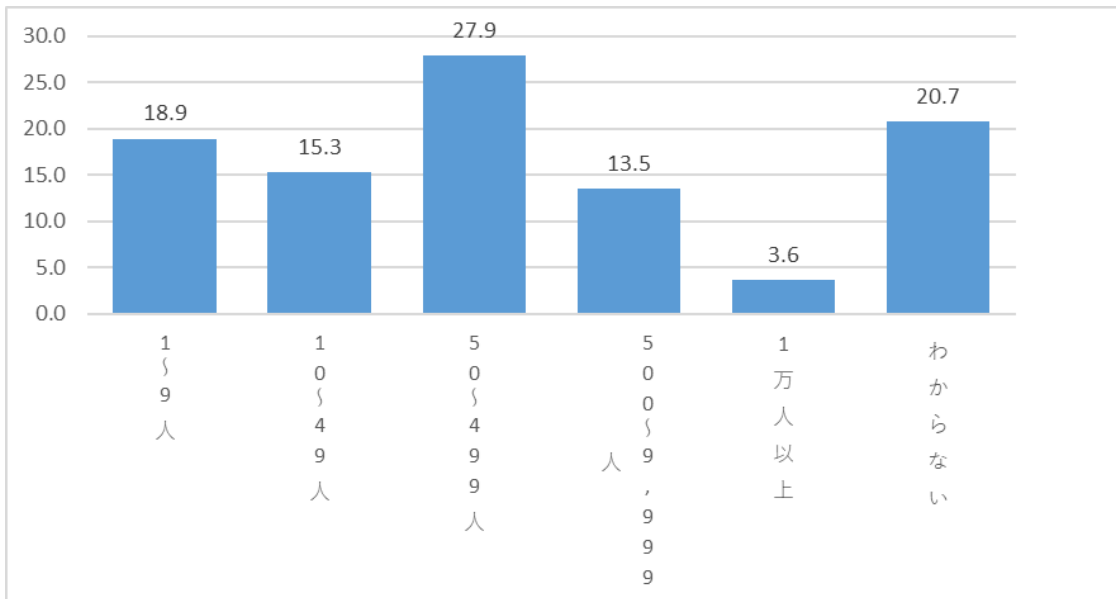
Q84 これまで日本以外の国（例：出身国など）における仕事の中で、最も長くつとめた職種はなんですか。（n=105）

➤ 「専門・技術職」が23.8%で最も多く、次いで「販売・サービス職（18.1%）」が続く。



Q85 出身国において最も長くつとめた会社・組織全体には、何人ぐらいの方が働いていましたか。（n=111）

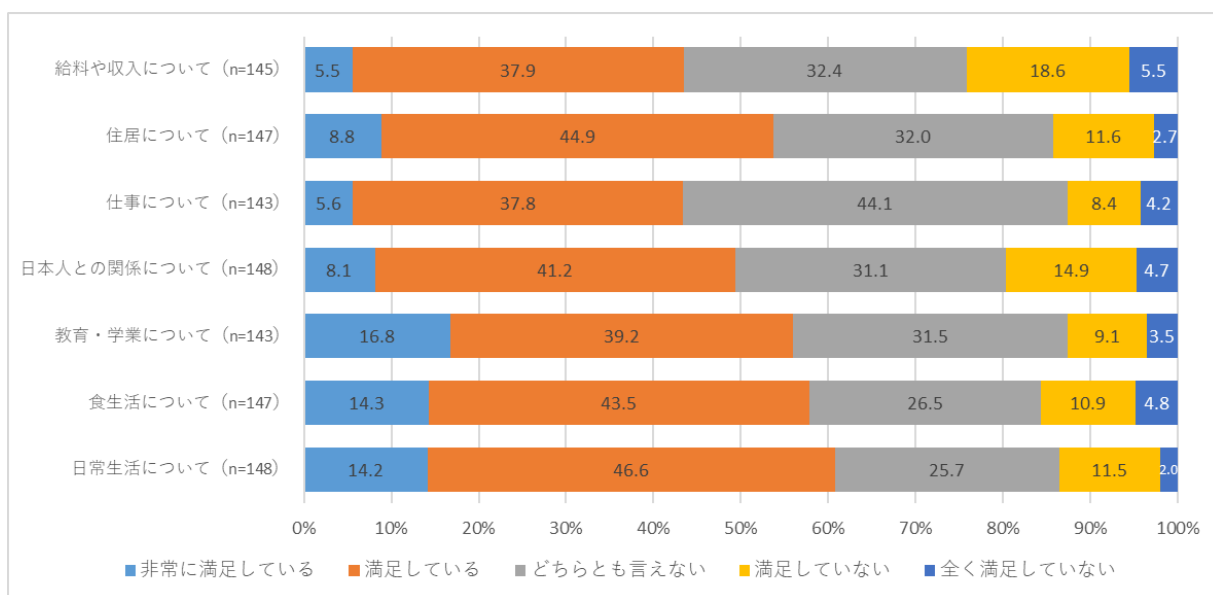
➤ 「50～499人」が27.9%で最も多く、次いで「1～9人（18.9%）」が続く。



## (8) 日本での生活満足度

Q86 日本での生活について評価してください。

- 「非常に満足している」と「満足している」の割合で比較すると、『日常生活について』が60.8%で最も満足度が高く、『食生活について(57.8%)』『教育・学業について(56.0%)』の順で続く。逆に最も満足度が低いのは『仕事について(43.4%)』であった。
- なお、『教育・学業について』は3番目に高いが、「非常に満足している」のみでは16.8%と全7項目中で最も高い。



# 考 察 編

「二つのソーシャルキャピタル」と移民の社会的地位の向上について  
—「ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康に関する調査」をめぐる考察—

千葉大学・社会科学研究院 水島治郎

### はじめに

千葉大学における学際的な共同研究「国際移動の実践科学：ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康」では、2018年に日本に住む外国出身者の方々を対象とした調査を実施し、有効回答数169件に及ぶ調査結果が得られている。

筆者（水島）はヨーロッパ、特にオランダ政治を研究対象としており、オランダにおける移民をめぐる政治展開について継続的に検討している。そこで本稿では、本調査そのものの検討・分析というよりは、オランダや周辺国を対象とした「移民とソーシャルキャピタル」をめぐる分析を重要な参考材料として検討に加えることで、本調査から浮かび上がる、日本社会に生きる移民の人々の持つ「つながり」を考える材料を提供することとしたい（なお本稿では、ヨーロッパにおける「移民 immigrant」と対照しながら検討を行う都合上、本調査の対象者についても（「移住者」ではなく）「移民」という呼称を用いる点につき、あらかじめお含みいただきたい）。

### 移民の持つ「つながり」について

さて本調査からは、調査対象となった移民の人々がどのように他の人々との「つながり」を保持しているのか、興味深い事実がわかる。

まず、地域に住む同胞との関係をみてみよう（同胞とは、Q59の回答によると、基本的に「同じ国の出身」「同じ地方の出身」「同じ民族」という意味で理解されていることから、回答者と同じ移民集団・エスニック集団に属する人(co-ethnics)を指す、とみてよい）。

Q63では、「あなたは、地域内のご近所の同胞とどのようなおつきあいをされていますか」が問われている。ここで最も多かった回答は「必要な時に互いに相談・協力したりしている」(45.0%)である。ここに「いつでも隠し事なく互いに相談・協力したりしている」(9%)を加えると、過半数の54%の人が、地域に頼れる同胞がいるということになる。出身を同じくする人、すなわち同じ移民集団に属する人であり、かつ頼れる人が地域社会にいることは、移住者にとって心強い支えになることは間違いない。

これに対し、地域の日本人との関わりについては、上記とやや異なる結果が浮かび上がる。Q67では、「あなたは、地域内のご近所の日本人とどのようなおつきあいをされていますか」が問われている。ここで最も多かった回答は「あいさつ程度の最小限のつきあいをしている」(43.9%)である。ここに「つきあいは全くしていない」(17.4%)を加えると、実に6割を超す人が、地域の日本人とほとんど関わりを持っていないことがわかる。その一方、同胞との間に築いていたような、「必要な時に頼れる」つきあいを日本人としている回答者は、2割に満たない。その意味で回答者の移民のほとんどは、日本の地域社会に足場を持っているとは言い難い。

## 二つのソーシャルキャピタル — 結束型と橋渡し型

ところで、ここでみた同胞との近しいつながり、そして自らの属するエスニック集団を超えたホスト社会の構成員（この場合は日本人）とのつながりについては、それぞれ、ソーシャルキャピタルをめぐる理論で抽出されてきた、二つのソーシャルキャピタルの類型に対応する。その二つのソーシャルキャピタルとは、それぞれ「結束型ソーシャルキャピタル(bonding social capital)」と「橋渡し型ソーシャルキャピタル(bridging social capital)」である (Putnam 2000=2006: 19-21)。

結束型ソーシャルキャピタルとは、少数民族などの特定の集団内部における、内向きの緊密なネットワークにおいて成立するソーシャルキャピタルである。集団への忠誠心を強め、構成員に精神的・社会的な支えを提供する一方で、内向きに閉じこもる排他性も指摘されている。

これに対し橋渡し型ソーシャルキャピタルとは、個別の集団を超え、社会的亀裂をまたいで人々を包含するネットワークにおいて成立するソーシャルキャピタルである。人々は橋渡し型ソーシャルキャピタルを通じ、自分の属する狭い世界に閉じこもることなく、外部の社会とつながり、情報をやり取りし、それを通じて広いアイデンティティと互酬性を生み出すことができるとされている。

以上を踏まえると、本調査から見えてくるのは、日本社会に住む移民においては、同胞との間に一定程度の結束型ソーシャルキャピタルを保持している人が多いものの、日本人との関わりは概して薄く、橋渡し型ソーシャルキャピタルについては低い水準にとどまっている、ということである。移民における「二つのソーシャルキャピタル」には、大きな乖離があるといえるだろう。

とはいえ、「橋渡し型ソーシャルキャピタルの弱さ」についてみれば、それが明らかに困難をもたらすものである（またそれゆえに政策的な介入が必要とされる）かどうかについては、にわかに判断できない。たとえばQ58「あなたが、生活や子育て、就労、医療や健康に関する情報を得たい時に、気軽に相談できる窓口もしくは人は誰ですか」についてみれば、「相談できる窓口（人）はいない」との回答は7.7%にとどまっている（なお回答者のうち「友人」と答えた人が50.3%で最も多い）。ほとんどの移民は、日常生活における情報や相談のルートをある程度確保している、といえるだろう（ただもちろんこのことは、困りごとが実際に解決したかということとはやや別の問題である）。同胞の友人などのエスニック・ネットワークを介して不便に対応している人が多いとすれば、すなわち結束型ソーシャルキャピタルが日常生活の便宜をとりあえず提供しているとすれば、短期的にみた場合、「橋渡し型ソーシャルキャピタルの弱さ」は必ずしも大きな問題ではない、といえるかもしれない。

特に、移民の人々において、地域に住む日本人について一定の「信頼感」を持っていることは、現実の橋渡し型ソーシャルキャピタルの弱さを補うようにもみえる。Q64では「あなたの地域に住む日本人は、一般的に信用できると思いますか」が問われているが、これに対して6割を超す回答者が「とても信用できる」「まあ信用できる」と答えている。地域の日本社会を構成する主流の人々に対し、多くの移民が基本的に信頼を置いているといえる。ソーシャルキャピタルをめぐる理論的展開の中で、社会における「信頼」の存在を重視する見方が有力であることを考えると、移民が日本社会に対する「信頼」を保持していること自体は、肯定的にとらえてよいように思える。「信頼」は、具体的な「つながり」の存在を保証するとはいえないものの、その「つながり」に結びつく人々の態度・価値に関わるものだからである。

このように、日本社会における移民においては、一定程度の結束型ソーシャルキャピタルが存在し、それが彼らの当面の生活をある程度支えている。橋渡し型ソーシャルキャピタルは貧弱ではあるが、日

本社会に対する移民たちの「信頼」が広く共有されていることで、橋渡し型ソーシャルキャピタルに向けた積極的な態度・価値は存在している、といえるだろう。

しかしながら、中長期的にみた場合はどうだろうか。日本社会における移民たちの在住期間が長期に及び、彼らが職を得て社会のなかで確固たる地歩を築いていこうとするのであれば、結束型ソーシャルキャピタルの存在だけでは不十分であり、橋渡し型ソーシャルキャピタルを一定程度獲得し、保持することが必要ということはないだろうか。結束型ソーシャルキャピタルは、橋渡し型ソーシャルキャピタルの不在を十分に代替するものであるのだろうか。また、移民が日本社会に「信頼」を置いていることは、現実にはどのような役割を果たすのだろうか。移民が日本社会で日常的に直面する生活上の便宜にとどまらず、長期的な移民の社会統合を考えるのであれば、この点に関する検討が必要だろう。

### オランダ・ドイツの事例 ―橋渡し型と結束型の果たす役割

ここで、移民における「二つのソーシャルキャピタル」の存在が、彼らのホスト社会における社会的地位にどのような影響を与えているのか具体的に分析した、極めて興味深い研究がある。以下、紹介したい。

アムステルダム大学の移民研究者であるブラム・ランシーは、ドイツとオランダをフィールドとして、橋渡し型ソーシャルキャピタルと結束型ソーシャルキャピタルが、それぞれどのように移民の社会的地位の向上に貢献しているのか、既存のパネルデータを活用し、実証的な分析を行った(Lancee 2012)。ドイツにおける主たる分析対象はトルコ系移民であり、オランダではトルコ系、モロッコ系、スリナム系などが対象である。彼の分析は、移民研究、そしてソーシャルキャピタル研究の双方にとって意義深いものがある。

結論からすると、移民の社会的地位の向上（具体的には、雇用・職業上の地位・所得）に明確に貢献するのは、橋渡し型ソーシャルキャピタルの存在である。すなわち、移民が自らの属するエスニック集団を超え、ホスト社会の人々とつながるソーシャルキャピタルを保持している場合には、雇用される機会が増大し、職業上の地位の向上が見込め、所得の増大する可能性が高まる。特にその傾向は男性において顕著である。

橋渡し型ソーシャルキャピタルの有無を判定する際、ランシーがオランダについて利用したのは、具体的に以下の項目である。すなわち「自分のエスニック集団よりもオランダ人との接触が多いか」「オランダ人の友人や知り合いがいるか」「オランダ人の友人や近所の人を家に招くことがあるか」、などである (Lancee 2012: 81)。なおここで「オランダ人」とあるのは、エスニック・マイノリティに属さないオランダ人 (native Dutch) を指す。

上記の項目に該当する項目が多く、あるいは該当する程度が高い場合には、移民自身が橋渡し型ソーシャルキャピタルを保持している、すなわち、エスニックな境界を越えたオランダ社会とのつながりを持っているということを意味する。その場合には、自身の職業上のチャンスが広がり、地位と所得の向上が見込める。ランシーがまとめているように、特に男性において、「高水準の橋渡し型ソーシャルキャピタルを持っている人は、そうでない人よりも雇用されるチャンスが増大する。すでに職を持っている場合には、橋渡し型ソーシャルキャピタルを持つことが高収入・高い地位につながっていく」のである (Lancee 2012: 100)。

他方、結束型ソーシャルキャピタルの存在は、前述のような移民の社会的地位の向上に貢献すると認

めることは、ほとんどできない。すなわち、家族や同じ移民集団に属する人々と密接なつながりをもつことは、職業生活に関する限り、移民の社会的上昇に貢献していない、ということになる。

結束型ソーシャルキャピタルの有無を判定する際、ランシーがオランダで用いたのは、具体的には以下の項目である。すなわち、「過去3か月以内に、親や子供から何らかの支援を得たか」「過去3か月以内に、親や子供から何らかの助言を得たか」「過去12か月以内に、親や子供に会ったか」などである (Lancee 2012: 80)。

オランダにおける調査項目を見る限り、親や子供という家族関係に関する親密さを示す項目に限定されており、いわゆる同胞とのつながりとは必ずしも一致しない点が指摘されよう。他方ドイツについては、「しばしば一緒に外出したり会ったりする友人、親戚、その他の人々を3人思い浮かべてください」と回答者に尋ねたうえで、そこで挙げられた友人・親戚などが自分と同じ国の出身者であるかどうかを重ねて尋ねることで、同国出身者とのつながりの強さを測定する (Lancee 2012: 105-107)、さらに「過去12か月以内に、ドイツ人の家を訪問することがありましたか」「過去12か月以内に、ドイツ人を自宅に迎えたことがありましたか」と尋ねる、といった方法が利用されている。

以上のドイツ・オランダに関する調査を分析して明らかになったことは、結束型ソーシャルキャピタルの強さは、一部を除き、移民自身の社会的地位の向上に貢献することがほとんどないということである。その理由は定かではないが、家族や同じエスニック集団との人間関係を最優先することが、結果として各人のホスト社会における社会的上昇を妨げるという指摘もある (Lancee 2012: 158)。同胞や家族からの圧力のもとで、無償労働や低賃金労働を甘受せざるを得ないとすれば、それは各人に重い負担となつてのしかかる (Bankston 2014: 43)。ランシーは、「家族や同胞集団のネットワークに閉じこもること」は、仲間内の連帯意識や信頼を示すものではあるが、しかし「仕事を見つけるうえで、新たな価値ある情報を当人にもたらずものではない」、とまとめている (Lancee 2012: 161)。

以上の分析結果については、図1のまとめも参照されたい。

	雇用		職業上の地位		所得	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
結束型			○			
橋渡し型	○	○	○		○	

図1 結束型・橋渡し型それぞれのソーシャルキャピタルにおける効果 (○は「効果あり」を示す。Lancee (2012: 99) をもとに筆者作成)

ここで注目すべきことは、以上で示された結果が、ドイツとオランダで共通にみられることである (Lancee 2012: 159)。両国は移民をめぐる大きく異なる対応をとってきた歴史を持ち、移民の社会的な位置づけは異なっている。ドイツでは公式に「移民」を認めるのが遅く、移民の国籍取得にも強い制約が課せられてきたのに対し、オランダは移民の存在を正式に位置づけたうえで、多文化主義を基本とした移民集団のアイデンティティを尊重する政策をとってきた。そのような大きな違いが両国で存在するのであれば、移民におけるソーシャルキャピタルのもたらす便益に違いがあっても不思議ではない。



しかし結果として、両国のいずれにおいても、社会的地位の向上に貢献することが示されているのは、橋渡し型ソーシャルキャピタルであり、結束型ソーシャルキャピタルではない。 そうだとすれば、移民の社会的地位の向上にとって重要なソーシャルキャピタルが、結束型ではなく橋渡し型であるという現象は、単に両国のみならず、多くの国において当てはまる、一般的な傾向である可能性がある。

### ソーシャルキャピタルをめぐる態度・価値

さらにこのランシーによる分析が興味深いのは、橋渡し型ソーシャルキャピタルと結束型ソーシャルキャピタルの双方について、「現実に当該のソーシャルキャピタルを保持しているのか」のみならず、「当該のソーシャルキャピタルに対する個々人の態度・価値はどうか」という点についても、分析が行われていることである。すなわち、移民の人々がホスト社会の価値観を受け入れる用意があるのか（＝橋渡し型ソーシャルキャピタルを重視する姿勢を持っているのか）、あるいは家族をはじめとする親密な人々に頼ることを最優先する価値観を持っているのか（＝結束型ソーシャルキャピタルを重視する姿勢を持っているのか）、についても検討が行われている。

結果としては、このような「ソーシャルキャピタルについての姿勢」をみた場合、橋渡し型・結束型のいずれについても、移民本人の社会的地位の向上に貢献することは、ほとんどなかった（ただしオランダにおける移民女性においては、橋渡し型ソーシャルキャピタルに対して肯定的な姿勢を持っている場合、所得に関してのみ影響を及ぼすという結果が出ている）。ここから言えることは、自集団の内部・外部のどちらに向かうにせよ、移民がソーシャルキャピタルを積極的に保持しようとする姿勢を持つことそのものは、本人の社会的上昇に積極的に貢献するものではない。あくまで重要なのは、橋渡し型ソーシャルキャピタルを実際に保持していること（＝ホスト社会の人々と具体的なつながりを持っていること）である、といえよう。

### 本調査への示唆

さてそれではこのランシーの分析結果を踏まえ、本調査結果について改めて検討してみよう。すでにまとめたように、日本社会における移民の場合、一定水準の結束型ソーシャルキャピタルを保持しているものの、橋渡し型ソーシャルキャピタルについては概して低水準にとどまっている。このことは、移民の多くが日常的な困りごとについて相談できる仲間を持ち、とりあえず生活を送るために必要なネットワークを保持していることを意味する。しかしながら、日本社会とのつながりが薄く、橋渡し型ソーシャルキャピタルが弱いことは、彼らが中長期的に日本で職を得てキャリアアップを目指すうえで制約がかかる可能性がある、ということを示している。

また、ランシーの分析結果を用いると、日本社会に対する移民の意識・態度そのものは、彼らの社会的地位の向上に積極的に結びつくものではない、ということもいえそうである。本調査結果で示されたように、移民の人々は地域の日本人に対し概して「信頼」を置いており、心理的には近い距離にあるといえる。しかしランシーが示すように、ホスト社会に向けた移民の側の態度・姿勢自体が当人の社会的地位に特に貢献することはないとすれば、重要なことは主観的な「信頼感」の有無というより、具体的な日本人とのつながりの存在である、ということもいえるだろう。

## おわりに ーホスト社会側からみた橋渡し型ソーシャルキャピタル

なおランシーの分析においては、ホスト社会側の人々にとって、橋渡し型ソーシャルキャピタルを保持すること、すなわち移民の人々と関わるのが自らの社会的地位の向上に資するのか、という点についても検討が行われている (Lancee 2012: 137-153)。

移民にとって、ホスト社会と関わりを持つことが自らに有用な機会を提供するのであれば、逆にホスト社会の人々が移民と関わりを持つことは、彼らにとって便益を提供するのだろうか。

残念ながら、逆は必ずしも真ならず、であるようだ。ドイツについての分析によると、(エスニック・マイノリティに属さない) 多数派のドイツ人にとって、橋渡し型ソーシャルキャピタルを持つこと、この場合は民族を超えた人間関係を持つことは、特に自身の社会的地位の向上に資するものとはされていない。他方、ドイツ人が同じドイツ人とのつながりを持つことは、自らの雇用機会を増大させる。つまり、移民であってもドイツ人であっても、「多数派ドイツ人と関わりを持つ」ことは自身の社会的地位の向上に貢献し、移民と関わることは特に社会的地位の向上に結び付くものではない、ということでもある。

おそらくこの「多数派と関わるのが具体的な便益をもたらす」というあり方は、ドイツに限られたものではないだろう。しかしそうであるならば、日本を含む多くの国において、ホスト社会の人々の移民に対する無関心は正当化され、多数派優位の構造は再生産され続けるだろう。

本稿で示されたように、移民がホスト社会とつながりを持ち、橋渡し型ソーシャルキャピタルを積極的に築いていくことは、移民の社会的地位の向上、中長期的な社会統合を促すうえで、極めて重要である。しかし同時に、「多数派とつながることにこそメリットがある」という構造が、移民の存在自体をマージナル化する危険もある。この構造の持つ制約を乗り越え、移民とホスト社会構成員の双方にとって豊かな共生社会を築くことが、いま求められているのではないだろうか。

## 参考文献

- Bankston III, Carl L., 2014, *Immigrant Networks and Social Capital*, Cambridge: Polity Press.
- Lancee, Bram, 2012, *Immigrant Performance in the Labour Market: Bonding and Bridging Social Capital*, Amsterdam: Amsterdam University Press.
- Putnam, Robert D., 2000, *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*, Simon & Schuster = 2006, 柴内康文訳『孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生』, 柏書房.

# 地域社会における「留学生」とソーシャルキャピタル —介護福祉専門学校を軸とした地域住民間の交流を例に—

千葉大学・国際教養学部 佐々木綾子

## はじめに

本稿は、「国際移動の実践科学：ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康」と題して実施されたアンケート調査のなかでも、とりわけ移住者と「日本人との関係」に焦点を当てたクロス集計の分析結果をまとめたものである。移住者らは、「日本の医療・保健・福祉サービスに満足しておらず利用することができていない」「日本は西欧諸国に比べ移住者・難民に対する文化的配慮にとんだサービスは乏しく、包括的福祉施策も構築されていない」（鶴川・野田 2013: 82）と言われて久しい。そこで、日本に居住する移住者らが安心して生活できるような社会的システムを構築することを目的として本調査を実施した。調査結果からは、移住者が主観的にとらえる「日本人との関係」と「日常生活」に関する満足度との間に有意な相関があることがわかった。また、居住地域における近所付き合いが深い人ほど、日本人との関係に満足しているということも明らかになった。

筆者（佐々木）は、本調査研究と並行して、文部科学省委託事業である専修学校による地域中核的人材養成事業「地域活動による高齢者支援・介護支援の学習プログラムの研究開発事業」ならびに専修学校リカレント教育総合推進プロジェクト「介護・保育分野における異文化間異世代間の交流促進のための分野横断型リカレント教育プログラムの開発」（両委託先：学校法人敬心学園職業教育研究開発センター）<sup>1</sup>の委員を委嘱されており、専修学校が中心となり地域社会と連携し、専修学校でのカリキュラムの一環として介護人材を育成していくための学習プログラムの開発や、介護・保育の職場における異文化間の交流促進活動に関する研究に参画してきた。同時に、埼玉県鴻巣市の関東福祉専門学校における教育課程編成委員会<sup>2</sup>に委員として参画し、学生の8割が「留学生」である当該校の地域を巻き込んだ教育的な取り組みについての見聞を深める機会を得た。

そこで本稿では、調査結果の分析とともに、地域に暮らす日本人住民と外国人留学生との交流の場を設けた地域ぐるみの教育活動を実施する関東福祉専門学校の事例を取り上げ、移住者（ここでは特に「留学生」）が日本人との交流を持ちながら「地域住民」として安心して生活していくことのできる環境をどのように作り得るのか考察していきたい。なお、調査研究のタイトルにおいて「移住者」と定義した人々の表記は、論者や場面によって「外国につながる人々」「移民」「難民」「外国人住民」「留学生」などと多様な表現を伴って表記されている。本稿でも「移住者」を中心として場面に応じた表記を用いることとする。

## 移住者と地域社会とのつながり

移民難民の受入れが進んでいる国々においては、ソーシャルキャピタルは「社会統合」を促進する仕

---

<sup>1</sup> 前者は平成30年度採択の3年間の研究事業（予定）。筆者の委員任期は平成30年～令和2年3月である。後者は、平成31年度採択の3年間の研究事業で、委員任期は平成31年～令和4年3月の予定である。

<sup>2</sup> 平成30年3月より参画しており、現在に至る。

組みを考える上での重要な要素であるとして注目されてきた。森（2018）は、日本における難民の「主観的な社会統合」がどのようになされているかに焦点をあて、その際にもソーシャルキャピタルが重要な役割を果たしていることを明らかにした。福祉領域では、森谷（2011: 101-110）が、ソーシャルサポートを得やすいエスニック・コミュニティ（本稿では「同胞」のコミュニティ）を持たない「難民申請者」を集団として組織し、その集団を対象としたソーシャルグループワークによる支援によって、メンタルヘルス上の一定の効果が得られたことを明らかにしている。また、地域福祉の文脈からトランスナショナルな移住生活を続ける日系ブラジル人の「不安定な定住」について、コミュニティの在り様や社会関係の脆弱性などにみえる課題を指摘し、解決の方途などを探った朝倉（2017）の研究、「地方」とよばれる人口の比較的少ない地域において「外国人住民」とどのように共生しながら地域づくりを実施できるのか、事例を用いながら論じた徳田ら（2019）の論考も、多文化共生のコミュニティや地域づくりにおける「つながり」の創出の重要性を示唆している。

一方、中国からの移住者が多く居住する埼玉県「芝園団地」に住みながら多文化共生の在り様を体感しつつ執筆した大島（2019）は、中国人住民が増えていく団地において、日本人住民のなかに生まれる「もやもや感」や他者化のプロセス、実情を必ずしも反映せずに団地の一部住民間で行われている交流の様子に対して授与される「多文化賞」などへの、日本人住民間の違和感を記している。ここで大島は、ソーシャルキャピタルという概念は使用してはいないものの、団地内の中国人住民と日本人住民をつなぐサークルの存在や、自治会の数名と日本人の学生団体が介入して作り出した交流の場の存在など、パットナムの述べる橋渡し型ソーシャルキャピタル<sup>3</sup>が機能する可能性を描いている。しかしながら、そうした「交流の場」の存在そのものが自然と機能するようになるのかということ、必ずしもそうではない。例えば、芝園団地の自治会が企画・運営していたお祭りが終了に向かっていく背景からは、「サービス提供者＝日本人住民」、「受益者＝中国人住民」として役割が固定化されてしまい、自治会費を払ったり、やぐらを組んだり片付けをしたりすることを中国人住民が担うことなく「ただ乗り」しているような状態（いわゆる「フリーライダー」）が日本人住民の中に、ある種の「モヤモヤ感」を生じさせたことが記されている。同時に、自治会の日本人住民のなかには、企画運営の正式メンバーとして中国人住民を快く受け入れる気もない（「私たちの団地の祭りである」という意識）人々もいるという、ねじれた状況が存在していることも明らかにしている。

このような状況にある芝園団地で実施されたアンケート調査（回収率 10.9%）からは、「外国人住民と交流や関わりを持ちたいと思うか」という質問に対して、団地に住む日本人住民の回答の2割が「思う」「やや思う」であったのに対して、中国人住民の回答のうち8割が「思う」「やや思う」であったことがわかっている（大島 2019: 138）。むろん、回収率は低く、中国人住民の回答数は65件であり一般化はしづらい。しかしながら、ここには中国人住民の「一方通行的な願い」と、それに対する多くの日本人住民側の「無関心」や「拒絶心」が垣間見られる。

本調査では「日本人」に対する調査を実施していないので、芝園団地と同じようなことがそれぞれの回答者が居住する地域社会で起こっているのか、確かなことはわからない。しかし、本調査では、橋渡

---

<sup>3</sup> パットナム（2000 = 2006）によれば、ソーシャルキャピタルには結束型と橋渡し型があり、結束型は同質（いわば「同胞」）の集団内でみられるネットワークによって成立するが、橋渡し型は特定の集団を超えて、異なる性質を持つ人々も含んだネットワークにおいて成立する。

し型ソーシャルキャピタルが機能する上で重要な「信頼感」については、「同胞」<sup>4</sup>に対する信頼感よりは少ないものの、7割近い回答者が「地域に住む日本人を信用できる」と感じていることが明らかになった(Q.64より)。だが同時に、過去1年の間に「騙されたり、裏切られたり」した経験や「差別的な扱い」「暴言を吐かれる」などの経験をした人が回答者の約4割にも上っていることも、同時に記しておく必要があるだろう(Q75より)。本質問項目は、誰からそのようなことをされたのかを特定していないため、こうした回答の全てが地域社会に居住する日本人一般との交流の程度に結びついているかどうか、その関連を明らかにすることはできなかった。しかしながら、日本社会において「私たち」ではなく「他者」として位置づけられる傾向にある移住者たちが、地域に暮らす「住民」として同様の利益を享受しながら安心して生活する上での障壁となる事象を明らかにするためには、移住者に対する日本人住民からの「信頼感」を向上させることや移住者に対して日本人住民が持つ「姿勢・価値」に働きかけ、共生の在り方を考えることが大変重要だと思われる。

### 「日本人との関係」と「生活満足度」の関連

次に、移住者らが安心して生活できるような社会システムを構築するための課題を検討する上での有用な結果として、移住者をもつ「日本人との関係」と彼らの「日常生活」に対する満足度との間に有意な相関関係があった点を取り上げたい。

先に述べた通り、本調査では移住者らの居住する地域における「日本人との関係」については、「Q64.あなたの地域に住む日本人は、一般的に信用できると思いますか」および「Q67.あなたは、地域内のご近所の日本人とどのようなおつきあいをされていますか」の2つの質問から回答を得ている。一方、「生活満足度」を聞く質問としては、「Q86.日本での生活について評価してください」のなかで、「日常生活について」「給料や収入について」「教育・学業について」「日本人との関係」などを評価する7項目をいれた。スケールは5段階となっており、「1.非常に満足している」から「5.全く満足していない」としている。本節では、これらの結果をもとに分析<sup>5</sup>を進める。

#### (1) 日本人との関係に満足している人は、日常生活にも満足している

Q86において、日常生活に「非常に満足している(14.2%)」「満足している(46.6%)」と回答した人々は、日本人との関係についても「非常に満足している(8.1%)」「満足している(41.2%)」と回答した割合が高かった。

---

<sup>4</sup> 本調査においては「同胞」を回答者に定義してもらった。その結果、多くの回答者が「同じ国、同じ民族、同じ宗教の出身者」として「同胞」を捉えていた。しかし、なかには、「親切な人」等の回答もあった。

<sup>5</sup> なお、本節で行っている分析には、宮國康弘氏（現、国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究所センター老年学評価研究部）および佐々木由理氏（現、国立保健医療科学院国際協力研究部）の多大なるご協力を得た。

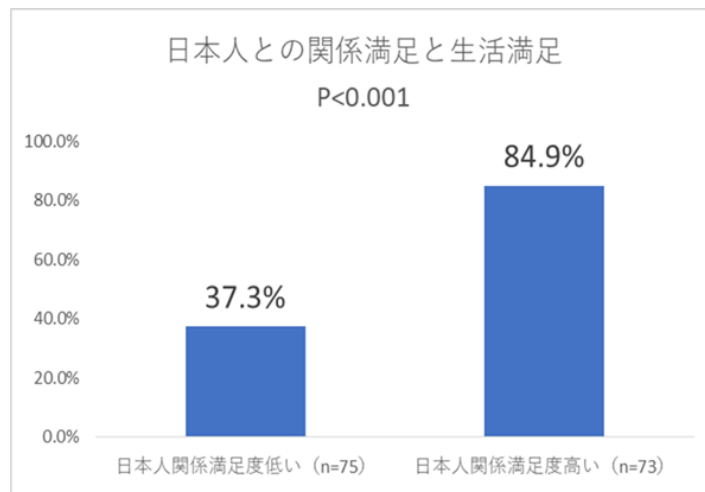


図1 日本人との関係満足と日常生活の満足度（作成：宮國康弘・佐々木由理）

図1は、日本人との関係に満足していると回答した73人が「日常生活に満足している」と同時に回答した割合が約85%であったことを示している。一方、日本人との関係に「どちらともいえない」「満足していない」「全く満足していない」と回答した75人で日常生活に満足している割合は約4割に留まる。相関関係ではあるものの、移住者が日常に満足感を得ながら生活できる環境をつくるためには、日本人との良い関係を築く仕組みが有効な可能性がある」と解釈できるだろう<sup>6</sup>。

(2) 日本人との近所づきあいが深い人ほど、日本人との関係に満足している

もう一点、(1)に関連して、「近所づきあい」の程度が「日本人との関係満足」と相関関係にあることがわかった。

図2は、Q67の質問「あなたは、地域内のご近所の日本人とどのようなおつきあいをされていますか」において、「いつでも隠し事なく互いに相談・協力したりしている」「必要な時に互いに相談・協力したりしている」と回答した、近所の日本人との付き合いが比較的深いと考えられる人々が、概して日本人との関係にも満足している割合が高いことを示している。

しかし一方では、「あいさつ程度の最小限のつきあい」や「つきあいが全くない」と回答した近所付き合いが浅い人々でも、4割程度は「日本人との関係」には満足していることも見えてくる。この結果は、近年の日本社会においては特に、一般に近所付き合いをほとんどしない人々でも職場や学校での人間関係には満足している場合も多く（そもそも、近所付き合いがあることの方が煩わしいという価値観）、人間関係そのものが対面からオンライン上へと変化している、などの社会的背景があるかもしれない。とりわけ今回の調査は、人々との関係が地域社会内で完結されない可能性の高い都市部の東京、埼玉、千葉を中心に調査票を配布したこと、回答者に「留学生」が多かったこととも大きく関係していると思われる。しかし、そうした事情を考慮しても、近所の日本人との付き合いが深いほど、日本人との関係満足度が有意に高いという分析結果は、地域社会における日本人とのより親密な関係構築の有無が移住者

<sup>6</sup> 日常生活に満足している移住者であるため、日本人との関係も良好に保てる余裕があり、日本人との関係性に満足しているということも否定できない。今後のさらなる検討が必要である。

の生活満足度にも影響を与えうることを示唆していると言えるだろう。

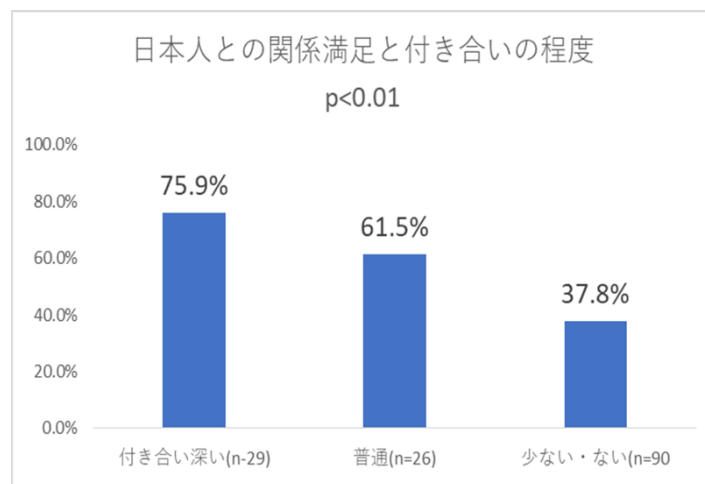


図2 日本人との関係満足と近所付き合い（作成：宮國康弘・佐々木由理）

### 「留学生」と地域社会

先に述べたように、本調査における対象者の多くは「留学生」であり、そのことが日本人との関係満足や、近所付き合いの程度に関係している可能性には留意が必要である。それと同時に、この在留資格「留学」にて日本に滞在する「留学生」の実像が非常に多様であることも考慮する必要があるだろう。例えば、留学先が「日本語学校」なのか「専門学校」なのか、「大学」や「大学院」なのか、それが居住する地域に存在しているのか、電車で通学しなければならない場所にあるのか、アルバイトをしているのか否か、アルバイト先はどこかなどによって彼らの生活状況や日本人との繋がり方は異なることが考えられるからだ。

出井（2018）は、その著書のなかで、留学生を呼び入れることによって「町おこし」をしようと試みるいくつかの地域を取り上げ、そうした計画の背景にみえる政治性や「留学生」を取り巻く搾取の構造について記している（出井 2018: 137-172）。筆者もこれまでの研究のなかで「留学生」が単なる安い労働力として悪用されかねないケースをいくつかみてきた（Sasaki & Ogawa 2019）。例えば、介護施設においてアルバイトをさせることを主たる目的として日本語学校で生徒を募集したり、「インターン」といった用語を用いて、介護施設でアルバイトをしてもらうことを前提に系列の日本語学校で生徒を募集したりするようなケースである。「留学生」は勉強しながら働くことができるので借金をしてでも留学したいと考える一方で、学校や施設の側も「授業料」と「労働力」を一気に確保できるというメリットがある。ここで支払われる給与も最低賃金あるいは最低賃金以下であることが多いが、さらに授業料は給与から返済すればよい、という一種の「貸与型奨学金」制度をつくることによって、貨幣は系列法人内を循環するだけとなる。

こうした悪例はあるものの、人々の生活や人生を豊かにし、社会的な地位の上昇につながる「留学」ももちろんある。そうした「留学」は、留学生の側に恩恵をもたらすのみならず、彼らと関わりを持つ人々の生活や人生を豊かにし、地域社会の福祉環境も向上させる可能性がある。例えば近年、人材不足

が叫ばれている介護分野における留学生は、通っている専門学校の近隣に住み、地域社会にある介護施設において実習やアルバイトをしながら地域に住む様々な人々と交流しつつ関係をつくり、卒業後も継続して地域の介護を支えることのできる道が開かれている。以下では、そうした試みの一例として、関東福祉専門学校を取り上げ、その取り組み内容を紹介したい。

### 介護福祉士養成校における留学生

本題に入る前に、まず全国の介護福祉専門学校（以下、介護福祉士養成校）の現状に触れておこう。介護人材の不足が叫ばれて久しいが、そうした人材を育成する目的で設立された介護福祉士養成校も、過去数年にわたり学生の募集には大変苦慮している。介護福祉士養成校協会によると、全国における介護福祉士養成校の2019年度の入学者総数は6,982人で、入学定員数に対する定員充足率は48.5%であった<sup>7</sup>。定員充足率が50%を切るようになったのは2015年からであるが、その頃より、学校側は学生募集を海外にも積極的に展開するようになった。介護領域において「外国人」を育成しようとする動きが加速した背景のひとつには、2008年から開始されたEPA（経済連携協定）下での外国人介護福祉士候補生の受入れをはじめとした、介護分野における「外国人材」の活用方針がある。EPAでは大学卒業以上のエリート層をターゲットとしているものの、近年では、外国人技能実習制度の職種拡大や在留資格「特定技能」が創設されたことによって、より広い範囲で外国人を「介護人材」として受入れることが可能となっている。

「介護留学生」の受入れもその流れのなかに位置付けられる。これまで日本の介護福祉士養成校で学び、介護福祉士国家試験に合格したとしても、日本で介護の仕事に就くための適切な在留資格がないために外国人は働くことが難しいという状況があった。しかし、これに対して2017年には在留資格「介護」が創設され、介護福祉士養成校の卒業生が介護職として働き続けられる道が開けたのである。在留資格「介護」の創設を見込んだ養成校は、留学生を積極的に受け入れるようになり、2014年には17人（入学者数に対する割合はわずか0.2%）だった留学生は、2015年には94人（同、約1%）、2016年は257人（同3.3%）と徐々に実数と割合を増していき（介護福祉士養成校協会 2018）、2019年現在では2,037人（同29.2%）と入学者総数の約3割を占めるに至っている<sup>8</sup>。

### 社会福祉法人元気村 関東福祉専門学校における取り組み

関東福祉専門学校は、社会福祉法人立の介護福祉専門学校として1997年4月に開校したが、開校当時より韓国との姉妹校提携を行い、2009年には本格的に留学生の受入れを開始した。2011年にはカンボジアのアンコール大学、2016年には中国広州市の谷豊職業訓練学校、2017年には台湾の聖母醫護管理専科学校との姉妹校提携を行っており、また2020年4月より学校法人化が決定している。元気グループは、介護施設を中心とし、教育関連組織として幼稚園や専門学校も開設しているが、その一つである関東福祉専門学校は埼玉県鴻巣市内にある。現在、当該校の留学生は入学者の約8割を占めており、ベトナムのほか、スリランカ、ネパール、インドネシア、中国からの留学生が毎年80人～90人程度在籍している。また、既に卒業生たちがグループ内の介護施設や近隣の施設において介護職員として働い

<sup>7</sup> 介護福祉士養成校協会の会員向けに発表されたものを、介護のニュースをまとめたJOINTで報道している。<https://kaigo.joint-kaigo.com/article-12/pg922.html> より。

<sup>8</sup> 同上。



ている。

2020年3月現在、鴻巣市<sup>9</sup>の総人口は118,257人、そのうち外国人人口は1,747人（約1.5%）となっている。また、市の高齢化率は29.3%で、全国の高齢化率28.4%（2019年9月現在）<sup>10</sup>と比較して高い状態にある。こうしたなか、関東福祉専門学校では、地域社会との連携を通して介護人材を育成することを模索してきた。具体的には、学生とともに、①地域に出ていく活動と、②地域の人々を呼び込む活動 という二つの方向性において地域社会とのつながりをつくりながら、学生に学びの機会を提供している。

①では、例えば、鴻巣市の国際交流協会（主催：コミセン祭り実行委員会、後援：鴻巣市、鴻巣市教育委員会、鴻巣市コミュニティ協議会）が実施した国際交流フェスティバルに留学生とともに参加して市民との交流を図ったり、市内の言語交流研究所の人々との交流を図ったりするなど、「国際交流」に興味を持つ「日本人」や既に鴻巣市に居住する「外国人」とのつながりをつくる活動である。また、元気村グループのコミュニティラジオ局によって放送されているラジオ番組「Live with Asia」では、鴻巣の地域情報や生活情報、学校情報や就労情報とともに留学生の母国の情報、留学生からみた日本の様子、異文化体験談、介護留学体験談を発信し、SNSを使って留学生の母国でも聴くことができるような仕組みをつくっている。さらに、助成金を活用し地域のNPO法人と連携して重症心身障がい児の入浴介助を行ったりするなど、専門である介護を通して地域とつながる活動も実施している。これらの活動によって生まれる交流によって、地域住民から「留学生」に対する親近感や信頼感を得ていくことが可能となっている。

②については、専門学校の教室や調理室、体育館を使用して地域の人々を招いた活動を実施している。例えば、子ども料理（栄養）教室、健康（予防）体操教室、地域食堂の開催、昼食を地域住民と留学生と一緒に食べる食事会の開催などである。これらは、必ずしも「国際交流」や「外国人」に興味がある人々のみが対象になっているわけではない。だが、留学生が日本の料理を日本人住民から教わり、また留学生が自分たちの出身国の料理を日本人住民に教えながら、一緒に調理する機会を設けることによって、お互いの食文化の違いに関する理解を深め、つながりを作りだすことができている。こうした数々の取り組みのなかから、地域の人々に材料として野菜を提供してもらうなどの自発的なやり取りが生まれている。さらに、地域食堂の開催時には、食事ができるのを待っている子どもたちの世話をしたり、遊び相手になったりする学生も出てきたという。当校の教員からは、「交流を深める中で、生活支援技術やアクティビティサービス等、授業内で学んだ援助技術や知識とリンクし、子どもたちがいかに楽しんでもらえるのかといった想像力と創造力とを養うことにつながっているのではないか」との評価もある。

このような「設定された場」における取組みが、例えば、近所のお祭りの運営にかかわる、余った食材を近隣に分け合う、災害時に必要な情報を届ける、病気の際は病院に付き添う、寝込んでいるときは代わりに買い物に行くなど、個々人の関係を基盤とした「助け合い」へと発展していくのかどう

---

<sup>9</sup> 鴻巣市の統計は鴻巣市総務課の報告による。

<http://www.city.kounosu.saitama.jp/soshiki/somu/5/gyomu/4/jinkousetaisu/1493699464024.html>  
[2020年4月14日]。

<sup>10</sup> 総務省統計局ホームページより。<https://www.stat.go.jp/data/topics/topi1211.html> [2020年4月14日]。

かは定かではない。しかし、専門学校がお膳立てをした場における留学生と日本人住民との交流は、その固定的な枠組みを超えて、地域社会において1人ひとりが関係性を築ききっかけにはなっているだろう。こうした一人ひとりの関係性の構築を促す試みによって、「教育」として提供された関係が橋渡し型ソーシャルキャピタルとして機能していくことも期待できる。

## おわりに

本稿では、「日本人との関係」と「生活満足度」、「日本人との関係」と「近所づきあい」の程度に関する調査結果をもとに、地域社会において移住者らが安心して生活していくために必要となる、「地域住民からの信頼」をどのように得ていくのか、どのようにして橋渡し型ソーシャルキャピタルを創出し得るのか、その一例として関東福祉専門学校における取組みを紹介した。日本において移住者らが学び、働き、生活しやすい環境をつくるためには、制度政策の面からの改善とともに、「外国人住民」と「日本人住民」、「留学生」と「日本人学生」といったような固定化された枠組みや、一方通行の関係ではなく、地域に住む住民の1人としてそれぞれが関係性を築き上げることのできる仕掛けが必要である。

本稿では詳細に触れるスペースはないが、取り上げた専門学校において、留学生の育成を地域社会の福祉環境全体の向上につなげるためには課題も残されている。例えば、介護留学生にみる介護福祉士国家資格の合格率は、日本人学生と比較すればやや低い状況にあると報告されている<sup>11</sup>。質の高い介護を提供できる介護福祉士を地域社会に送り出すためには、留学生への日本語教育やきめ細かい試験対策などを実施しつつ、介護の勉強に集中できるような環境を整えなければならない。「労働力」や「人材」として活用するという視点ではなく、地域社会をともにつくる「住民」として、また、その知識と技術を生かして地域の介護を支える専門職の卵として、地域社会のなかで留学生を育てていくことが今後の大きな課題として残されている。

## 参考文献

- 朝倉美江, 2017, 多文化共生地域福祉への展望 多文化共生コミュニティと日系ブラジル人, 高菎出版.
- 出井康博, 2018, 移民クライシス 偽装留学生、奴隷労働の最前線, 角川新書.
- 鶴川晃・野田文隆, 2013, 「日本に在住する難民・難民認定申請者の生活実態調査とその福祉的支援に向けた研究—難民認定申請者のこころの問題に焦点をあてて」『難民研究ジャーナル』第3号, pp. 81-88.
- 大島隆, 2019, 芝園団地に住んでいます 住民の半分が外国人になったとき何が起きるか, 明石書店.
- 介護福祉士養成校協会, 2018, 介養協 News.
- 徳田剛・二階堂裕子・魁生由美子, 2019, 地方発 外国人住民との地域づくり 多文化共生の現場から, 晃洋書房.
- Sasaki & Ogawa, Social Stratifications of Migrant Care Workers in Japan, “ASEAN Social Work Journal,” 7 (1), 2019.
- Putnam, Robert D., 2000, *Bowling Alone: The Collapse and Revival of American Community*, Simon &

---

<sup>11</sup> 教育課程編成委員会における議論より（2019年8月および2020年3月）。

Schuster = 2006, 柴内康文訳『孤独なボウリングー米国コミュニティの崩壊と再生』, 柏書房.  
森恭子, 2018, 難民のソーシャル・キャピタルと主観的統合 在日難民の生活経験への社会福祉学的視座, 現代人文社.  
森谷康文, 2011, 「エスニック・コミュニティのない難民申請者へのグループワークによる支援」『難民研究ジャーナル』第1号, pp.101-110.

# 資料編

# 研究協力をお願い

私たちは、文部科学省の補助金を得、千葉大学において「国際移動の実践科学：ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康」というテーマに取り組んでいる研究者グループです。

外国からいらして日本に滞在される方々は年々増加しています。その方々が生活、健康面において安心して生活できるような社会的システムを構築する目的で研究を行っています。

下記に該当する方にアンケートにご回答いただきたくお願い申し上げます。

1. 日本の国籍を持っていない方、
2. 日本国籍を持っているが、中学まで日本以外で教育を受けていた方。

注) 日本国籍の取得の有無にかかわらず、中学までの教育を日本で受けてきた方については、回答をご遠慮ください。

- ・回答は選択式（一部、記述式）で、ご回答には30分程度かかるかと思えます。
- ・お名前をお知らせいただく必要はありません。
- ・これまでのご経験により、PTSD※（Post Traumatic Stress Disorder=心的外傷後ストレス障害）を起こした方、またはその危険性がある方は、アンケートを受けないでください。アンケートの途中で、その症状が起きるかもしれないと思った時は、アンケートに答えるのをやめてください。
- ・アンケートの開始前または途中でやめたくなった場合は、いつでも中止して下さってかまいません。また、ご体調が悪くなった場合にはすぐに中止してください。ご回答の中止により、ご本人様にいかなる不利益も生じることはありません。
- ・この研究目的以外にアンケートの結果を使うことはありません。
- ・匿名性を確保したうえで、論文を作成し学会等で発表することがございます。
- ・ご不明な点やご質問がございましたら、下記へご連絡くださいませ。

千葉大学 国際教養学部 佐々木綾子

TEL:043-290-3607（国際教養学部・総務） E-mail : asasaki@chiba-u.jp

\*Required

## はじめに（1）

本調査に協力していただくにあたり、あなたが調査対象者になっているか確認する質問をさせていただきます。もしあなたが本調査対象にならない場合は、その時点で調査が終了いたします。ご理解の程お願いいたします。

**1.あなたの年齢は20歳以上（20歳を含む）ですか。** \*

Mark only one oval.

- はい
- いいえ

## はじめに（2）

**2.あなたの出生地は日本ですか。** \*

Mark only one oval.

- はい          Skip to question 3.
- いいえ          Skip to question 4.

## はじめに（3）

**3.この1つ前の質問で出生地を「日本」と答えた方に質問です。あなたは14歳の時点で日本に住んでいましたか。** \*

Mark only one oval.

- はい          Stop filling out this form.
- いいえ          Skip to question 4.

## あなたのこと

次に、あなた自身のことについてお伺いいたします。

**4.あなたの性別を教えてください。**

Mark only one oval.

- 男性
- 女性
- その他

**5.あなたの現在の年齢を下記に記入してください**

---

**6.現在のあなたの在留資格を教えてください。**

Mark only one oval.

- 外交          Skip to question 9.

- 公用 Skip to question 9.
- 教授 Skip to question 9.
- 芸術 Skip to question 9.
- 宗教 Skip to question 9.
- 報道 Skip to question 9.
- 高度専門職 Skip to question 9.
- 経営・管理 Skip to question 9.
- 法律・会計業務 Skip to question 9.
- 医療 Skip to question 9.
- 研究 Skip to question 9.
- 教育 Skip to question 9.
- 技術・人文知識・国際業務 Skip to question 9.
- 企業内転勤 Skip to question 9.
- 興行 Skip to question 9.
- 技能 Skip to question 9.
- 技能実習 Skip to question 7.
- 文化活動 Skip to question 9.
- 短期滞在 Skip to question 9.
- 留学 Skip to question 9.
- 研修 Skip to question 9.
- 家族滞在 Skip to question 9.
- 特定活動 Skip to question 8.
- 永住者 Skip to question 9.
- 日本人の配偶者等 Skip to question 9.
- 永住者の配偶者等 Skip to question 9.
- 定住者 Skip to question 9.
- 在留資格なし（例：超過滞在、仮放免など） Skip to question 9.

## あなたのこと（2-A）

7.1 つ前の質問で、在留資格を「技能実習」と答えた方に質問です。あなたの在留資格は「技能実習」の中でどちらに当てはまりますか。

Mark only one oval.

- 技能実習1号イ Skip to question 9.

- 技能実習1号  Skip to question 9.
- 技能実習2号イ  Skip to question 9.
- 技能実習2号ロ  Skip to question 9.
- わからない  Skip to question 9.

## あなたのこと（2-B）

8. 1つ前の質問で、在留資格を「特定活動」と答えた方に質問です。あなたの在留資格は「特定活動」の中でどちらに当てはまりますか。

Mark only one oval.

- 特定研究等及び情報処理 本人  Skip to question 9.
- 特定研究等及び情報処理 家族  Skip to question 9.
- 家事使用人  Skip to question 9.
- ワーキングホリデー  Skip to question 9.
- アマスポーツ選手 本人  Skip to question 9.
- アマスポーツ選手 家族  Skip to question 9.
- インターンシップ  Skip to question 9.
- EPA 対象者 本人  Skip to question 9.
- EPA 対象者 家族  Skip to question 9.
- 医療滞在・同伴者  Skip to question 9.
- 高度人材 本人  Skip to question 9.
- 高度人材 家族  Skip to question 9.
- 高度人材 家事使用人  Skip to question 9.
- その他  Skip to question 9.
- わからない  Skip to question 9.

## あなたのこと（3）

9. 過去のあなたの日本における在留資格に当てはまるものすべてを選択してください。

Check all that apply.

- 在留資格は日本に来てから変わっていない
- 外交
- 公用
- 教授
- 芸術



- 宗教
- 報道
- 高度専門職
- 経営・管理
- 法律・会計業務
- 医療
- 研究
- 教育
- 技術・人文知識・国際業務
- 企業内転勤
- 興行
- 技能
- 技能実習
- 文化活動
- 短期滞在
- 留学
- 研修
- 家族滞在
- 特定活動
- 永住者
- 日本人の配偶者等
- 永住者の配偶者等
- 定住者
- 在留資格なし（例：超過滞在、仮放免など）
- わからない・わすれた

## あなたのこと（４）

10.あなたの現在の国籍を下記に全て記入してください。

---

11.今までにあなたは帰化等のために国籍を変更したことがありますか。

Mark only one oval.

- はい Skip to question 12.
- いいえ Skip to question 13.

## あなたのこと（4-A）

12. 1つ前の質問で、「はい」（帰化等のために国籍を変更したことがある）と答えた方に質問です。過去に保持していた国籍を以下に記入してください。

---

## あなたのこと（5）

13. あなたが初来日した年を西暦で以下に記入してください。（観光目的を除く）

---

14. あなたはこれまでの来日の手続きを主にどのように行いましたか。

Mark only one oval.

- 主に自分、または家族が手続きをした
- 友人や知り合いをとおして
- 日本の学校や会社をとおして
- 斡旋・仲介機関をとおして
- 支援団体をとおして
- その他

15. 今まで来日の手続きに斡旋・仲介手数料はどの程度発生しましたか。

- Mark only one oval.
- 手数料は全く払っていない
- 少額だが手数料を払った
- ある程度の手数料を払った
- 高額の手数料を払った
- 自分ではない他の誰かが手数料を払った
- わからない・忘れた・答えたくない
- Other: \_\_\_\_\_

**16.あなたの信仰する宗教はどれですか。当てまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- キリスト教
- イスラーム教
- ヒンドゥー教
- 仏教
- 道教
- 神道
- わからない
- 特定の宗教を信じていない
- Other: \_\_\_\_\_

**17.あなたは日本で宗教施設にどの程度通っていますか。**

Mark only one oval.

- 1週間に1回、またはそれ以上
- 月に2～3回程度
- 月に1回程度
- 数か月に1回程度
- 1年に1～2回程度
- 通わない

**18.あなたが自分の気持ちを最も的確に伝えることができる言語はなんですか。以下に記入してください。**

\_\_\_\_\_

**19.親や祖父母が最もよく使う言語はなんですか。**

Mark only one oval.

- 日本語      After the last question in this section, skip to question 22.
- 英語      After the last question in this section, skip to question 22.
- その他

20.この1つ前の質問で、親や祖父母が最も使う言語を「その他」と選んだ方に質問です。その言語はなんですか。以下に記入してください。

---

21.親や祖父母が最もよく使う言語について、あなたの能力はどのくらいですか。以下の状況でどの程度理解できるかを1（全くできない）から5（十分できる）で答えてください。

Mark only one oval per row.

	1.全くできない	2	3	4	5.十分できる
新聞を読む	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
テレビ、ニュース、 ラジオを聞く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電話をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日常会話をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

## あなたのこと（6）

22.あなたの日本語の能力はどのくらいですか。以下の状況でどの程度理解できるかを1（全くできない）から5（十分できる）で答えてください。

Mark only one oval per row.

	1.全くできない	2	3	4	5.十分できる
新聞を読む	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
テレビ、ニュース、 ラジオを聞く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電話をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日常会話をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

23.あなたの英語の能力はどのくらいですか。以下の状況でどの程度理解できるかを

1（全くできない）から5（十分できる）で答えてください。

Mark only one oval per row.

	1.全くできない	2	3	4	5.十分できる
新聞を読む	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
テレビ、ニュース、 ラジオを聞く	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電話をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日常会話をする	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

24.あなたが現在住んでいる日本の住所の7ケタの郵便番号を教えてください。郵便番号が分からない場合、現在お住まいの都道府県名と市町村名を記入してください。

\_\_\_\_\_

25.あなたは現在住んでいる市町村に何年間住んでいますか。

\_\_\_\_\_

26.あなたは日本国外でどの学校を卒業しましたか。当てまるものすべて選択してください。

Check all that apply.

- 小学校
- 中学校
- 高校
- 専門学校
- 短大
- 大学
- 大学院
- その他
- いずれも該当しない

27.あなたは日本でどの学校を卒業しましたか。当てはまるものすべて選択してください。

Check all that apply.

- 小学校

- 中学校
- 高校
- 日本語学校
- 専門学校（日本語学校以外）
- 短大
- 大学
- 大学院
- その他
- いずれも該当しない

## ご家庭・家族について

あなたの家庭・家族についておうかがいします。

### 28.あなたの婚姻状態は、次のうちのどれにあてはまりますか。

Mark only one oval.

- 配偶者がいる（内縁を含む）
- 死別
- 離別
- 未婚
- Other: \_\_\_\_\_

### 29.あなたの現在の日本における居住形態を教えてください。

Mark only one oval.

- 一人暮らし
- 夫婦二人暮らし（同棲・内縁を含む）
- 親世代または子世代との同居（片親世帯含む）
- 友人・知人との同居（例：ルーム・ハウスシェアなど）
- 他人との同居（例：寮など）
- Other: \_\_\_\_\_

### 30.現在ご自身を含めて何人で暮らしていますか。人数を下記に記入してください。

\_\_\_\_\_

**31.あなたと現在同居されている方はどなたですか。当てはまる方すべて選択してください。**

Check all that apply.

- いない
- 配偶者（同棲・内縁含む）
- 息子
- 娘
- 子の配偶者
- 兄弟・姉妹
- 自分の父
- 自分の母
- 配偶者の父
- 配偶者の母
- 同じ出身国の友人
- 違う出身国の外国人の友人
- 日本人の友人
- Other: \_\_\_\_\_

**32.あなたを含め同居しているご家族全体でだいたいどれくらいの収入がありますか。次のうちからあてはまるものを1つだけ選んでください（税込みの額でおこたえください）**

Mark only one oval.

- 200万円未満
- 200万～400万未満
- 400万～600万未満
- 600万～800万未満
- 800万～1000万未満
- 1000万～1500万未満
- 1500万円以上

**33.あなたが住んでいる住宅の種類はどれですか。**

Mark only one oval.

- 持家（一戸建て）
- 持家（集合住宅）
- 公営賃貸住宅
- 民間賃貸住宅（一戸建て）

- 民間賃貸住宅（集合住宅）
- 借家
- Other: \_\_\_\_\_

**34.あなたは現在、生活保護を受給していますか。**

Mark only one oval.

- 受給していない
- 受給している
- 現在申請中

**35.現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。**

Mark only one oval.

	1	2	3	4	5	
大変苦しい	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	大変ゆとりがある

**36.あなたは現在、行政や NGO/NPO などから現金や物品の支援を受けていますか。**

Mark only one oval.

- 1. 受けている                      Skip to question 37.
- 2. 受けていない                  Skip to question 38.

## ご家庭・家族について（2）

**37.1つ前の質問で、「行政や NGO/NPO などから現金や物品の支援を受けている」、と答えた方に質問です。具体的に何を受け取っているのか以下に記入してください。**

\_\_\_\_\_



## 人とのつきあいについて

あなたの人とのおつきあいのしかたについておききします。

**38.友人・知人と以下の手段で連絡をどの程度とっていますか（国内・国外を問わずお答えください）。**

Mark only one oval per row.

	毎日	週4～ 6回	週2～ 3日	週1 回	月1～ 3回	年に数 回	連絡をほとんど とっていない
直接会う	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SNS やスカイプ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電話やEメール等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

**39.この1か月間、何人の友人・知人と会ったり、連絡を取ったりしましたか。同じ人には 何度会っても、何度連絡を取っても 1人と数えてください。**

Mark only one oval.

- 0人（いない）
- 1～2人
- 3～5人
- 6～9人
- 10人以上

**40.よく会う友人・知人はどんな関係の人ですか。当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 近所・同じ地域の人
- 幼なじみ
- 学校が一緒の（だった）友人（小中高、専門学校、大学、フリースクールなど）
- 仕事の同僚・元同僚
- 趣味や関心が同じ友人
- ボランティアなどの活動での友人
- いない

**41.よく連絡を取る友人・知人が近くに居住していない場合、その方はどこに居住していますか。当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 家の近く

- 市内
- 県内
- 県外（日本国内）
- 日本の国外

**42.あなたの心配事や愚痴（ぐち）を聞いてくれる人はいますか。当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 配偶者
- 同居の子ども
- 別居の子ども
- 兄弟姉妹・親戚・親・孫
- 近 隣
- 友 人
- 同郷団体
- 宗教団体
- 学校関係者（指導教員、留学生センター）
- NGO・NPO
- そのような人はいない
- Other: \_\_\_\_\_

**43.反対に、あなたが心配事や愚痴（ぐち）を聞いてあげる人はいますか。当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 配偶者
- 同居の子ども
- 別居の子ども
- 兄弟姉妹・親戚・親・孫
- 近 隣
- 友 人
- 同郷団体
- 宗教団体
- 学校関係者（指導教員、留学生センター）
- NPO・NGO

そのような人はいない

Other: \_\_\_\_\_

**44.あなたが病気で数日間寝込んだときに看病や世話をしてくれる人はいますか。当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

配偶者

同居の子ども

別居の子ども

兄弟姉妹・親戚・親・孫

近 隣

友 人

同郷団体

宗教団体

学校関係者（指導教員、留学生センター）

NPO・NGO

そのような人はいない

Other: \_\_\_\_\_

**45.反対に、看病や世話をしてあげる人はいますか。当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

配偶者

同居の子ども

別居の子ども

兄弟姉妹・親戚・親・孫

近 隣

友 人

同郷団体

宗教団体

学校関係者（指導教員、留学生センター）

NPO・NGO

そのような人はいない

Other: \_\_\_\_\_

**46.あなたに何か困りごとがあったときに相談できる人や窓口はありますか。当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 同居家族
- 別居の子ども
- 兄弟姉妹・親戚・親・孫
- 近隣・友人
- 自治会・町内会・地域クラブ
- 社会福祉協議会・民生委員
- 医師・歯科医師・看護師
- 地域のセンター・役所・役場
- 同郷団体
- 宗教団体
- 学校関係者（指導教員、留学生センター）
- NGO・NPO
- そのような人はいない
- Other: \_\_\_\_\_

**47.インターネットやメールの使用目的について、当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 使わない
- 健康や医療に関する情報収集・検索
- （健康や医療を除く）各種の情報収集・検索
- 近くに住む友人や同居の家族とのコミュニケーション
- 海外に住む友人や海外の家族とのコミュニケーション
- 地図や交通情報案内
- 商品やサービスの購入
- 銀行取引や株、証券などの取引
- ライン、フェイスブック、ツイッター等
- Other: \_\_\_\_\_

**48.インターネットやメールは何から利用しますか。当てはまるものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- パソコン

- 携帯電話・スマートフォン
- タブレット端末
- 使わない
- Other: \_\_\_\_\_

## 医療機関との関係について（1）

医療費の自己負担（窓口での支払い）についておうかがいします。

**49.日本であなたが病気にかかった場合どのくらいの頻度で医療機関を利用すると思いますか。**

Mark only one oval.

- 定期的に受診すると思う
- 必要な時はいつでも受診すると思う
- できるだけ我慢してから受診すると思う
- 病気になっても受診しないと思う
- わからない

**50.あなたは日本で何かしらの病気にかかったことがありますか。**

Mark only one oval.

- はい
- いいえ      Skip to question 56.

## 医療機関との関係について（2）

**51.1つ前の質問で「はい」と答えた方にお尋ねします。あなたはどのくらいの頻度で医療機関を利用しましたか。**

Mark only one oval.

- 定期的に通院している・いた      Skip to question 53.
- 必要な時はいつでも受診する・した      Skip to question 53.
- できるだけ我慢してから受診する・した      Skip to question 52.
- 病気になっても受診しない・しなかった      Skip to question 52.
- 覚えていない      Skip to question 56.

## 医療機関との関係について（3）

52. 1つ前の質問で「できるだけ我慢してから受診する・した」または「病気になっても受診しない・しなかった」のどちらかを答えた方に質問です。受診を控える理由すべてを選択してください。

Check all that apply.

- 言葉が通じない
- 治療費の負担が大きい
- 健康保険にはっていない
- 交通費の負担が大きい
- どこに相談したらいいかわからない
- 適切な医療機関が近くにない
- 治療の必要性を感じない
- 時間がない
- Other: \_\_\_\_\_

## 医療機関との関係について（4）

53. 担当医は、あなたの症状などについてどの程度話を聞いてくれましたか。一番最近のことを思い出してお答えください。

Mark only one oval.

- とてもよく聞いてくれた
- よく聞いてくれた
- どちらともいえない
- あまり聞いてくれなかった
- ほとんど聞いてくれなかった

54. わからないことについて、担当医もしくは看護師に質問できましたか。

Mark only one oval.

- できた
- まあできた
- どちらともいえない
- あまりできなかった
- まったくできなかった

**55.病院で診療や医療・検査を受けるとき、誰が通訳をしてくれましたか。当てはまるものをすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 有料の医療通訳
- 無料の医療通訳
- 有料の一般通訳
- 無料の一般通訳
- 家族
- 友人
- 医師や看護師など病院のメディカルスタッフ
- 通訳が必要だったが利用しなかった
- 日本語がわかるため通訳は必要ではなかった
- Other: \_\_\_\_\_

## 行政との関係について

窓口サービスについておうかがいします。

**56.地域には、生活や子育て、就労、医療や健康に関する制度やサービスに関わる様々な窓口があります。次の中で、あなたがお存じの窓口はどれですか（名前だけは知っている場合も含みます。）お存じのものすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 市区町村の担当部署
- 福祉事務所
- 保健所・保健センター
- ハローワーク
- 社会福祉協議会
- 地域の民生委員
- 国際交流協会などの外郭団体
- NGO・NPO など
- 学校関係者
- 知っているものはない
- Other: \_\_\_\_\_

**57.今までにあなたが利用したことのある窓口はどれですか。当てはまるものをすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 市区町村の担当部署
- 福祉事務所
- 保健所・保健センター
- ハローワーク
- 社会福祉協議会
- 地域の民生委員
- 国際交流協会などの外郭団体
- NGO・NPO など
- 学校関係者
- 知っているものはない
- Other: \_\_\_\_\_

**58.あなたが、生活や子育て、就労、医療や健康に関する情報を得たい時に、気軽に相談できる窓口もしくは人は誰ですか。当てはまるものをすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 市区町村の担当部署
- 福祉事務所
- 保健所・保健センター
- ハローワーク
- 病院の相談窓口
- 医師・看護師など医療関係者
- 地域のサロンなど
- 民生委員・自治会役員など
- 国際交流協会などの外郭団体
- NGO・NPO など
- 学校関係者
- 家族・親族
- 友人
- 相談できる窓口（人）はない
- Other: \_\_\_\_\_



## 居住する地域との関係について（1）

あなたの住んでいる地域についておうかがいします。

59.あなたにとって「同胞」とはどのような人の集まりを指しますか。以下にお答えください。

---

---

---

---

---

60.あなたの地域に、同胞はどの程度住んでいますか。

Mark only one oval.

- たくさんいる
- ある程度いる
- 少しいる
- いない      Skip to question 64.
- わからない・知らない      Skip to question 64.

## 居住する地域との関係について（2）

61.あなたの地域に住む同胞は、一般的に信用できると思いますか。

Mark only one oval.

- とても信用できる
- まあ信用できる
- どちらともいえない
- あまり信用できない
- 全く信用できない

62.あなたの地域の同胞は、多くの場合、他の人の役に立とうと思いますか。

Mark only one oval.

- とてもそう思う
- まあそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

**63.あなたは、地域内のご近所の同胞とどのようなおつきあいをされていますか。**

Mark only one oval.

- いつでも隠し事なく互いに相談・協力したりしている
- 必要な時に互いに相談・協力したりしている
- 日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている
- あいさつ程度の最小限のつきあいをしている
- つきあいは全くしていない

## 居住する地域との関係について（3）

**64.あなたの地域に住む日本人は、一般的に信用できると思いますか。**

Mark only one oval.

- とても信用できる
- まあ信用できる
- どちらともいえない
- あまり信用できない
- 全く信用できない

**65.あなたの地域の日本人は、多くの場合、他の人の役に立とうと思いますか。**

Mark only one oval.

- とてもそう思う
- まあそう思う
- どちらともいえない
- あまりそう思わない
- 全くそう思わない

**66.あなたは現在住んでいる地域にどの程度愛着がありますか。**

Mark only one oval.

- とても愛着がある
- まあ愛着がある
- どちらともいえない
- あまり愛着がない
- 全く愛着がない

**67.あなたは、地域内のご近所の日本人とどのようなおつきあいをされていますか。**

Mark only one oval.

- いつでも隠し事なく互いに相談・協力したりしている
- 必要な時に互いに相談・協力したりしている
- 日常的に立ち話をする程度のつきあいをしている
- あいさつ程度の最小限のつきあいをしている
- つきあいは全くしていない

**68.あなたの家から徒歩圏内（おおむね1キロ以内）に、運動や散歩に適した公園や歩道は どのくらいありますか**

Mark only one oval.

- たくさんある
- ある程度ある
- あまりない
- まったくない
- わからない

**69.あなたの家から徒歩圏内（おおむね1キロ以内）に、生鮮食料品（肉、魚、野菜、果物 など）が手に入る商店・施設・移動販売はどのくらいありますか**

Mark only one oval.

- たくさんある
- ある程度ある
- あまりない
- まったくない
- わからない

## 健康とストレスについて

あなたの健康とストレスについてお聞きいたします。

**70.あなたは現在、身体に違和感、不快感、痛みがありますか。**

Mark only one oval.

- 全くない
- ほとんどない
- 少しある

- とてもある
- わからない（自分では判断できない）

**71.最近1ヶ月で体重が3 Kg 以上増えたり減ったりしましたか。**

Mark only one oval.

- はい
- いいえ
- 分からない

**72.定期検診を受ける機会がありますか。**

Mark only one oval.

- 1年に1回ある
- 状況に応じてある時とない時がある
- ほとんどない
- 全くない
- わからない

**73.この1年間に起こったことについておうかがいします。当てはまるものをすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 仕事を始めた
- 仕事をやめた
- 子どもや親と同居を始めた
- 一人暮らしを始めた
- 経済的な余裕ができた
- 経済的な困難が増した
- 子どもや孫が生まれた
- 配偶者が亡くなった
- 家族や親しい親類・友人が他界した
- 新しい友人ができた
- 大きな病気にかかった
- 家族の介護を始めた
- 引越しをした
- とくに変化はなかった
- Other: \_\_\_\_\_

74.あなたの最近のご様子についてお聞きします。

Mark only one oval per row.

1.とても 2.やや当 3.どちら 4.あまり 5.全くあ  
 当てはま てはまる とも言え 当てはま てはまら  
 る ない らない ない

何かをする時いつもより集中してできている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
心配事がある、よく眠れないことがある	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
いつもより自分のしていることに生きがいを感じる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
いつもより容易にものごとを決められる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
いつもよりストレスを感じる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問題を解決できなくて困る	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
いつもより日常生活を楽しく送れる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
問題があった時に、いつもより積極的に解決しようとする	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
いつもより気が重くてゆううつになる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自信を失うことがあった	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
自分は役に立たない人間だと考える	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
一般的にみて幸せだと感じる	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

**75.あなたはこの 1 年間に、誰かから次のようなことをされた経験はありますか。当てはまるものをすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 殴られる、けられる、物を投げつけられる、とじこめられるなどの身体的暴行
- 暴言を吐かれる、嫌味を言われる、長い間無視されるなどの自尊心を傷つけられる行為
- だまされたり、裏切られたりした
- あなたの預金や給料を、あなたの了解なしに使ったり取り上げたりされた（家族からも含む）
- 差別的な扱いをされたり、差別的な言葉を受けた
- 以上のことをされたことはない
- Other: \_\_\_\_\_

**76.以下のことについて悩んでいますか。当てはまるものをすべて選択してください。**

Check all that apply.

- 自身や家族の健康
- 恋愛、結婚のこと
- 仕事上のこと
- 日本にとどまるかといった将来計画のこと
- 進学、就職のこと
- 子どもの教育のこと
- 親の扶養、介護
- 住居、住まいのこと
- お金など金銭のこと
- Other: \_\_\_\_\_

## 就労について（1）

現在・過去の就労についておうかがいいたします。

**77.あなたの現在の日本における就労状態はどれですか。**

Mark only one oval.

- 就労している           Skip to question 80.
- 就労していない       Skip to question 78.
- 就労したことがない   Skip to question 79.

## 就労について（2）

78. 1つ前の質問で、「就労していない」と答えた方にお聞きします。現在、仕事を探していますか。

Mark only one oval.

- 探している Skip to question 80.
- 探していない Skip to question 80.

## 就労について（3）

79. 1つ前の質問で、「就労したことがない」と答えた方にお聞きします。現在、仕事を探していますか。

Mark only one oval.

- 探している Skip to question 83.
- 探していない Skip to question 83.

## 就労について（4）

80. 日本における仕事の中で、最も長くつとめた仕事についてお聞きします。その仕事をどのようなかたちでしていましたか。

Mark only one oval.

- 会社役員
- 常勤の雇用者
- 非常勤・臨時・派遣・パート・アルバイト・在宅仕事・内職などの雇用者
- 自営業主・自由業
- 家族従業員

81. これまでの日本における仕事の中で、最も長くつとめた職種はなんですか。

Mark only one oval.

- 専門・技術職
- 管理職
- 事務職
- 販売・サービス職
- 農林漁業職
- 農林漁業以外の自営職
- Other: \_\_\_\_\_

82.あなたの日本において最も長くつとめた会社・組織全体には、何人ぐらいの方が働いていましたか。

Mark only one oval.

- 1～9人
- 10～49人
- 50～499人
- 500～9,999人
- 1万人以上
- わからない

## 就労について（5）

83.これまで日本以外の国（例：出身国など）における仕事の中で最も長くつとめた仕事についてお聞きします。あなたはどのようなかたちでお仕事をしていましたか。

Mark only one oval.

- 会社役員
- 常勤の雇用者
- 非常勤・臨時・派遣・パート・アルバイト・在宅仕事・内職などの雇用者
- 自営業主・自由業
- 家族従業員
- 日本以外の国で（または、日本以外の国でも）職に就いたことがない      After the last question in this section, skip to question 86.

84.これまで日本以外の国（例：出身国など）における仕事の中で、最も長くつとめた職種はなんですか。

Mark only one oval.

- 専門・技術職
- 管理職
- 事務職
- 販売・サービス職
- 技能・労務職
- 農林漁業職
- 農林漁業以外の自営職
- Other: \_\_\_\_\_



**85.出身国において最も長くつとめた会社・組織全体には、何人ぐらいの方が働いていましたか**

Mark only one oval.

- 1～9人
- 10～49人
- 50～499人
- 500～9,999人
- 1万人以上
- わからない

**最後に**

これが最後の質問となります。

**86.日本での生活について評価してください**

Mark only one oval per row.

	1. 非常に満足している	2. 満足している	3. どちらとも言えない	4. 満足していない	5. 全く満足していない
給料や収入について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
住居について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
仕事について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日本人との関係について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
教育・学業について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
食生活について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
日常生活について	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「国際移動の実践科学：ソーシャルキャピタルと移住者の就労、生活、健康」調査報告書

編者：調査ワーキンググループ